目 次

第1号（6月11日）

出席及び欠席議員	1
職務のため議場に出席した者の職、氏名	1
説明のため出席した者の職、氏名	1
議事日程	2
本日の会議に付した事件	2
開 会	3
会議録署名議員の指名	3
会期の決定	3
諸般の報告	4
議案第45号 専決処分の承認を求めることについて	5
議案第46号 令和6年度錦町一般会計補正予算（第1号）	17
議案第47号 令和6年度錦町介護保険特別会計補正予算（第1号）	17
議案第48号 令和6年度錦町水道事業会計補正予算（第1号）	17
議案第49号 令和6年度錦町下水道事業会計補正予算（第1号）	17
議案第50号 錦町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例	23
議案第51号 錦町重度心身障がい者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例	24
議案第52号 錦町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防 のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	25
議案第53号 錦町ふるさと・水と土保全基金の設置、管理及び処分に関する条例を廃止する条例	26
議案第54号 錦町相撲場の設置及び管理に関する条例を廃止する条例	27
議案第55号 町道山江錦線（木綿葉大橋）下部工補修補強工事（2期）請負変更契約について	28
議案第56号 水無川橋下部工工事請負変更契約について	29
議案第57号 町道風月野線法面対策工事（2期）請負変更契約について	31
議案第58号 財産の取得について	32
諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	33
報告第2号 令和5年度錦町一般会計繰越明許費繰越計算書	33
報告第3号 令和5年度錦町一般会計事故繰越し繰越計算書	33
報告第4号 令和5年度錦町水道事業会計予算繰越計算書	33
報告第5号 議会の委任による専決処分の報告について	35
休会の件	36
散 会	36

第2号（6月13日）

出席及び欠席議員	37
職務のため議場に出席した者の職、氏名	37

説明のため出席した者の職、氏名	37
議事日程	38
本日の会議に付した事件	38
開 議	38
一般質問	38
1番 谷口 一也君	38
2番 丸小野聖一君	44
8番 岡田 武志君	52
5番 吉田 眞二君	63
10番 金山 民幸君	69
3番 梶原 誠二君	76
散 会	81

第3号（6月14日）

出席及び欠席議員	83
職務のため議場に出席した者の職、氏名	83
説明のため出席した者の職、氏名	83
議事日程	84
本日の会議に付した事件	84
開 議	84
一般質問	84
6番 石松まゆ子君	84
4番 早田 和彦君	95
議案第46号 令和6年度錦町一般会計補正予算（第1号）	103
議案第47号 令和6年度錦町介護保険特別会計補正予算（第1号）	103
議案第48号 令和6年度錦町水道事業会計補正予算（第1号）	104
議案第49号 令和6年度錦町下水道事業会計補正予算（第1号）	104
議員派遣の件について	105
委員会の閉会中の継続調査申し出について	105
閉 会	105
署 名	106

令和6年 第2回 錦町議会定例会議録 (第1号)

招集年月日	令和6年 6月11日	招集の場所	錦町議会議場		
開閉会日時及び宣告	開会 散会	令和6年 6月11日 令和6年 6月11日	午前10時00分 午後 2時05分		
出席及び欠席議員	議席 番号	氏 名	議席 番号	氏 名	
出席議員 12名	1	出 谷 口 一 也	10	出 金 山 民 幸	
欠席議員 0名	2	〃 丸小野 聖 一	11	〃 高 田 孝 徳	
	3	〃 梶 原 誠 二	12	〃 荒 川 孝 一	
凡例	4	〃 早 田 和 彦			
出 出席	5	〃 吉 田 眞 二			
欠 欠席	6	〃 石 松 まゆ子			
公欠 公務欠席	7	〃 竹 田 農利人			
	8	〃 岡 田 武 志			
	9	〃 池 田 秀 晴			
会議録署名議員	10	金 山 民 幸	11	高 田 孝 徳	
職務のため議場に出席した者の職、氏名		議会事務局長 蓑 田 和 也			
地方自治法第121条第1項の規定により説明のため出席した者の職、氏名					
職	氏 名	職	氏 名	職	氏 名
町 長	森 本 完 一	住民福祉課 課長	山 園 琢 磨	農林振興課 課長	有 瀬 耕 二
副町長		保険政策課 課長	吉 田 誠 二	地域整備課 課長	上 野 陽 一
総務課長	深 水 英 雄	健康増進課 課長	東 貴 志	農業委員会事務局長	高 波 昌 一
教育長	毎 床 三喜男	税務課長	蓑 田 俊 哉	教育振興課 課長	尾 方 良 一
会計管理者	白 川 裕 美	企画観光課 課長	岩 尾 和 文		
議 事 日 程	別紙のとおり				
会議に付した事件	別紙のとおり				
会 議 の 経 過	別紙のとおり				

議事日程

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 諸般の報告
- 日程第4 議案第45号 専決処分の承認を求めることについて
専第2号 令和5年度錦町一般会計補正予算（第11号）
専第3号 令和5年度錦町国民健康保険特別会計補正予算（第6号）
専第4号 令和5年度錦町介護保険特別会計補正予算（第6号）
専第5号 令和5年度錦町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）
専第6号 錦町税条例の一部を改正する条例
- 日程第5 議案第46号 令和6年度錦町一般会計補正予算（第1号）
- 日程第6 議案第47号 令和6年度錦町介護保険特別会計補正予算（第1号）
- 日程第7 議案第48号 令和6年度錦町水道事業会計補正予算（第1号）
- 日程第8 議案第49号 令和6年度錦町下水道事業会計補正予算（第1号）
- 日程第9 議案第50号 錦町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第10 議案第51号 錦町重度心身障がい者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第11 議案第52号 錦町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
- 日程第12 議案第53号 錦町ふるさと・水と土保全基金の設置、管理及び処分に関する条例を廃止する条例
- 日程第13 議案第54号 錦町相撲場の設置及び管理に関する条例を廃止する条例
- 日程第14 議案第55号 町道山江錦線（木綿葉大橋）下部工補修補強工事（2期）請負変更契約について
- 日程第15 議案第56号 水無川橋下部工工事請負変更契約について
- 日程第16 議案第57号 町道風月野線法面对策工事（2期）請負変更契約について
- 日程第17 議案第58号 財産の取得について
- 日程第18 諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて
- 日程第19 報告第2号 令和5年度錦町一般会計繰越明許費繰越計算書
- 日程第20 報告第3号 令和5年度錦町一般会計事故繰越し繰越計算書
- 日程第21 報告第4号 令和5年度錦町水道事業会計予算繰越計算書
- 日程第22 報告第5号 議会の委任による専決処分の報告について
専第7号 和解及び損害賠償額の決定について
- 日程第23 休会の件

本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 諸般の報告
- 日程第4 議案第45号 専決処分の承認を求めることについて

- 専第2号 令和5年度錦町一般会計補正予算（第11号）
専第3号 令和5年度錦町国民健康保険特別会計補正予算（第6号）
専第4号 令和5年度錦町介護保険特別会計補正予算（第6号）
専第5号 令和5年度錦町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）
専第6号 錦町税条例の一部を改正する条例
- 日程第5 議案第46号 令和6年度錦町一般会計補正予算（第1号）
日程第6 議案第47号 令和6年度錦町介護保険特別会計補正予算（第1号）
日程第7 議案第48号 令和6年度錦町水道事業会計補正予算（第1号）
日程第8 議案第49号 令和6年度錦町下水道事業会計補正予算（第1号）
日程第9 議案第50号 錦町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例
日程第10 議案第51号 錦町重度心身障がい者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例
日程第11 議案第52号 錦町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
日程第12 議案第53号 錦町ふるさと・水と土保全基金の設置、管理及び処分に関する条例を廃止する条例
日程第13 議案第54号 錦町相撲場の設置及び管理に関する条例を廃止する条例
日程第14 議案第55号 町道山江錦線（木綿葉大橋）下部工補修補強工事（2期）請負変更契約について
日程第15 議案第56号 水無川橋下部工工事請負変更契約について
日程第16 議案第57号 町道風月野線法面対策工事（2期）請負変更契約について
日程第17 議案第58号 財産の取得について
日程第18 諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて
日程第19 報告第2号 令和5年度錦町一般会計繰越明許費繰越計算書
日程第20 報告第3号 令和5年度錦町一般会計事故繰越し繰越計算書
日程第21 報告第4号 令和5年度錦町水道事業会計予算繰越計算書
日程第22 報告第5号 議会の委任による専決処分の報告について
専第7号 和解及び損害賠償額の決定について
- 日程第23 休会の件

午前10時00分開会

○議長（荒川 孝一君） 定刻となり、出席議員が定足数に達しておりますので、ただ今から令和6年第2回錦町議会議定例会を開会し、直ちに開議いたします。

本日の日程は、お手元に配付してある日程表のとおりであります。

日程第1. 会議録署名議員の指名

○議長（荒川 孝一君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本定例会の会議録署名議員は、10番、金山民幸議員、11番、高田孝徳議員を指名します。

日程第2. 会期の決定

○議長（荒川 孝一君） 日程第2、会期の決定についてを議題とします。

本定例会の会期は、去る6月4日に議会運営委員会を開催し、御協議を願っております。結果について報告願います。議会運営委員長、岡田武志議員。

○議会運営委員長（岡田 武志君） おはようございます。議会運営委員長の岡田武志です。

去る6月4日に議会運営委員会を開催し、令和6年第2回錦町議会定例会の会期については、次のとおり協議しましたので報告いたします。

会期は、令和6年6月11日火曜日から6月14日金曜日までの4日間です。

11日火曜日は本会議、12日水曜日は各常任委員会、13日木曜日から14日金曜日は本会議となります。なお、一般質問は13日木曜日と14日金曜日の午前に行います。

以上で、議会運営委員会の報告を終わります。

○議長（荒川 孝一君） お諮りします。本定例会の会期は、議会運営委員長の報告のとおり、本日から14日までの4日間とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、本定例会の会期は、本日から14日までの4日間とすることに決定しました。

日程第3. 諸般の報告

○議長（荒川 孝一君） 日程第3、諸般の報告を行います。

お諮りします。報告の中で、字句、数字、その他文言整理を要するものがありましたら、その整理を議長に委任されたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、整理については、議長に委任することに決定しました。

まず、議長が報告します。諸般の報告。報告議員、荒川孝一。

1、組合等名、球磨郡議長会。2、報告件名、下記のとおり。3、開催日及び場所、下記のとおり。4、内容（要点）。

（1）4月定例郡議長会議、日時、4月11日（木曜）午後3時、場所、球磨地域振興局。

協議事項。①球磨川の河川整備と道路をめぐる最近の動きについて、②令和6年度全国町村議会議長・副議長研修会開催について、③令和6年度熊本県町村議会議長研修会及び臨時総会の開催について。

（2）熊本県町村議会議長会臨時総会、日時、5月14日（火曜）午後3時15分、場所、熊本県市町村自治会館。
議事日程。第1、会議録署名人の指名、第2、選挙第1号監事1名の補欠選挙。

（3）5月定例郡議長会議、日時、5月16日（木曜）午後4時、場所、球磨地域振興局寺町別館。

協議事項。①球磨川の河川整備と道路をめぐる最近の動きについて、②令和6年度全国町村議会議長・副議長研修会開催について、③人吉市議会との合同勉強会の開催について、④県庁織月会の開催について、⑤球磨郡ポンプ操法大会の後援依頼について。

以上であります。

次に、人吉球磨広域行政組合議員、早田和彦議員。

○人吉球磨広域行政組合議員（早田 和彦君） おはようございます。では、諸般の報告をいたします。報告議員、早

田和彦。

1、組合等名、人吉球磨広域行政組合。2、報告件名、下記のとおり。3、開催日及び場所、下記のとおり。4、内容（要点）。

(1) 令和6年第1回人吉球磨広域行政組合議会定例会、日時、令和6年3月25日（月曜日）午前10時、場所、人吉球磨クリーンプラザ大会議室。

議事日程。日程第1、一般質問、日程第2、議案第1号人吉球磨広域行政組合会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について、日程第3、議案第3号令和6年度人吉球磨広域行政組合一般会計予算、日程第4、議案第4号令和6年度人吉球磨広域行政組合一般会計経費の負担金の総額、日程第5、委員会の閉会中の継続調査について。

(2) 令和6年第2回人吉球磨広域行政組合議会臨時会、日時、令和6年5月30日（木曜日）午前10時、場所、人吉球磨クリーンプラザ大会議室。

議事日程。日程第1、議席の指定、日程第2、会議録署名議員の指名、日程第3、会期の決定、日程第4、議会運営委員の選出、日程第5、報告第1号令和5年度人吉球磨広域行政組合一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について、日程第6、議員の派遣について。

以上、報告をいたします。

○議長（荒川 孝一君） これで諸般の報告を終わります。

日程第4. 議案第45号

○議長（荒川 孝一君） 日程第4、議案第45号専決処分の承認を求めることについてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。森本町長。

○町長（森本 完一君） おはようございます。本日は、令和6年第2回錦町議会定例会を招集しましたところ、議員各位におかれましては、大変お忙しい中に御出席を賜りありがとうございます。

先日の8日、9日と小雨が降りましたので、平年よりも遅い梅雨入りかと思いましたが、今朝の新聞の天気予想図を見ますと、今週も梅雨入りは、なしが続くのではないかと判断し、何となく今年の梅雨期の不安定さを感じたところでございます。

4年前のあの大きな大災害がありましたように、近年は想定外の大雨になることもありますので、常に緊張感を持って町民の皆様が安心・安全に暮らしていただけるよう、しっかりと対策を講じてまいります。

議員各位の御指導、御協力をよろしく願いいたします。

それでは、提案理由を述べます。

議案第45号専決処分の承認を求めることについてでございます。

専第2号令和5年度錦町一般会計補正予算（第11号）、専第3号令和5年度錦町国民健康保険特別会計補正予算（第6号）、専第4号令和5年度錦町介護保険特別会計補正予算（第6号）、専第5号令和5年度錦町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）、専第6号錦町税条例の一部を改正する条例、以上5件につきましては、地方自治法第179条第1項の規定により専決処分をいたしましたので、今回、同条第3項の規定により承認を頂きたいと提案をするものでございます。

詳細につきましては、担当課長が説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御承認賜りますようお願い申し上げます。提案理由の説明といたします。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） 議案第45号専決処分の承認を求めることについてですが、内容は令和5年度各会計の補正予算4件及び条例改正1件を専決処分しておりますので、その承認を求めるものです。

初めに、令和5年度各会計予算の推移を御覧ください。

2段目の右端が今回の3月専決分となります。いずれの補正も執行残の減額など最終的な調整が主なものです。

まず、専第2号の一般会計補正予算は、歳入歳出それぞれ9,412万6,000円を減額し、予算の総額を78億529万8,000円とする案件と地方債の補正です。

次に、専第3号の国民健康保険特別会計補正予算は、歳入歳出それぞれ4,368万8,000円を減額し、予算の総額を13億7,348万6,000円とするものです。

次に、専第4号の介護保険特別会計補正予算は、歳入歳出それぞれ4,040万8,000円を減額し、予算の総額を12億993万1,000円とするものです。

次に、専第5号の後期高齢者医療特別会計補正予算は、歳入歳出それぞれ362万6,000円を減額し、予算の総額を1億4,130万2,000円とするものです。

それでは、令和5年度各会計補正予算の主な内容を御説明いたします。

まず、一般会計です。

議案つづりの10ページをお願いいたします。

第2表、地方債補正、変更が3件です。

まず、1番目から、起債の目的は、緊急しゅんせつ推進事業（緊急しゅんせつ推進事業債）ですが、限度額を320万円減額し、起債の限度額を2,780万円とするものです。

内容は、一武、志戸内川ほか2河川のしゅんせつ事業費の確定により借入額を減額するものです。

次に、緊急自然災害防止事業（緊急自然災害防止対策事業債）ですが、限度額を80万円減額し、起債の限度額を6,690万円とするものです。

木上地区町道目郎第一線の排水対策工事費確定に伴い、減額するものです。

次に、道路側溝改修・舗装復旧事業（公共施設等適正管理推進事業債）ですが、限度額を10万円減額し、起債の限度額を3,900万円とするものです。舗装復旧事業費の確定に伴い、減額をするものです。

以上3件については、起債の方法、利率、償還の方法について補正前と変更はございません。

次に、16ページをお願いいたします。

まず、一般会計の歳入から御説明いたします。

補正の内容については、ほとんどが補助金や交付金の交付決定額の確定による歳入予算額の調整となりますので、目単位で100万円を超える増減について説明をさせていただき、特に必要な事項については、説明欄などを用いて説明させていただきますので御了承をお願いいたします。

初めに、総務課関係からです。

4番目の欄の2款2項1目1節自動車重量譲与税277万円と、続きまして18ページになります、18ページの4番目の欄です。6款1項1目1節法人事業税交付金570万6,000円。次の8款1項1目1節ゴルフ場利用税交付金225万6,000円。また飛びまして、次のページの20ページの一番上になります。9款1項1目1節環境性能割交付金217万円。これらは、いずれも交付額確定による増額となります。

次に、34ページをお願いいたします。34ページの2番目の欄です。

16款3項1目総務費委託金5節県知事選挙委託金は、県知事選挙執行経費確定による減額となります。

次に、40ページの下の欄になります。

22款町債につきましては、第2表、地方債補正で御説明したとおりとなります。

次に歳出です。

42ページをお願いいたします。

まず、一般的なことを申し上げますと、今回の補正予算では、職員給料、手当、共済費など職員人件費について不用額の調整を行っておりますので、その部分の説明については割愛させていただきます。

また、歳入と同様、歳出も支出額の確定による不用額の調整が主なものとなりますので、目単位で100万円を超える増減について説明させていただき、特に必要な事項については、説明欄の事業名等により説明させていただきますので、御了承をお願いいたします。

初めに、1款1項1目議会費、減額の主なものは、8節旅費の費用弁償、上京陳情等普通旅費の減額と議事録手数料の減額となります。

下の欄になります。

2款1項1目一般管理費10節需用費は、公用車の燃料費や修繕料、11節役務費は、後納郵便料など実績による不用額の減額となります。

次に、44ページをお願いいたします。

2目電算管理費10節需用費は、電算システムのカラーの専用紙、封筒印刷分、あと13節使用料及び賃借料は、システムリース費用等の執行残となります。

次の5目財産管理費は、主に10節需用費で、庁舎及び公共施設等の電気料、修繕料等の減額、12節委託料は、主に支障木伐採の入札残となります。

次に、10目減債基金費24節積立金1億9,447万2,000円は、今回の補正における歳入歳出額の調整額等を財源として減債基金に積み立てるものです。この積立てにより、基金残高は約8億8,000万円となります。

次に、一番下の12目ふるさと錦ゆかり基金費24節積立金の減額は、寄附額確定による減額となります。

次に、48ページ、下の欄です。

2款4項7目熊本県知事選挙費、減額の167万4,000円のうち主なものは、3節職員手当等で職員の時間外手当分となります。

次、飛びまして94ページをお願いいたします。

12款1項2目利子22節償還金利子及び割引料、減額の118万7,000円は、借入実績に基づく減額となります。

総務課関係は以上となります。

○議長（荒川 孝一君） 山園住民福祉課長。

○住民福祉課長（山園 琢磨君） 住民福祉課関係について御説明いたします。

20、21ページをお願いします。3段目です。

13款2項1目民生費負担金、減額111万5,000円のうち、2節保育料負担金、減額138万7,000円は、保育料確定に伴う減額です。

24、25ページをお願いします。下段です。

15款1項1目民生費国庫負担金、減額667万6,000円のうち、1節障がい者福祉費負担金、減額145万

4,000円は、更生医療給付、障がい者自立支援・補装具給付費、障がい児通所給付費事業の負担金決定による予算額の調整です。

26、27ページをお願いします。上段です。

4節児童手当国庫負担金、減額523万9,000円は、負担金決定に伴う減額です。

下段です。15款2項2目民生費国庫補助金、減額237万3,000円のうち、1節障がい者福祉費補助金、減額136万6,000円は、補助金確定による減額です。

2節児童福祉費補助金、減額107万1,000円は、子ども子育て支援交付金、子育て世代への臨時特別給付金、出産・子育て応援交付金の交付決定による予算額の調整です。

28、29ページをお願いします。下段です。

16款1項1目民生費県負担金、減額264万7,000円のうち、1節障がい者福祉費負担金、減額140万8,000円は、更生医療給付事業費、障がい児通所給付費等負担金の交付決定による予算額調整です。

次に、30、31ページをお願いします。上段です。

4節児童手当県負担金、減額102万9,000円は、負担金決定に伴う減額です。

16款2項1目総務費県補助金、減額225万1,000円のうち、13節結婚新生活支援事業補助金、減額155万4,000円は、補助金決定による減額です。

同項2目民生費県補助金、減額1,175万4,000円のうち、1節社会福祉費補助金、減額352万1,000円は、重度心身障がい者医療費助成事業、障がい者住宅改修助成事業費、地域生活支援事業補助金の交付決定による減額です。

2節児童福祉費補助金、減額842万1,000円は、放課後児童健全育成事業、多子世帯子育て支援事業費、延長保育促進事業、病後児保育事業、子育て支援強化事業、子どものための教育・保育給付費、出産・子育て応援交付金、子ども・子育て支援施設整備交付金の交付決定による減額です。

次に、38、39ページをお願いします。下段です。

21款4項2目過年度収入1節過年度収入113万5,000円のうち、令和4年度障がい者医療費国庫負担金53万6,000円、令和4年度熊本県障がい者自立支援医療費負担金9万6,000円と24万4,000円は、過年度分の国庫支出金です。

40、41ページをお願いします。上段です。

21款5項1目貸付金元利収入1節貸付金元利収入174万2,000円は、令和2年7月豪雨災害援護資金借受人元利償還金で11月から償還開始された3件分を計上しています。

次に歳出です。

46、47ページをお願いします。2段目です。

2款1項15目結婚相談推進費18節負担金補助及び交付金、減額243万円は、結婚新生活支援事業費補助金の実績による減額です。

48、49ページをお願いします。上段です。

2款3項1目戸籍住民基本台帳費、減額145万2,000円のうち主なものは、3節職員手当等、減額67万8,000円で、時間外手当で個人番号カード交付事業の実績による減額と12節委託料、減額39万5,000円で、戸籍クラウド導入委託料の入札残の減額です。

52、53ページをお願いします。下段です。

3款1項1目社会福祉総務費、減額3,418万5,000円のうち主なものは、7節報償費、減額420万円で、子宝祝い金交付事業、12節委託料、減額267万2,000円は、一般事務費、障がい者福祉事業の実績による減額です。

54、55ページをお願いします。

19節扶助費、減額2,143万円は、障がい者福祉サービス事業、障がい児福祉サービス事業、重度心身障がい者医療費助成事業、地域生活支援事業、更生医療給付事業、障がい者支援事業の実績による減額です。

56、57ページをお願いします。下段です。

3款1項6目給付金支給事業、減額387万3,000円のうち主なものは、12節委託料、減額148万2,000円、18節負担金補助及び交付金、減額209万円で、電気・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金支給事業の実績による減額です。

次に、58、59ページをお願いします。

3款2項1目児童福祉総務費、減額1,600万5,000円のうち主なものは、18節負担金補助及び交付金、減額1,536万9,000円で、放課後児童健全育成事業、出産・子育て応援交付金事業の実績による減額です。

同項2目児童措置費、減額867万円のうち主なものは、19節扶助費、減額754万円で、児童手当交付金事業の実績による減額です。

同項4目保育所費18節負担金補助及び交付金、減額3,736万2,000円のうち私立保育園負担金、減額310万8,000円は、給付費の実績による減額です。

一般事務費補助金、減額835万円は、放課後児童健全育成事業、多子世帯子育て支援事業、延長保育促進事業、病後児保育事業、子育て支援強化事業、子どものための教育・保育給付費事業の実績による減額です。

保育所等施設整備事業、減額2,590万4,000円は、木上ひかり保育園分の入札残による減額です。

次に、62、63ページをお願いします。下段です。

4款2項1目清掃総務費、減額144万8,000円のうち主なものは、10節需用費、減額81万4,000円で、パッカー車の修繕料の執行残です。

以上で、住民福祉課分の説明を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 岩尾企画観光課長。

○企画観光課長（岩尾 和文君） 企画観光課関係を御説明いたします。

歳入です。

26、27ページをお開きください。2段目です。

15款2項1目総務費国庫補助金、減額の1,320万7,000円のうち、21節新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金、減額の66万3,000円は、価格高騰重点支援分で、住民福祉課所管の低所得世帯給付金事業確定に伴う減額です。

22節デジタル田園都市国家構想推進交付金、減額の1,101万8,000円の内訳としましては、デジタル実装タイプ、減額の1,088万2,000円は、企画観光課所管の情報配信サービスプラットフォーム構築事業、保険政策課所管の球磨郡介護保険総合ネットワーク整備事業の実績に伴う減額です。

地方創生推進タイプ、減額の13万6,000円は、企画観光課所管の空がつなぐヒト・コト・モノ交流推進プロジェクト、情報技術の推進による持続可能なまちづくり事業の実績に伴う減額です。

次に、36、37ページをお開きください。上段です。

18款1項2目1節ふるさと錦寄附金、減額の4,663万3,000円は、寄附額確定に伴う減額です。歳入は以上です。

次に歳出です。

46、47ページをお開きください。上から3番目です。

2款1項23目にしき・まち・ひと・しごと創生推進基金費、減額の187万円です。内容としましては、企業版ふるさと納税の寄附額確定に伴う役務費、委託料、使用料及び賃借料の減額です。

次に、50ページ、51ページをお開きください。下段です。

2款7項1目企画費、減額の132万7,000円です。主なものとしましては、18節負担金補助及び交付金、減額の73万3,000円で移住定住関連補助金の執行残です。

次のページをお開きください。中ほどです。

5目錦ネット通信事業費、減額の530万9,000円です。主なものとしまして、12節委託料、減額の467万3,000円は、光ケーブル宅内引込み業務等の執行残になります。

次に、68、69ページをお開きください。下段です。

7款1項1目商工総務費、減額の138万4,000円です。主なものとしましては、12節委託料、減額の122万6,000円で、全世帯商品券配布事業の事業費確定に伴う減額です。

次のページをお開きください。中ほどです。

4目ふるさと納税事業費、減額の3,021万9,000円です。主なものとしまして、11節役務費、減額の137万円、12節委託料、減額の1,420万2,000円、13節使用料及び賃借料、減額の1,414万9,000円は、ふるさと納税事業に係る収納代行・決済手数料、代行業務委託料、ポータルサイト成果連動使用料の減額で、寄附額の確定によるものです。

企画観光課関係の説明は以上となります。

○議長（荒川 孝一君） 箕田税務課長。

○税務課長（箕田 俊哉君） 税務課関係を説明いたします。

議案つづり16、17ページをお願いいたします。

歳入です。

1款4項1目1節市町村たばこ税、現年課税分、増額269万9,000円は、収納実績によるものです。

次に歳出です。

議案つづり46、47ページをお願いいたします。

2款2項1目税務総務費、減額の294万円です。内容は、3節職員手当のうち時間外勤務手当、減額の36万9,000円、22節償還金利子及び割引料、減額の257万1,000円です。共に実績によるものです。

次に、令和5年度錦町国民健康保険特別会計補正予算について説明いたします。

議案つづり110、111ページをお願いいたします。

1款1項1目一般国民健康保険税、増額の516万3,000円、内訳は、1節医療給付費分現年課税分、増額325万9,000円、2節後期高齢者支援金分現年課税分、増額111万円、3節介護納付金分現年課税分、増額44万円、4節医療給付費分滞納繰越分、増額21万8,000円、5節後期高齢者支援金分滞納繰越分5万5,000円、6節介護納付金分滞納繰越分8万1,000円。

議案つづり114、115ページをお願いいたします。

8款1項1目一般被保険者延滞金、増額101万4,000円、いずれも収納実績によるものです。

以上、税務課関係の説明を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 吉田保険政策課長。

○保険政策課長（吉田 誠二君） 保険政策課関係を説明いたします。

一般会計の歳入になります。

20ページ、21ページをお願いいたします。

13款2項1目民生費負担金、減額111万5,000円のうち、1節老人福祉措置費負担金27万2,000円は、老人福祉施設入所者負担金の負担金確定によるものです。

26ページ、27ページをお願いします。

15款2項2目民生費国庫補助金、減額237万3,000円。次のページをお願いいたします。4節社会福祉費補助金6万4,000円のうち年金市町村事務取扱交付金8万1,000円は、補助金確定によるものです。

38ページ、39ページをお願いします。

21款3項5目1節後期高齢者受託事業収入、減額142万4,000円は、後期高齢者健診の確定によるものです。

歳入は以上になります。

次に歳出です。

52ページ、53ページをお願いします。

3款1項1目社会福祉総務費、減額3,418万5,000円のうち、次のページをお願いします。27節繰出金、減額454万4,000円は、国民健康保険特別会計への繰出金で国民健康保険特別会計の歳入で説明いたします。

2目老人福祉費、減額1,334万6,000円、次のページをお願いいたします。27節繰出金、減額1,153万8,000円は、介護保険特別会計への繰出金で介護保険特別会計の歳入で説明いたします。

5目後期高齢者医療事業費、減額166万5,000円。主なものは12節委託料、減額134万6,000円で、健診業務委託料の執行額の確定によるものです。

一般会計は以上です。

次に、特別会計について説明いたします。

最初に、国民健康保険特別会計の歳入です。

112ページ、113ページをお願いいたします。

4款1項3目保険給付費等交付金、減額3,274万2,000円。内訳は、1節保険給付費等交付金（普通交付金）、減額3,574万3,000円と2節保険給付費等交付金（特別交付金）300万1,000円です。県の交付金確定によるものです。

6款1項1目一般会計繰入金、減額454万4,000円。内訳は、4節職員給与費等繰入金、減額240万1,000円、5節出産育児一時金等繰入金、減額180万9,000円、6節財政安定化支援事業繰入金、減額33万4,000円で歳出額の確定によるものです。

次のページをお願いいたします。

7款1項2目1節その他繰越金、減額1,268万円は、前年度繰越金で財源調整になります。

歳入は以上です。

次のページをお願いいたします。

歳出です。

2款1項1目一般被保険者療養給付費、減額2,308万9,000円は、18節負担金補助及び交付金で執行額の確定によるものです。

2項1目一般被保険者高額療養費837万2,000円は、18節負担金補助及び交付金で執行額の確定によるものです。

次のページをお願いいたします。

2款4項1目出産育児一時金、減額267万2,000円は、18節負担金補助及び交付金で執行額の確定によるものです。

次のページをお願いいたします。

6款1項1目特定健康診査等事業費、減額581万6,000円。主なものは12節委託料、減額540万円で特定健康診査業務委託料の執行額の確定によるものです。

国民健康保険特別会計は以上です。

次に、介護保険特別会計の歳入です。

136ページ、137ページをお願いいたします。

1款1項1目第1号被保険者保険料139万円は、徴収見込額によるものです。

6款1項1目介護給付費繰入金、減額1,177万4,000円、4目その他一般会計繰入金118万6,000円は、歳出額の確定によるものです。

2項2目介護給付費準備基金繰入金、減額2,000万円は、繰入れの必要がなかったため全額を減額するものです。

次のページをお願いいたします。

7款1項1目繰越金、減額1,026万円は、前年度繰越金で財源調整になります。

歳入は以上です。

次のページをお願いいたします。

歳出です。

2款1項1目居宅介護サービス給付費、減額1,793万3,000円、3目地域密着型介護サービス給付費、減額1,820万7,000円、5目施設介護サービス給付費、減額1,512万1,000円。次のページをお願いいたします。9目居宅介護サービス計画給付費、減額236万7,000円、2項6目介護予防住宅改修費、減額112万1,000円、5項1目特定入所者介護サービス費、減額1,114万5,000円は、いずれも18節負担金補助及び交付金で執行額の確定によるものです。

次のページをお願いいたします。

7款1項1目介護給付費準備基金積立金2,800万円は、令和5年度の繰越金を6,200万円程度と見込んで積み立てるものです。

介護保険特別会計については以上です。

後期高齢者医療特別会計の歳入です。

158ページ、159ページをお願いいたします。

1款1項1目特別徴収保険料、減額1,183万1,000円、2目普通徴収保険料803万4,000円は、徴収見込額によるものです。

歳入は以上です。

次のページをお願いいたします。

歳出です。

2款1項1目後期高齢者医療広域連合納付金、減額330万6,000円は、納付金確定によるものです。

以上で、保険政策課関係の説明を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 東健康増進課長。

○健康増進課長（東 貴志君） 健康増進課関係の説明をいたします。

歳出になります。

議案つづり60、61ページをお願いいたします。中ほどになります。

4款1項2目予防費120万7,000円の減額です。内訳は、12節委託料100万円の減額です。予防接種事業における各種予防接種委託料残額分の減額です。18節負担金補助及び交付金20万7,000円の減額、鍼灸マッサージ補助事業における補助金額の確定に伴う減額が内訳となります。

次の62、63ページをお願いします。

同項11目感染症特別対策事業費282万4,000円の減額です。新型コロナウイルスワクチン接種事業費に係るものです。主な内訳として、3節職員手当等で88万4,000円の減額です。時間外勤務手当77万円、パートタイム会計年度任用職員期末手当11万4,000円の減額。12節委託料、新型コロナワクチン接種業務委託料執行見込残額として149万7,000円の減額が主な内訳です。

以上で、健康増進課関係の説明を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） 農林振興課関係を説明いたします。

議案つづり20ページ、21ページをお願いします。

歳入からです。

13款1項1目1節農業費分担金883万3,000円のうち、国営川辺川総合土地改良事業受益者分担金882万5,000円は、受益者からの繰上償還に伴う増額になります。

次に、30ページ、31ページをお願いします。下段になります。

16款2項1目18節球磨川流域復興基金交付金、減額の62万6,000円は、畜産物輸出再開・拡大支援事業補助金で、ゼンカイミート株式会社のハラール認証再取得に係る補助金です。令和5年度事業費の確定によるものです。

次のページをお願いします。中ほどです。

4目3節林業費補助金、減額の860万7,000円は、造林事業補助金で施業実績に伴う減額です。

次に、8目1節農地災害復旧費補助金923万3,000円、1つ飛びまして、3節林業施設災害復旧費補助金、減額の1,430万1,000円は、補助率のかさ上げによる増額及び事業費の確定見込みによる減額です。

次のページをお願いします。一番下になります。

17款2項1目2節その他不動産売払い収入、減額の1,237万円は、立木売払い収入で、実績及び一部の原木が令和6年4月開催の競り市への出品となり、令和6年度収入になったことによる減額です。

次のページをお願いします。下から2段目です。

19款2項12目1節森林環境譲与税基金繰入金、減額の132万5,000円は、繰入金充当予定でありました

森林整備事業、支障木伐採事業等の事業費の確定によるものです。

次のページをお願いします。下段です。

21款4項1目1節雑入、減額286万3,000円のうち、鳥獣被害防止緊急捕獲等対策推進交付金、減額の311万9,000円は、交付決定によるものです。

次に歳出です。

64ページ、65ページをお願いします。下段です。

6款1項2目農業総務費3節職員手当等、減額の160万4,000円は、時間外勤務手当で実績によるものです。

次に、4目畜産業費、補正額減額の182万1,000円のうち、18節負担金補助及び交付金、減額の146万6,000円は、主なものとしまして、優良子牛保留事業補助金及び畜産物輸出再開・拡大支援事業補助金の実績によるものです。

次のページをお願いします。下段です。

2項1目林業総務費3節職員手当等、減額の106万2,000円は、時間外勤務手当で実績によるものです。

次に、18節負担金補助及び交付金、減額の243万9,000円は、主なものとしまして、鳥獣被害防止緊急捕獲等対策補助金の実績によるものです。

次のページをお願いします。上からです。

2目林業振興費15節原材料費、減額の203万7,000円は、林道舗装原材料費の執行残です。

次に、3目公有林整備事業費11節役務費、減額の381万3,000円、12節委託料、減額の1,271万9,000円は、実績に伴う減額です。

次に、92ページ、93ページをお願いします。一番下です。

11款1項3目林業施設災害復旧費14節工事請負費、減額の774万1,000円は、工事費の確定によるものです。

以上で、農林振興課関係を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 上野地域整備課長。

○地域整備課長（上野 陽一君） 地域整備課関係を御説明いたします。

歳出です。

議案つづり72ページ、73ページをお開きください。

8款1項1目土木総務費、減額の156万9,000円は、主に18節負担金補助及び交付金、減額の96万6,000円で、住宅リフォーム補助金など実績に伴う減額となります。

次に、2項1目道路維持費、減額の228万5,000円は、主に10節需用費、減額の71万1,000円、14節工事請負費、減額の51万9,000円で、いずれも町道維持管理に係る消耗品等購入の不用額及び道路維持工事の実績による執行残となります。

次に、2目道路新設改良費12節委託料、減額の433万3,000円は、町道平野線道路改良事業に係る測量設計業務委託料の事業費確定による減額となります。

次のページをお開きください。

3項2目河川管理費、減額の242万4,000円は、主に14節工事請負費、減額の229万6,000円で、河川しゅんせつ工事の執行残を減額するものです。

次に、5項1目住宅管理費、減額の596万7,000円は、主に10節需用費、減額の220万9,000円、

14節工事請負費、減額の342万2,000円で、それぞれ住宅修繕料、住宅敷地内除草工事などの執行残となります。

地域整備課関係は以上です。

○議長（荒川 孝一君） 尾方教育振興課長。

○教育振興課長（尾方 良一君） 教育振興課関係を御説明します。

歳入からです。

28、29ページをお開きください。3段目です。

15款2項5目教育費国庫補助金4節学校保健特別対策事業費補助金、減額101万3,000円は、コロナ感染症対策として実施した感染症流行下における学校教育活動体制整備事業補助金で、交付確定による減額です。

次は歳出です。

76、77ページをお開きください。下段になります。

10款1項2目事務局費、減額135万8,000円です。主なものは、3節職員手当等の時間外勤務手当及び管理職員特別勤務手当、減額32万1,000円、10節需用費、減額36万9,000円など、一般事務費及び学校教育充実推進事業費における不用額の減額です。

次のページをお開きください。

2項1目学校管理費、減額812万9,000円です。主なものは、説明欄483番、一般事務費における10節需用費、光熱水費や修繕料等の減額384万4,000円、12節樹木伐採・除草業務委託料等、減額104万9,000円、説明欄906番、新型コロナウイルス感染症対策事業における10節消耗品費等の減額95万3,000円など、学校管理に係る不用額の減額になります。

次のページをお開きください。

同項2目教育振興費、減額291万5,000円です。主なものは、説明欄495番、教育振興補助事業における修学旅行費補助金等の執行残の減額24万4,000円や、説明欄498番、就学援助費事業、19節要保護及び準要保護児童扶助費、減額92万5,000円など不用額の減額です。

次のページをお開きください。

3項1目学校管理費、減額489万3,000円です。主なものは、説明欄511番、一般事務費、同じく908番、新型コロナウイルス感染症対策事業費における光熱水費、修繕料、消耗品費等の執行残の減額328万2,000円や、緊急対応業務委託料、検診業務委託料の執行残減額84万9,000円などになります。

次に、同項2目教育振興費、減額300万5,000円です。主なものは、説明欄522番、教育振興費補助事業の修学旅行費補助金ほか、減額63万6,000円、同じく説明欄525番、就学援助費事業における要保護及び準要保護生徒扶助費、減額87万7,000円など、実績に基づく不用額の減額です。

次のページをお開きください。

4項1目社会教育総務費、減額165万3,000円です。主なものは、説明欄538番、生涯学習推進事業の活き活き大学等講師謝金、減額30万1,000円や説明欄543番、文化財保護事業の除草・剪定業務委託料、減額18万8,000円、重機借り上げ料、減額18万9,000円など、執行実績に基づく不用額の減額です。

次に、90、91ページをお開きください。

5項2目体育施設費、減額302万8,000円です。主なものは、各種体育施設の修繕や消耗品費等の需用費、減額161万6,000円、除草・剪定業務やトイレ清掃等の委託料、減額115万4,000円など不用額の減額で

す。

以上、教育振興課関係説明を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 箕田税務課長。

○税務課長（箕田 俊哉君） 専第6号錦町税条例の一部を改正する条例について説明いたします。

議案つづり162ページをお開きください。

今回の改正については、地方税法等の一部を改正する法律等が、令和6年3月30日公布されたことに伴い、錦町税条例の一部を改正するものです。

主な改正内容としては、町民税では、令和6年能登半島地震災害に係る雑損控除の創設と住民税定額減税です。

また、固定資産税については、土地に係る課税の特例が引き続き3年延長されます。

その他、地方税法等の改正による条項、字句等の修正が行われています。

改正内容については、新旧対照表にて説明いたします。

新旧対照表2ページをお願いいたします。

第51条、町民税の減免と、新旧対照表4ページの第71条第2項、固定資産税の減免については、これまで減免申請については、納税義務者が直接減免申請をしなければなりませんでしたが、今回の改正により減免に該当することが分かっている場合は、職権により対応できるようになりました。

次に、新旧対照表5ページをお願いいたします。

令和6年1月1日に発生しました能登半島地震により、附則第5条の2、令和6年能登半島地震災害に係る雑損控除額等の特例が創設されました。

次に、新旧対照表6ページをお願いいたします。

附則第7条の5から附則第7条の8までが、令和6年度から7年度にかけて実施される個人町民税の定額減税に伴うものです。

新旧対照表15ページをお願いいたします。

附則第8条では、肉用牛の売却による事業所得に係る町民税の特例が再び3年間延長されます。

次に、新旧対照表19ページをお願いいたします。

附則第11条の2から新旧対照表22ページ、第13条までが、固定資産税の特例措置が再び3年間延長されるものです。

新旧対照表23ページをお願いいたします。

附則第16条の3から附則第20条の3までが、令和6年度から7年度にかけて実施される、個人町民税の定額減税に伴うものです。

議案つづり172ページにお戻りください。

附則として、第1条では施行期日について、第2条では町民税の経過措置について、第3条では固定資産税の経過措置について、それぞれ定められています。

以上、錦町税条例の一部を改正する条例について説明を終わります。

○議長（荒川 孝一君） ここで10分ほど休憩します。休憩後は11時10分から開議します。

午前11時00分休憩

午前11時10分再開

○議長（荒川 孝一君） 休憩前に引き続き開議します。

議案第45号の提案理由の説明が終わりましたので、本案に対する質疑を許可します。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

それでは、討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 討論なしと認め、討論を終わります。

よって、これから採決に入ります。

お諮りします。専第2号令和5年度錦町一般会計補正予算（第11号）については、原案のとおり承認することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、専第2号は、原案のとおり承認することに決定しました。

お諮りします。専第3号令和5年度錦町国民健康保険特別会計補正予算（第6号）については、原案のとおり承認することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、専第3号は、原案のとおり承認することに決定しました。

お諮りします。専第4号令和5年度錦町介護保険特別会計補正予算（第6号）については、原案のとおり承認することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、専第4号は、原案のとおり承認することに決定しました。

お諮りします。専第5号令和5年度錦町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）については、原案のとおり承認することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、専第5号は、原案のとおり承認することに決定しました。

お諮りします。専第6号錦町税条例の一部を改正する条例については、原案のとおり承認することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、専第6号は、原案のとおり承認することに決定しました。

日程第5. 議案第46号

日程第6. 議案第47号

日程第7. 議案第48号

日程第8. 議案第49号

○議長（荒川 孝一君） 日程第5、議案第46号令和6年度錦町一般会計補正予算（第1号）から、日程第8、議案第49号令和6年度錦町下水道事業会計補正予算（第1号）についての4議案を一括議題とします。

提案理由の説明を求めます。森本町長。

○町長（森本 完一君） 議案第46号令和6年度錦町一般会計補正予算（第1号）、議案第47号令和6年度錦町介

護保険特別会計補正予算（第1号）、議案第48号令和6年度錦町水道事業会計補正予算（第1号）、議案第49号令和6年度錦町下水道事業会計補正予算（第1号）、以上4議案につきましては、令和6年度各会計の補正予算に関する案件でございます。

まず、一般会計補正予算（第1号）は、既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ6,996万1,000円を追加し、予算の総額を66億7,634万8,000円とする案件でございます。

補正の主なものは、企業立地奨励金、コミュニティ助成事業補助金、道路改良事業、新型コロナウイルスワクチン個別接種事業、個別接種業務委託料ほか、人事異動に伴う人件費の調整と地方債の補正でございます。

次に、介護保険特別会計補正予算（第1号）は、既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ1,525万3,000円を追加し、予算の総額を12億7,267万5,000円とする案件でございます。

次に、水道事業会計補正予算（第1号）は、収益的収入及び支出の補正で、収入支出それぞれ218万5,000円を減額する案件でございます。

次に、下水道事業会計補正予算（第1号）は、収益的収入及び支出の補正で、収入を164万6,000円減額し、支出を5万4,000円増額し、資本的収入及び支出の補正で、収入を170万円増額する案件と企業債の補正等でございます。

詳細につきましては、担当課長が説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。提案理由の説明といたします。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） それでは、議案つづり178ページをお願いいたします。

第2表、地方債補正、変更が2件です。

一番上から、起債の目的は道路整備事業（公共事業等債）ですが、限度額を100万円増額し、起債の限度額を1億1,610万円とするものです。

内容は、第二木揚橋の補修補強事業の増額などにより、借入額を増額をするものです。

次に、緊急自然災害防止事業（緊急自然災害防止対策事業債）ですが、限度額を110万円増額し、起債の限度額を1,970万円とするものです。木上地区町道目郎第一線の排水対策工事分となります。

以上2件については、起債の方法、利率、償還の方法について、補正前と変更はございません。

それでは、一般会計の歳入から申し上げますが、5万円未満の補正につきましては、以降の各課長からの説明は、原則として割愛させていただきますので、御了承をお願いいたします。

初めに、総務課関係からです。

184ページをお願いいたします。上から2番目の欄になります。

17款2項1目1節土地売払い収入10万9,000円は、一武町有地の売却代金となります。

次に、20款1項1目1節前年度繰越金1,570万6,000円は、補正予算所要額の財源調整として計上しております。

次に、186ページをお願いします。

22款町債は、第2表、地方債補正で御説明したとおりとなります。

次に歳出です。

188ページをお願いいたします。

まず、全般的なことを申し上げますと、人件費の補正については、人事異動に伴う補正や扶養手当、児童手当など

の職員手当について調整を行っておりますので、それに係る説明は割愛させていただきます。

あわせて、歳入と同様、5万円未満の補正についても、以降の各課長からの説明は原則として割愛させていただきますので、御了承をお願いいたします。

下の欄になります。2款1項1目一般管理費11節役務費45万9,000円は、乗合タクシー事業に関するアンケート調査の送付・回収費用となります。

次に、190ページをお願いいたします。一番上になります。

5目財産管理費14節工事請負費は、就業センター網戸取付工事と庁舎敷地東側の舗装工事分となります。

次に、206ページをお願いいたします。3番目の欄になります。

9款1項2目非常備消防費17節備品購入費8万円は、消防団ラッパ隊の1名増員によるトランペット1台の購入費となります。

次に、4目防災費12節委託料13万3,000円は、全国瞬時警報システム、通称Jアラートと申しますけども、こちらの保守点検業務となります。

総務課関係は以上となります。

○議長（荒川 孝一君） 岩尾企画観光課長。

○企画観光課長（岩尾 和文君） 企画観光課関係を御説明いたします。

歳入です。

議案つづりは184、185ページをお開きください。下段です。

21款4項1目1節雑入550万円は、コミュニティ助成金を活用して6分館、12分館、17分館の公民館内の備品整備を行うものです。

歳入は以上です。

次に歳出です。

192、193ページをお開きください。

2款7項1目企画費18節負担金補助及び交付金550万円は、先ほど歳入で御説明したとおりです。

次に、202、203ページをお開きください。上段です。

7款1項5目商工業振興費18節負担金補助及び交付金2,376万6,000円は、昨年稼働いたしました木質バイオマス発電所に対する企業立地奨励金です。錦町工場等設置奨励条例第7条の規定に基づき、課税された固定資産税相当額を補助するものです。全額納付いただいた後に交付いたします。

企画観光課関係の説明は以上です。

○議長（荒川 孝一君） 簗田税務課長。

○税務課長（簗田 俊哉君） 税務課関係を説明いたします。

議案つづり182、183ページをお願いいたします。

歳入になります。

1款2項1目1節固定資産税現年度課税分、増額の2,000万円です。当初課税結果によるものです。

以上、税務課関係の説明を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 吉田保険政策課長。

○保険政策課長（吉田 誠二君） 保険政策課関係を説明いたします。

まず、一般会計の歳出です。

194ページ、195ページをお願いいたします。

3款1項2目老人福祉費27節繰出金1,525万3,000円は、人事異動に伴う介護保険特別会計への繰出金の補正になります。

一般会計は以上です。

次に、介護保険特別会計の歳入です。

224ページ、225ページをお願いいたします。

6款1項4目1節職員給与費等繰入金1,525万3,000円は、人事異動に伴うものです。

歳出につきましては、人件費のみとなりますので、説明を省略いたします。

以上で、保険政策課関係の説明を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 東健康増進課長。

○健康増進課長（東 貴志君） 健康増進課関係の説明をいたします。

歳入からです。

議案つづり184、185ページをお願いいたします。最下段になります。

21款4項6目1節新型コロナワクチン接種助成金1,452万5,000円です。これは、新型コロナワクチン代が昨年度末から大幅に価格改定され、昨年度の超過分に当たる部分について、国から基金管理団体を通じて助成金が支給されるものです。

歳入は以上です。

続いて歳出です。

議案つづり196、197ページをお開きください。下段の中ほどです。

4款1項2目予防費12節委託料33万円です。これは、予防接種事業において実施する小児用肺炎球菌ワクチンに15価ワクチンの追加、及び五種混合の追加による健康管理システムの改修業務委託料です。

次のページをお願いいたします。

7目です。健康増進事業費12節委託料47万6,000円です。これは、特定健診第4期に対応するための健康管理システムの改修業務委託料になります。

続いて11目です。感染症特別対策事業費12節委託料2,459万7,000円。これは、新型コロナワクチン個別予防接種業務における医療機関に対する委託料です。

健康増進課関係は以上となります。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） 農林振興課関係を説明いたします。

議案つづり182ページ、183ページをお願いします。

歳入からです。下から2番目です。

16款2項4目1節農業費補助金207万円は、団体営農業農村整備事業補助金で、本別府開田組合の用水ポンプ施設更新設計業務に係る補助金となります。

次のページをお願いします。中ほどです。

19款2項15目1節ふるさと・水と土保全基金繰入金1,000万円は、後ほど提案いたします基金条例の廃止に伴い、基金残高全額を繰り入れるものです。

次に歳出です。

198ページ、199ページをお願いします。一番下です。

6款1項3目農業振興費18節負担金補助及び交付金220万円は、果樹高品質化施設導入事業補助金で、スピードスプレーヤー、ロボット草刈り機、乗用モア、栗いがむき機等、機械の導入に対する補助金です。

次のページをお願いします。上段です。

5目農地費12節委託料300万円及び18節負担金補助及び交付金、減額の63万円は、本別府地区用水ポンプ設備更新設計業務に係る経費で、当初、開田組合等が行う事業の負担金として計上していましたが、今回採択された事業が任意団体では事業主体となれないことから、町が事業主体として取り組むために組み替えるものです。

以上で、農林振興課関係を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 上野地域整備課長。

○地域整備課長（上野 陽一君） 地域整備課関係を御説明いたします。

歳入からです。

議案つづり182ページ、183ページをお開きください。2段目です。

14款1項5目1節住宅使用料、減額の198万4,000円は、今年度使用料の調定額が当初予算額を下回りましたので、今後の町営住宅入退去状況を見込み、減額するものです。

15款2項4目土木費国庫補助金です。1節社会資本整備総合交付金、減額の92万1,000円、10節道路メンテナンス事業補助、増額の379万円は、いずれも国の交付内示額により減額及び増額するものです。

次に歳出です。

198ページ、199ページをお開きください。2段目です。

4款3項1目上水道費27節繰出金、減額の218万5,000円については、後ほど水道事業会計補正予算にて御説明いたします。

次に、202ページ、203ページをお開きください。下段です。

8款1項1目土木総務費、減額の8万8,000円のうち、8節旅費8万円は、18節にあります小型車両系建設機械特別教育受講に係る旅費4人分と、橋梁補修に係る研修旅費2人分です。

14節工事請負費60万円は、町道目郎第一線排水対策工事分で、単価見直しによる工事費の増額分となります。

18節負担金補助及び交付金13万6,000円は、先ほど8節旅費で説明しました小型車両系建設機械特別教育受講料6万8,000円及び橋梁補修に係る研修会負担金6万8,000円です。

21節補償補填及び賠償金50万円は、次のページをお開きください。町道目郎第一線排水対策工事に係る電柱移転補償分で、電柱1本分の移転に係る補償費です。

次に、2項1目道路維持費18節負担金補助及び交付金80万円は、町道等支障木伐採補助金で当初予算を使い切りましたので、今後の見込額を増額補正するものです。

次に、2目道路新設改良費1,690万4,000円のうち、12節委託料100万円は、町道平野線道路改良事業、平野工区に係る不動産2筆分の鑑定業務委託料となります。

14節工事請負費1,350万円は、各道路改良工事における設計見直しに係るもののほか、工事単価の見直しにより増額補正するものです。

16節公有財産購入費60万4,000円は、町道百太郎第二線に係る用地購入費2筆分です。

21節補償補填及び賠償金180万円は、町道松里永野線道路改良事業に係る電柱移転補償分で、電柱3本分の移転に係る補償費です。

次のページ、お開きください。

4項1目下水道費27節繰出金、減額の164万6,000円については、後ほど下水道事業会計補正予算にて説明いたします。

次に、2目浄化槽費14節工事請負費74万円は、狩政地区浄化槽放流管敷設工事分で、浄化槽設置に係る処理水の放流に際し、道路側溝等の放流先がないため、民地から道路側溝までの放流管について町で施工するものです。

一般会計は以上です。

次に、水道事業会計補正予算を御説明いたします。

別冊の水道事業会計補正予算書2ページをお開きください。

議案第48号令和6年度錦町水道事業会計補正予算（第1号）になります。

第2条で収益的収入及び支出をそれぞれ218万5,000円減額の補正をしております。

内容については、実施計画明細書により御説明いたします。

5ページをお開きください。

収益的収入です。1款2項2目1節一般会計負担金、減額の218万5,000円は、次に説明します収益的支出の減額に伴うものです。

6ページを御覧ください。

収益的支出です。1款1項3目総係費、減額の218万5,000円は、1節給料から8節退職手当組合負担金の減額分で、4月の人事異動によるものとなります。

水道事業会計は以上です。

次に、下水道事業会計補正予算について御説明します。

別冊の下水道事業会計補正予算書2ページをお開きください。

議案第49号令和6年度錦町下水道事業会計補正予算（第1号）になります。

第2条で収益的収入及び支出の補正を計上しております。

収入は164万6,000円を減額し、歳出については5万4,000円を追加するものです。

第3条では資本的収入を170万円増額補正しております。

内容については、後ほど実施計画明細書により御説明いたします。

次のページをお開きください。

第4条で企業債の内容を改めております。起債の目的は資本費平準化債（下水道事業債）です。起債の限度額を6,240万円から170万円増額し、6,410万円とするものです。起債の方法、利率、償還の方法は補正前と同じです。

内容は、資本費平準化債の算定基礎となる固定資産の減価償却費確定に伴う増額となります。

それでは、実施計画明細書により御説明いたします。

7ページをお開きください。

収益的収入です。1款2項2目1節他会計補助金、一般会計繰入金を164万6,000円減額し、次の8ページ、収益的支出では、1款1項4目総係費5節法定福利費、これは共済組合負担金になりますが、その増額分として5万4,000円を追加計上しております。

9ページをお開きください。資本的収入です。

1款1項2目1節資本費平準化債170万円は、先ほど第4条企業債で説明した内容となります。

以上、地域整備課関係の説明を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 尾方教育振興課長。

○教育振興課長（尾方 良一君） 教育振興課関係を御説明します。

歳入からです。

182、183ページをお開きください。下段です。

16款2項5目1節教育費県補助金、減額9万5,000円は、人権教育指導員設置費補助金で、会計年度任用職員として配置していた職員が一般職として採用されたことに伴い、専門職としての配置ができないことによる補助金の減額になります。

次は歳出です。

208、209ページをお開きください。

10款3項3目心の教室相談員活用事業費3節職員手当等31万6,000円は、パートタイム会計年度任用職員である相談員の期末手当17万2,000円と勤勉手当14万4,000円の追加計上になります。

次のページをお開きください。

5項2目体育施設費14節工事請負費32万5,000円は、後ほど廃止条例を提案させていただきますが、その他施設費における相撲場撤去工事になります。

以上、教育振興課関係の説明を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 提案理由の説明が終わりました。

本案に対する質疑、採決は14日に行います。

日程第9. 議案第50号

○議長（荒川 孝一君） 日程第9、議案第50号錦町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。森本町長。

○町長（森本 完一君） 議案第50号錦町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例でございます。

本案件につきましては、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の改正により、所要の改正を行うものでございます。

詳細につきましては、担当課長が説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。提案理由の説明といたします。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） 議案つづり231ページをお願いいたします。

議案第50号錦町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例について御説明いたします。

本条例は、個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関し、必要な事項を定めるものです。

本条例が準拠します、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律、いわゆる番号法が改正されたことに伴い、所要の改正を行うものです。

新旧対照表の28ページをお願いいたします。

第2条では、本条例における用語の定義をしていますが、番号法改正に伴い、第6号から第10号の定義が必要となり、追加をするものです。

第4条では、個人番号の利用に関する事務について規定をしていますが、第2条第9号で特定個人番号利用事務、第10号で利用特定個人情報今回追加したことに伴い改正をするものです。

議案つづり231ページにお戻りください。

この条例は、公布の日から施行することとしております。

以上で説明を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 提案理由の説明が終わりましたので、本案に対する質疑を許可します。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

それでは、討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 討論なしと認め、討論を終わります。

よって、これから採決に入ります。

お諮りします。議案第50号錦町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例については、原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、議案第50号は、原案のとおり可決されました。

日程第10. 議案第51号

○議長（荒川 孝一君） 日程第10、議案第51号錦町重度心身障がい者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。森本町長。

○町長（森本 完一君） 議案第51号錦町重度心身障がい者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例でございます。

本案件につきましては、県の補助金交付要綱が改正され、自己負担額が改められたため、同様の改正を行うものでございます。

詳細につきましては、担当課長が説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。提案理由の説明といたします。

○議長（荒川 孝一君） 山園住民福祉課長。

○住民福祉課長（山園 琢磨君） 錦町重度心身障がい者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例について説明いたします。

この条例は、熊本県重度心身障がい者医療費助成事業費補助金交付要領が、令和6年4月1日から自己負担額の端数を切り捨てた額に改正されたことに伴い、条例の改正が必要になったことから改正を行うものです。

改正の内容は、1月当たりの自己負担額が、1医療機関につき入院外の場合「1,020円」を「1,000円」に改正し、入院の場合は「2,040円」を「2,000円」に改正するものです。

なお、この条例は公布の日から施行し、改正後の錦町重度心身障がい者医療費助成に関する条例の規定は、令和

6年4月1日以後に行われた診療に係る医療費について適用します。

新旧対照表で説明いたします。新旧対照表の30ページをお願いします。

錦町重度心身障がい者医療費助成に関する条例中、第3条第1項中の自己負担額の金額を入院外の場合「1,020円」を「1,000円」に、入院の場合を「2,040円」を「2,000円」に改正するものです。

以上で説明を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 提案理由の説明が終わりましたので、本案に対する質疑を許可します。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

それでは、討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 討論なしと認め、討論を終わります。

よって、これから採決に入ります。

お諮りします。議案第51号錦町重度心身障がい者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例については、原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、議案第51号は、原案のとおり可決されました。

日程第11. 議案第52号

○議長（荒川 孝一君） 日程第11、議案第52号錦町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。森本町長。

○町長（森本 完一君） 議案第52号錦町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例でございます。

本案件につきましては、介護保険法施行規則の一部を改正する省令に伴い、引用を改めるものでございます。

詳細につきましては、担当課長が説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。提案理由の説明といたします。

○議長（荒川 孝一君） 吉田保険政策課長。

○保険政策課長（吉田 誠二君） 議案つづり233ページをお願いいたします。

議案第52号錦町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について説明いたします。

今回の改正は、地域包括支援センター運営協議会の定義に際して、介護保険法施行規則を引用していることから、介護保険法施行規則の改正に伴い行うものです。

新旧対照表により説明いたします。

新旧対照表の31ページをお願いいたします。

今回の改正は、第15条第1号中の介護保険法施行規則「第140条の66第1号ロ（2）」を「第140条の66第1号イ」とするものです。

議案つづり 233 ページにお戻りください。

なお、附則として、この条例は公布の日から施行するとしております。

以上で説明を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 提案理由の説明が終わりましたので、本案に対する質疑を許可します。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

それでは、討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 討論なしと認め、これで討論を終わります。

よって、これから採決に入ります。

お諮りします。議案第 5 2 号錦町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例については、原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、議案第 5 2 号は、原案のとおり可決されました。

日程第 1 2. 議案第 5 3 号

○議長（荒川 孝一君） 日程第 1 2、議案第 5 3 号錦町ふるさと・水と土保全基準の設置、管理及び処分に関する条例を廃止する条例についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。森本町長。

○町長（森本 完一君） 議案第 5 3 号錦町ふるさと・水と土保全基金の設置、管理及び処分に関する条例を廃止する条例でございます。

本基金は、基金の運用益を財源とし、土地改良施設への共同活用を推進する事業を実施するため、平成 6 年に設置したものでございます。

しかしながら、現在の低金利の状況下においては、運用益では事業実施が困難であること、本基金と趣旨を同じくする交付金事業に既に取り組んでいることを踏まえ、今回廃止するものでございます。

詳細につきましては、担当課長が説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。提案理由の説明といたします。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） 議案第 5 3 号錦町ふるさと・水と土保全基金の設置、管理及び処分に関する条例を廃止する条例について説明いたします。

当該基金につきましては、1,000 万円の基金を設置し、その運用益により土地改良施設や農地を中心とした様々な地域資源の保全に資する住民活動について支援を行うものとして、平成 6 年 3 月に制定されたものでありますが、近年における著しい利率の低下により、運用益のみでは事業が困難であること、また、基金を設置した目的と同趣旨の農地・水・環境保全事業、現在の多面的機能支払交付金事業などの所期の目的に合致する事業に取り組んでいることから、今回廃止するものです。

附則として、この条例は公布の日から施行することとしております。

以上で説明を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 提案理由の説明が終わりましたので、本案に対する質疑を許可します。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

それでは、討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 討論なしと認め、討論を終わります。

よって、これから採決に入ります。

お諮りします。議案第53号錦町ふるさと・水と土保全基金の設置、管理及び処分に関する条例を廃止する条例については、原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、議案第53号は、原案のとおり可決されました。

日程第13. 議案第54号

○議長（荒川 孝一君） 日程第13、議案第54号錦町相撲場の設置及び管理に関する条例を廃止する条例についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。森本町長。

○町長（森本 完一君） 議案第54号錦町相撲場の設置及び管理に関する条例を廃止する条例でございます。

本案件につきましては、相撲場にある土俵を撤去するに当たり条例の廃止を行うものでございます。

詳細につきましては、担当課長が説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。提案理由の説明といたします。

○議長（荒川 孝一君） 尾方教育振興課長。

○教育振興課長（尾方 良一君） 議案第54号錦町相撲場の設置及び管理に関する条例を廃止する条例について御説明します。

錦町相撲場は、平成2年の供用開始から、ふるさと祭り時の相撲大会などに使用されていましたが、屋形柱の腐食による屋根倒壊の危険性から撤去がなされ、土俵のみが残る状態となっていました。

近年は、ふるさと祭り時の相撲大会の開催も、児童の参加数減少により実施できなくなったため、活用の機会も減少したことから、土俵を撤去して駐車場としての利用を行うため、条例を廃止し整備を行うものです。

附則として、この条例は公布の日から施行します。

以上、説明終わります。

○議長（荒川 孝一君） 提案理由の説明が終わりましたので、本案に対する質疑を許可します。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

それでは、討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 討論なしと認め、討論を終わります。

よって、これから採決に入ります。

お諮りします。議案第54号錦町相撲場の設置及び管理に関する条例を廃止する条例については、原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、議案第54号は、原案のとおり可決されました。

ここで昼食のため休憩します。休憩後は午後1時30分から開議します。

午前11時57分休憩

午後1時30分再開

○議長（荒川 孝一君） 休憩前に引き続き開議します。

日程第14. 議案第55号

○議長（荒川 孝一君） 日程第14、議案第55号町道山江錦線（木綿葉大橋）下部工補修補強工事（2期）請負変更契約についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。森本町長。

○町長（森本 完一君） 議案第55号町道山江錦線（木綿葉大橋）下部工補修補強工事（2期）請負変更契約についてでございます。

本案件につきましては、地方自治法第96条第1項第5号並びに錦町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、令和5年第6回臨時会において請負契約、令和6年第1回定例会において変更契約に際しての議決を頂いたところでございますが、再度、契約金額の変更が生じたため提案をするものでございます。

詳細につきましては、担当課長が説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。提案理由の説明といたします。

○議長（荒川 孝一君） 上野地域整備課長。

○地域整備課長（上野 陽一君） 議案つづりは236ページになります。

議案第55号町道山江錦線（木綿葉大橋）下部工補修補強工事（2期）請負変更契約について御説明します。

1、契約の目的、町道山江錦線（木綿葉大橋）下部工補修補強工事（2期）。2、契約の方法、指名競争入札。3、契約金額、変更前、一金1億2,978万6,763円、うち取引に係る消費税額及び地方消費税額1,179万8,796円、変更後、一金1億2,444万3,274円、うち取引に係る消費税額及び地方消費税額1,131万3,024円。4、契約の相手方、住所、熊本県人吉市西間上町810番地1、商号または名称、三和建设株式会社、代表者氏名、代表取締役佐藤圭。

契約金額534万3,489円を減額する変更契約となり、3月定例会に続き2回目の変更となります。

変更の主な内容は、左岸側の工事用道路の撤去について、現在、くま川鉄道株式会社が行っている球磨川第四鉄橋の橋脚工事にて行うことになったこと、汚濁防止フェンスの設置範囲の変更及び交通誘導員の配置人数の減などが変更要因となります。

工期については、6月28日を予定しておりますが、今回の工事をもちまして、令和2年度より進めておりました木綿葉大橋の補修補強事業は完了することになります。

以上で説明を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 提案理由の説明が終わりましたので、本案に対する質疑を許可します。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

それでは、討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 討論なしと認め、討論を終わります。

よって、これから採決に入ります。

お諮りします。議案第55号町道山江錦線（木綿葉大橋）下部工補修補強工事（2期）請負変更契約については、原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、議案第55号は、原案のとおり可決されました。

日程第15. 議案第56号

○議長（荒川 孝一君） 日程第15、議案第56号水無川橋下部工工事請負変更契約についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。森本町長。

○町長（森本 完一君） 議案第56号水無川橋下部工工事請負変更契約についてでございます。

本案件につきましては、令和4年第4回定例会において請負契約、令和6年第1回定例会において変更契約に際しての議決を頂いたところでございますが、再度契約金額の変更が生じたので、提案をするものでございます。

詳細につきましては、担当課長が説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。提案理由の説明といたします。

○議長（荒川 孝一君） 上野地域整備課長。

○地域整備課長（上野 陽一君） それでは、議案つづりは237ページです。

議案第56号水無川橋下部工工事請負変更契約について御説明します。

1、契約の目的、水無川橋下部工工事。2、契約の方法、指名競争入札。3、契約金額、変更前、一金1億7,291万8,588円、うち取引に係る消費税額及び地方消費税額1,571万9,871円、変更後、一金1億7,472万1,334円、うち取引に係る消費税額及び地方消費税額1,588万3,757円。4、契約の相手方、住所、熊本県人吉市西間上町2479番地1、商号または名称、丸昭建設株式会社、代表者氏名、代表取締役松村陽一郎。

契約金額180万2,746円を増額する変更契約となり、3月定例会に続き2回目の変更となります。

変更の内容は、兩岸のブロック張り工を取付道路改良工事での施工に変更したことによる減額の変更のほか、インフレスライド条項適用による増額変更が主なものとなります。

インフレスライドとは、特別な要因で工期内に賃金水準及び物価水準に著しい変動が生じ、請負代金額が不適当となった時に、請負代金額の変更を請求できる制度で、今回、契約相手方より、錦町公共工事請負契約約款第25条第6項に基づいた請求がありましたので、請求日である3月15日を基準日として、以後の残工事につき1%を超えた額が生じたので、今回インフレスライドの変更額として増額しております。

工事内容等の変更による減額分が111万1,165円、先ほどのインフレスライドによる増額変更分が291万3,911円となり、差し引きまして、今回変更金額の180万2,746円増となります。

工期につきましては6月28日を予定しておりますが、今回の下部工の工事完了により、令和2年7月豪雨の地域整備課関係の災害復旧工事は、上部工及び町水道の連絡管を含めました取付道路改良工事を残すのみとなります。

以上で説明を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 提案理由の説明が終わりましたので、本案に対する質疑を許可します。質疑ありませんか。9番、池田議員。

○議員（9番 池田 秀晴君） 9番。お尋ねします。

仮設道路の鉄板、敷鉄板は撤去してありますけども、仮設道路に関する河川の中の土砂、あれは撤去はされていないんですよね。完了しているんですかね。

○議長（荒川 孝一君） 上野地域整備課長。

○地域整備課長（上野 陽一君） お答えします。

今現在のままで終わる予定としております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 9番、池田議員。

○議員（9番 池田 秀晴君） 9番。要するに今の土砂を仮設道路にした時に、梅雨で増水した時に流出する可能性がありますよね。その時は撤去費用は減額になるんですか。

○議長（荒川 孝一君） 上野地域整備課長。

○地域整備課長（上野 陽一君） お答えします。

現在の状況におきましては、流出したとしても、今度の上部工の工事でまた道路を造る必要がございますので、その分また、盛土しないといけないということになります。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 9番、池田議員。

○議員（9番 池田 秀晴君） 最後ですけど、要は当初の設計で造成して撤去という形で恐らく設計されていると思うんですけど、それをそのまま放置しておく、流出した時にその分が減額になる可能性は高いんじゃないですか。そのことちょっと再度教えてください。

○議長（荒川 孝一君） 上野地域整備課長。

○地域整備課長（上野 陽一君） お答えします。

撤去につきましては、下部工に計上しておりませんので、あとは上部工で造成、流出した場合にはまた造成をして、また撤去という形になるかと思います。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

それでは、討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 討論なしと認め、これで討論を終わります。

よって、これから採決に入ります。

お諮りします。議案第56号水無川橋下部工工事請負変更契約については、原案のとおり可決することに御異議あ

りませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、議案第56号は、原案のとおり可決されました。

日程第16. 議案第57号

○議長（荒川 孝一君） 日程第16、議案第57号町道風月野線法面対策工事（2期）請負変更契約についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。森本町長。

○町長（森本 完一君） 議案第57号町道風月野線法面対策工事（2期）請負変更契約についてでございます。

本案件につきましては、令和5年第4回定例会において、工事請負契約に際しての議決を頂いたところでございますが、契約金額の変更が生じたため、今回提案をするものでございます。

詳細につきましては、担当課長が説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。提案理由の説明といたします。

○議長（荒川 孝一君） 上野地域整備課長。

○地域整備課長（上野 陽一君） 議案つづりは238ページとなります。

議案第57号町道風月野線法面対策工事（2期）請負変更契約について御説明します。

1、契約の目的、町道風月野線法面対策工事（2期）。2、契約の方法、指名競争入札。3、契約金額、変更前、一金5,112万6,199円、うち取引に係る消費税額及び地方消費税額464万7,836円、変更後、一金5,454万2,290円、うち取引に係る消費税額及び地方消費税額495万8,390円。4、契約の相手方、住所、熊本県球磨郡錦町大字一武2745番地2、商号または名称、株式会社イトウ建設、代表者氏名、代表取締役田中聡。

契約金額341万6,091円を増額する変更契約となり、12月臨時会に続き2回目の変更となります。

変更の主な内容は、既設擁壁等の構造物取壊し、運搬及び処分費の増、L型擁壁工における大型土のう及び敷鉄板設置等の仮設工の追加、工事区域外の危険箇所へのガードレール設置の追加などが増額要因となります。

工期については、6月28日を予定しております。

本工事につきましては、令和4年度の1期工事に続き昨年度中に完了する予定ではございましたが、仮設道路造成工事や4月以降の大雨など不測の事態を要したため、工期が予定以上に延長することになりました。

長期間にわたり、全面通行止めに御協力いただいております付近住民の方々をはじめ、町民の皆様、御利用される方々に対しまして、この場をお借りしまして、お詫び申し上げます。

以上で説明を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 提案理由の説明が終わりましたので、本案に対する質疑を許可します。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

それでは、討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 討論なしと認め、これで討論を終わります。

よって、これから採決に入ります。

お諮りします。議案第57号町道風月野線法面対策工事（2期）請負変更契約については、原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、議案第57号は、原案のとおり可決されました。

日程第17. 議案第58号

○議長（荒川 孝一君） 日程第17、議案第58号財産の取得についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。森本町長。

○町長（森本 完一君） 議案第58号財産の取得についてでございます。

本案件については、地方自治法第96条第1項第8号並びに錦町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条の規定により、予定価格700万円以上の財産の取得については、議会の議決を求めることとなっておりますので、今回提案をするものでございます。

詳細につきましては、担当課長が説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。提案理由の説明といたします。

○議長（荒川 孝一君） 岩尾企画観光課長。

○企画観光課長（岩尾 和文君） 議案つづりは239ページをお願いいたします。

議案第58号財産の取得について御説明いたします。

1、取得の目的、あいねっと放送用タブレット端末及びWi-Fiルータ購入。2、品名等、タブレット端末及びWi-Fiルータ、各100台。3、契約の方法、随意契約。4、取得金額、774万4,000円。5、契約の相手方、所在地、愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地、名称、株式会社デンソー、代表者、代表取締役社長林新之助。

今回購入いたしますあいねっと放送用タブレットにつきましては、現在運用しておりますライブビジョンアプリと連携する必要があり、その保守、運用につきましては、株式会社デンソーに委託しており、連携するに当たって購入時の初期設定や購入後のサポートにつきましても、株式会社デンソーのみ可能となることから、随意契約により購入するものです。

タブレットの設置状況としましては、6月4日現在、1,556世帯の申込みがあり、1,452世帯の設置を完了しているところです。昨年度でタブレット及びルータを1,500台購入したところですが、4月以降に100件を超える追加申込みがあっており、今後の転入者等に備える必要もあることから、今回購入するものです。

議案第58号の説明は以上となります。

○議長（荒川 孝一君） 提案理由の説明が終わりましたので、本案に対する質疑を許可します。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 討論なしと認め、これで討論を終わります。

よって、これから採決に入ります。

お諮りします。議案第58号財産の取得については、原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、議案第58号は、原案のとおり可決されました。

日程第18. 諮問第1号

○議長（荒川 孝一君） 日程第18、諮問第1号人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。森本町長。

○町長（森本 完一君） 諮問第1号人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについてでございます。

人権擁護委員候補者を法務大臣に推薦するに当たっては、人権擁護委員法第6条第3項の規定に基づき、議会の意見を聞いて推薦をすることとなっております。

今回推薦します高橋節子氏は、昭和34年4月20日お生まれで、錦町大字一武2823番地101にお住まいでございます。

長年にわたり、幼稚園教諭として園児の人権教育に熱心に取り組んでこられ、また地域においても広く信頼され、人格識見とも高く、社会貢献の精神に基づき熱意を持って活動ができる人物であり、同委員として適任者でございます。

よろしく御審議の上、御意見賜りますようお願い申し上げます、推薦理由の説明といたします。

○議長（荒川 孝一君） 提案理由の説明が終わりましたので、本案に対する質疑を許可します。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

それでは、討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 討論なしと認め、これで討論を終わります。

よって、これから採決に入ります。

お諮りします。諮問第1号人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについては、適任と答申したいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、諮問第1号は、適任と答申することを決定しました。

日程第19. 報告第2号

日程第20. 報告第3号

日程第21. 報告第4号

○議長（荒川 孝一君） 日程第19、報告第2号令和5年度錦町一般会計繰越明許費繰越計算書から、日程第21、報告第4号令和5年度錦町水道事業会計予算繰越計算書についての3報告を一括議題とします。

提案理由の報告を求めます。森本町長。

○町長（森本 完一君） 報告第2号令和5年度錦町一般会計繰越明許費繰越計算書、報告第3号令和5年度錦町一般会計事故繰越し繰越計算書、報告第4号令和5年度錦町水道事業会計予算繰越計算書。

本案件につきましては、地方自治法施行令第146条第2項、第150条第3項及び地方公営企業法第26条第3項の規定により繰越計算書を調製し、報告するものでございます。

内容につきましては、担当課長が説明を申し上げます。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） 議案つづり242ページをお願いいたします。

報告第2号令和5年度錦町一般会計繰越明許費繰越計算書について説明いたします。

主なものを事業名、繰越金額、財源の順に読み上げて説明をいたします。

1番目の錦町くま川鉄道経営安定化補助金1,188万4,000円、地方債が主な財源で、令和2年7月豪雨で被災したくま川鉄道球磨川第四橋梁建設工事に伴う補助金です。

次に、役場庁舎改修事業6,023万円は、こちらは財源は一般財源となります。

次に、上から4番目です。LPガス価格高騰対応生活者支援事業1,564万8,000円は、財源は国費、一般財源の2分の1ずつとなります。

次に、電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金支給事業、均等割のみ課税世帯分1,283万8,000円、次の欄の子ども加算分352万6,000円ですが、いずれも全額国からの補助となります。

次に、真ん中あたりの上から10番目となります。緊急自然災害防止事業3,453万9,000円は、地方債が主な財源で、町道風月野線法面対策工事分となります。

1つ飛びまして、町道松里永野線道路改良事業（永野工区）3,953万8,000円は、国費、地方債などが主な財源で、黒辺田野橋架け替え検討及び実施設計業務分です。

1つ飛びまして、橋梁長寿命化計画事業1億1,368万円は、相良村負担金、国費、地方債等が主な財源で、木綿葉大橋下部工補修補強工事、下篠橋橋梁補修工事分です。

一番最後の欄、町道平野線道路改良事業（平良工区）2,982万7,000円は、国費、地方債が主な財源となります。

次のページです。上から2番目です。

河川等災害関連事業2,440万2,000円は、一般財源で、令和2年7月豪雨により被災した水無川橋災害関連事業分となります。

次に、上から4番目、農業用施設災害復旧費2,520万円は、国県支出金が主な財源で、上井新田における災害復旧工事分です。

次の林業施設災害復旧費4,329万1,000円は、国県支出金が主な財源となります。

次に、244ページをお願いします。

報告第3号令和5年度錦町一般会計事故繰越し繰越計算書について御説明いたします。

事業名、翌年度繰越額、財源内訳、説明の順に読み上げて説明に代えさせていただきます。

まず、1番目からです。町道松里永野線道路改良事業（永野工区）469万5,000円、財源は一般財源です。こちらは河川管理者との協議遅延による事故繰越です。

次に、町道松里永野線道路改良事業（永野工区）分です。繰越額2,792万9,848円、財源は国県支出金、地方債が主な財源となっておりまして、河川管理者との協議遅延による繰越しとなります。

次の河川等災害関連事業1億1,065万円、主な財源は国県支出金7,889万3,000円、地方債2,420万円で、令和4年度入札不調による発注遅れなどによる工事遅延となっております。

次の河川等災害関連事業9万7,489円、こちらは一般財源で、こちらも令和4年度の入札不調による発注遅れ等が工事遅延の理由となっております。

次に、農業用施設災害復旧費4,052万3,000円、財源は国県支出金で3,910万3,252円。こちらは、不可視部分における国との変更協議による遅延となっております。

次に、林業施設災害復旧費、繰越額5,138万9,805円、財源は国県支出金4,994万9,000円が主なものとなっております。連年被災による過年度被災箇所の工事遅延によるものです。

次が、林業施設現年災害復旧費2,139万195円、財源としては国県支出金が主なもので2,049万1,000円、こちらも連年被災による過年度被災箇所の工事遅延によるものです。

最後が、過年度災害復旧費、繰越額8,788万9,300円、財源は国県支出金7,576万円と地方債1,130万円となっております。こちら、令和4年度入札不調による発注遅れなどによる工事遅延が理由となっております。

続きまして、245ページをお願いいたします。

報告第4号令和5年度錦町水道事業会計予算繰越計算書について御説明いたします。

事業名、翌年度繰越額、財源内訳、説明の順に読み上げて説明に代えさせていただきます。

事業名、中央監視システムセンターUPS取替え修繕、翌年度繰越額128万8,100円、財源としては自己資金が全額となっております。繰越理由としましては、半導体不足による無停電電源装置の納期が遅延したためとなっております。

説明は以上となります。

○議長（荒川 孝一君） 報告が終わりましたので、質疑を許可します。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 質疑なしと認めます。これで報告を終わります。

日程第22. 報告第5号

○議長（荒川 孝一君） 日程第22、報告第5号議会の委任による専決処分の報告についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。森本町長。

○町長（森本 完一君） 報告第5号議会の委任による専決処分の報告について、専第7号和解及び損害賠償額の決定についてでございます。

本案件につきましては、議会の委任による町長の専決処分に関する条例第2条の規定により専決処分いたしましたので、地方自治法第180条第2項の規定により報告するものでございます。

内容につきましては、担当課長が説明をいたします。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） それでは、議案つづり247ページをお願いいたします。

専第7号和解及び損害賠償額の決定について御説明いたします。

内容につきましては、第三者への損害に関し、損害賠償の額を定め和解をするものです。

まず、和解の相手方は、錦町木上東にお住まいの方です。

和解の内容は、（1）本件事故における過失割合は、本町を100%とし、相手方に対する損害賠償額を4万9,500円とするものです。（2）今後、本件事故に関し、双方とも異議の申立て、訴訟等は一切行わないこととしております。

事故の概要ですが、事故の日時は、令和6年3月31日の午前9時頃、事故の発生場所は、錦町木上東の町道平川谷線となります。事故の状況ですが、相手方が町道平川谷線を自動車で行っていたところ、付近で草刈り作業をし

ていた刈払機による飛び石で、右側前後のドアガラスを破損させたものです。

報告第5号については以上となります。

○議長（荒川 孝一君） 提案理由の説明が終わりましたので、質疑を許可します。質疑ありませんか。9番、池田議員。

○議員（9番 池田 秀晴君） これはもう2回目の事故例につながりますけども、ただ、窓ガラスが割れただけで済んでいるんですけども、これがもし、運転手とか隣の助手席に乗っておられる方に負傷した場合は、どういった具合の対策を取られるんですか。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） お答えいたします。

こちらの賠償額ですけれども、総合賠償保険のほうから支出をしております。もし、仮に負傷された方がいらっしやった場合も、この過失割合に応じて総合賠償保険から賠償するという内容となっております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 9番、池田議員。

○議員（9番 池田 秀晴君） 9番。今度、分館長、主事が新しく入れ替わったと思いますので、ここのところをしっかりおつなぎしていただいて、こういう賠償の事故が起きないようなやり方を、町道手入れの指導をお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 質疑なしと認め、これで報告を終わります。

日程第23. 休会の件

○議長（荒川 孝一君） 日程第23、休会の件についてを議題とします。

お諮りします。明日12日は各常任委員会のため休会としたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、明日12日は休会とすることに決定しました。

○議長（荒川 孝一君） 本日予定されました日程が全部終了しました。

これにて、令和6年第2回錦町議会定例会1日目の会議を散会します。

午後2時05分散会

令和6年 第2回 錦町議会定例会議録 (第2号)

招集年月日	令和6年 6月11日	招集の場所	錦町議会議場		
開閉会日時及び宣告	開議 散会	令和6年 6月13日 令和6年 6月13日	午前10時00分 午後 4時35分		
出席及び欠席議員	議席 番号	氏 名	議席 番号	氏 名	
出席議員 12名	1	出 谷 口 一 也	10	出 金 山 民 幸	
欠席議員 0名	2	〃 丸小野 聖 一	11	〃 高 田 孝 徳	
	3	〃 梶 原 誠 二	12	〃 荒 川 孝 一	
凡 例	4	〃 早 田 和 彦			
出 出席	5	〃 吉 田 眞 二			
欠 欠席	6	〃 石 松 まゆ子			
公欠 公務欠席	7	〃 竹 田 農利人			
	8	〃 岡 田 武 志			
	9	〃 池 田 秀 晴			
会議録署名議員	10	金 山 民 幸	11	高 田 孝 徳	
職務のため議場に出席した者の職、氏名		議会事務局長 蓑 田 和 也			
地方自治法第121条第1項の規定により説明のため出席した者の職、氏名					
職	氏 名	職	氏 名	職	氏 名
町 長	森 本 完 一	住民福祉課 長	山 園 琢 磨	農林振興課 長	有 瀬 耕 二
副 町 長		保険政策課 長	吉 田 誠 二	地域整備課 長	上 野 陽 一
総務課長	深 水 英 雄	健康増進課 長	東 貴 志	農業委員会事務局長	高 波 昌 一
教育 長	毎 床 三喜男	税務課長	蓑 田 俊 哉	教育振興課 長	尾 方 良 一
会計管理者	白 川 裕 美	企画観光課 長	岩 尾 和 文		
議 事 日 程	別紙のとおり				
会 議 に 付 し た 事 件	別紙のとおり				
会 議 の 経 過	別紙のとおり				

議事日程

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

午前10時00分開議

○議長（荒川 孝一君） 定刻となり、出席議員が定足数に達しておりますので、ただ今から令和6年第2回錦町議会定例会3日目の会議を開きます。

本日の日程は、お手元に配付してあるとおりであります。

日程第1. 一般質問

○議長（荒川 孝一君） 日程第1、ただ今から一般質問を行います。

質問の順序は、抽せんにより決定しております。

1番、谷口一也議員、2番、丸小野聖一議員、8番、岡田武志議員、5番、吉田眞二議員、10番、金山民幸議員、3番、梶原誠二議員、6番、石松まゆ子議員、4番、早田和彦議員の順となります。

本日は、1番、谷口一也議員、2番、丸小野聖一議員、8番、岡田武志議員、5番、吉田眞二議員、10番、金山民幸議員、3番、梶原誠二議員の予定です。

1番、谷口一也議員の一般質問を許可します。1番、谷口議員。

○議員（1番 谷口 一也君） 1番。

皆様、こんにちは。梅雨に入りましたけれども、雨が降らずにですね、水が来るところは農作業もやりやすいでしょうけれども、水が来ないところは大変御苦労されていることだと思っております。

まず、私ごとではありますけれども、議員になりました1年、過ぎました。この1年間、色々、勉強不足や、いろんな勘違いですね、私の未熟さを痛感する1年でありました。残された期間、錦町のため、町民の皆様のために、一生懸命頑張っていこうと決意を新たにしているところであります。

それでは、質問席に移らせていただきまして、質問を続けさせていただきます。

○議長（荒川 孝一君） 1番、谷口議員。

○議員（1番 谷口 一也君） 1番。

これは質問ではなくて、まず、喫煙所の整備のお願いということになります。

当町の錦町におかれましては、1億円を超えるたばこ税が入ってくるわけでございますけれども、令和5年で1億469万9,000円、これ本当に大変な、町にとって貴重な歳入と考えるわけですが、まず、町に、当局におかれまして、たばこ税をどのように捉えておられるのか確認をしたいと思ひまして、お聞きしたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） ただ今の御質問にお答えいたします。

市町村たばこ税については、町民税、固定資産税、軽自動車税などと並び、町にとって主要な税収の一つとなっております。議員おっしゃいましたように、令和5年度における歳入予算額は、今定例会初日に御承認いただきました。

専決予算で1億469万9,000円に上り、税収入の8%を占めております。令和6年度におきましても、歳入予算1億円を計上をしているところです。

市町村たばこ税は、目的税ではなく、使途も特定されないため、一般財源として、町で実施する様々な住民サービス、各種施策の貴重な財源となっております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 1番、谷口議員。

○議員（1番 谷口 一也君） 1番。ありがとうございます。ほかの税収と同じようにですね、本当に貴重な、財源だと思っております。

このたばこ税は、錦町でたばこを購入していただき、その積み重ねで1億円を超える地方税となっているわけですが、ここで、皆さん御存じかもしれませんが、たばこ税の内訳を説明させていただきたいと思っております。資料を御覧ください。

これ、私が吸うたばこ540円のやつのを表にさせていただきました。

540円の販売価格でありますけれども、その65.44%が税率となっております。たばこ自体は186円しかしません。国税が152.44円。たばこ税136.……小数点は削除させていただきます。たばこ税は136円。このほかに、たばこ特別税といまして、これから先、福祉とか高齢者サービスとかいろんなお金が要りますので、また特別税ということで16円。合計152円が国に、税金が入ってまいります。地方税は151円。都道府県に21円、市町村税として130円。これガソリンと同じように、税金に消費税をかけられておまして、消費税は49円。税金が、540円の製品で353円も支払っていただいております。そういう状況であります。この353円、毎日1箱ずつ消費しますと、1年間で税金を12万5,780円払っていただいているような状況です。市町村税で見ると、130円を365日で4万7,610円。これだけ、税金を払っていただいております。実は私、1箱じゃ足りませんで、1.5箱ぐらい吸いますので、掛ければ1年間に市町村税7万1,415円、払っているような状況でございます。

これホームページで探して、ここへ出したんですけども、このホームページの下のほうにコメントを書くところがありまして、ほかのこのページを見たユーザーの方がですね、こんなに税金を払うのはもったいないと。税金を払うのがばからしいというようなコメントが書かれておりました。私はその「ばからしい」というような気持ちは理解できませんけれども、経営のほうも息子に移譲しまして、町にやら国にですね、納める税金も少なくなっておりますけれども、一応たばこ税で、7万円をちょっと超えるぐらいを納めさせていただいておりますという状況でございます。

現在、健康増進法によりまして、市町村やらの調査の室内・屋内ではもう、たばこは吸ってはいけません。屋外で、条件を満たす分煙をですね、受動喫煙の防止対策を行って喫煙所を設けてよいというようなルールになっておりますけれども、おかげで、全面禁煙でなくて、錦町も喫煙所を設けていただいているだけでありがたく思わなければならないのかもしれませんが、片方では1億円超える歳入がありながらですね、何か喫煙者はあっち行けみたいな、どうも何か割り切れない気持ちがするときがあります。

国、地方を合わせて、たばこ税が2兆円だそうです。たばこは害、害というふうには、「百害あって一利なし」とか言われたりしておりますけれども、2億円の税収を得るために、社会コストが3億円から……、失礼しました。2兆円得るために社会コストが3兆円から7兆円、あるんじゃないかというような人たちもいます。でも、私から言わせればですね、そのコストってどこに、3兆円があるの、7兆円があるのというふうに感じてしまうところがあります。

少し長くなりますけれども、「分煙」という言葉があります。たばこを吸う人、吸わない人が、気持ちよく社会生

活を送れるように、今、厚生労働省では、中小企業向けに、喫煙所の設置に関しまして設置費用の3分の2、上限100万円までの補助を出されているようであります。

市町村ではそういう補助は受けられないでしょうけれども、たばこ税の納税者の人たちが気持ちよく喫煙ができる喫煙所を整備していただきたいとお願いするわけであります。

すみません、資料をお願いいたします。

これが、今度、人吉市役所が設置しました、市役所の喫煙所であります。人吉のたばこ税は2億7,000万円、入ってくるんですけども。

次の写真をお願いします。

これが、あさぎり町の役場の喫煙所であります。続きまして、ここが錦町の喫煙所でございます。

別に人吉みたいな立派な喫煙所は要らないんですけども、何か、さっきのホームページのコメントにありましたように、納税がばからしくなるというような人たちがですね、感じがしないような、何か明るい喫煙所にしていってほしいかなというふうに望んでいるところでございます。その喫煙所を整備していただいて、たばこは錦町で買いたしと。そして、たばこの、錦町内で売っている地図でもですね、掲示していただいて、そしてポイ捨てがされないようにマナー向上の啓蒙もしていただければと思うわけですが、いかがでしょうか。よろしくお願いいたします。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） お答えいたします。

今、庁舎東側に喫煙スペースを、今写真ありましたとおり、設けております。その中には、そういった、メッセージでありますとかは記入していない状況でございます。

また、喫煙者の方からですね、この喫煙所に対する要望でありますとか問題点というのは、特に今のところはちょっと聞こえてきてない状況ですので、特にこの施設の整備についてを検討はしていなかったところですが、ただ、令和元年7月から、こういった、健康増進法によりまして措置が必要になってきたということで、施設も不備が出てくるような状況になるかと思っておりますので、そういったことがありましたら、御意見等を参考にしながら、改善はしていきたいと考えております。

また、そういったメッセージについても、そういったことは早速取りかかることができるかなと思っております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 1番、谷口議員。

○議員（1番 谷口 一也君） 1番。ええ、是非ともよろしくお願いいたします。納税、たばこ税納める方がですね、気持ちよくたばこを吸っていただきたいというふうに感じるわけでございます。

たばこのことを話しますと、必ず、たばこは害だ、受動喫煙はもう不快だ、とかというような内容を言われますけれども、別に、世の中ですね、それぞれのものが「いい部分」と「悪い部分」があると感じています。例えば、体にいいという牛乳も、色々と、牛乳を摂り過ぎると内臓疾患を引き起こすと。また、牛乳とセットでパンを食べたりしますけれども、パンに含まれるグルテンは、今「グルテンフリー」とか言葉もありますけれども、グルテンも内臓疾患を起こすと。そして、環境にいいというEVです、車。車も、バッテリーをたくさん積むことによって車重が増えて、同様な形の内燃機関の車と比較すると、タイヤのもちが7割ぐらいしかもてない。じゃあ、その削れたタイヤはどこに行っているんだというような、その環境に対するリスク、いろんなものがあると思います。

たばこも確かに害がないとは言いません。吸い過ぎると害があるでしょう。ですが、少量はですね、ストレスの解消や集中力を高めたりとかですね、プラスの面もあります。そして、ニコチンはアルツハイマーとかそういった脳の

疾患への改善効果があるというふうな説もあります。是非、役場の職員の方々も、休憩時間にはたばこを吸っていたいて、ストレスを解消しながらお仕事に励んでいただければというふうに考えております。

それでは、2番目の質問に移らせていただきます。

4月より錦町で「あいねっと」が新しくなりまして、アプリが、ライブビジョンですかね、それによって地域情報発信というような新しいのが始まりました。

現在、どういった普及状況になっているのか。特に私、興味がありますのが、町外のダウンロード数とか利用率を知りたいなというふうに感じておりますので、ダウンロード数とかをよろしく願います。

○議長（荒川 孝一君） 岩尾企画観光課長。

○企画観光課長（岩尾 和文君） ただ今の御質問にお答えいたします。

あいねっと放送につきましては、昨年度、これまでのIP告知端末からタブレット設置、或いは質問議員おっしゃいましたライブビジョンのスマホアプリをダウンロードしていただくものに、運用を変更したところです。

普及状況につきましては、6月4日時点で、タブレットの申込件数が1,556件ございまして、1,452件の設置が完了しているところです。

ライブビジョンのスマホアプリにつきましては、3,095のダウンロードがなされております。内訳は、町内におけるダウンロードが2,981、町外が114となっております。

今後の普及に関する取組につきましてはですが、タブレット設置を希望される方には随時設置を行いつつ、アプリにつきましては、ポスター等を自作して、公共施設、或いは公民館に掲示する予定です。

また、要望がございましたら、各分館のですね、集会等に出向きまして、アプリのダウンロード、操作方法などの説明を行っていきたいと思っております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 1番、谷口議員。

○議員（1番 谷口 一也君） 1番。ありがとうございます。現在、スマホアプリについて、3,095ダウンロード数ですね。これまでと違っていて、一人一人、スマホを持っておられるわけで、今までのように1軒に1つじゃなく、例えば我が家では7つ、7個、ダウンロードしております。私が3個をダウンロードしておりますけれども。そういう感じで、3,095というのはちょっと少ないように感じますが、いかがでしょうか。

○議長（荒川 孝一君） 岩尾企画観光課長。

○企画観光課長（岩尾 和文君） ただ今の御質問にお答えいたします。

この3,095のダウンロードということで、ちょっと、うちのほうでも、この数値がいかほどなものなのかという調査を、試算をしてみました。

各区ごとの世帯数がございます。ダウンロードされる御年齢につきましてはもう18歳以上、選挙管理委員会がかんでおります選挙人名簿登録者数ですね、各区ごとに割り算をして。各区ごとのダウンロード数も出ておりますので、そちらで試算してみたところ、今、質問議員おっしゃいますように一家で7台持たれているというのはちょっと想定外に置いといてですね、その3,000を割ってみますと、1,400世帯ほどのダウンロードがされていると。まあちょっと粗い計算にはなりますけれども、そのようなつかみはしたところです。

それでいきますと、1,500のタブレットと合わせまして、約75%の世帯が利用している試算はしましたんですけど、この数値もですね、あくまでも概算ですので、まあこれよりも下なのかなと今考えているところで、今後の普及について、積極的に行ってまいりたいと考えているところです。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 1番、谷口議員。

○議員（1番 谷口 一也君） 1番。75%の普及率ということで、まあ、現在ではまあまあじゃないのかなというふうに感じますけれども、ますます普及させていただきまして、分館長さんも新しく替わられたところもありますし、行事も色々進んでまいりますので、町と町民の方を結ぶツールとしてですね、非常に私は有効なアプリだと思っております。

それから、これが、町外です、世界中におってもこの「あいねっと」の放送を聞けるわけですので、町外の方。義務教育終わられて高校卒業されて、それからほとんどの方が町外に住まわられていくわけですが、その方々も、是非このアプリを持ってよそに行っていたら、常に錦町のことを気にかけていただければなというふうに感じるわけです。

それから、錦のいろんな広報、小学校の便りとか中学校の便りとかは回覧板で回ってきますけれども、このライブビジョンのその「あいねっと」は、別に印刷する必要もないし、配送する必要もないし、とても低コストで情報を届けることができます。そういった、非常に、情報を提供する上で便利なツールですので、それからメニューも簡単ですので、そういったのを工夫していただいて、これからも色々その工夫して、情報を発信していただければなというふうに感じるわけです。

この町外にお住まいの方での普及の方法とか、何か今考えておられるところがありましたら教えてください。

○議長（荒川 孝一君） 岩尾企画観光課長。

○企画観光課長（岩尾 和文君） ただ今の御質問にお答えいたします。

町外にお住まいの方につきましては、地域おこし協力隊や、町のホームページなどのSNSの紹介とか移住・定住イベント等で、これからも、そのような紹介を行っていただければと思っております。

また、ふるさと祭りとか、各場所での錦会等のイベント情報とかも、「くらしの情報」という欄に、イベント、広報紙と町ホームページというボタンがございますので、その中に、様々な情報を発信していただければと考えているところです。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 1番、谷口議員。

○議員（1番 谷口 一也君） ありがとうございます。

ふるさと納税がありますけれども、ふるさと納税は各町村に対する応援の寄附金でありまして、その町外の人たちが、こういったツールを、ライブビジョンやらを見ていただいて、「ああ、錦町、応援したいな」という気持ちになっていただいておりますね、このふるさと納税のほうに結びつけばいいんじゃないかなというふうに感じております。

例えば、つい先日行われました熊本県の高校総体でも、スポーツ推進をしていただいておりますところの子どもさんが、ソフトテニスで県で準優勝と。優勝はできませんでしたが、県で準優勝ということで本当に大変すばらしい成績だったなとも感じているところです。

これも、話は変わりますが、錦中にソフトテニスのオムニコートも整備していただいて、照明も設置していただいて。まあ、照明はちょっと暗いですが、ふるさと納税をたくさんしていただいて、照明がよくなればなというふうに感じているところです。スポーツ関係は、伝統とか上下とか、つながりが多いですので、先輩たちが見ていただければなというふうに感じておるところであります。

最後になりますけれども、我が家では、この錦町で始まったアプリをインストールしようと思っておりました。ス

マホは、インストール簡単にできました。ですが、錦町から提供されるタブレットは遠慮しまして、我が家にあったタブレットにインストールしようと思ったら、インストールができませんでした。「おかしかな」と思ってから色々やってみたんですが、町のほうにお尋ねしましたところ、カメラのオートフォーカス機能がないからインストールできません、という回答でした。

錦町ではサービスを行われてないと思いますけども、カメラを使ってですね、例えば、オートフォーカスがあって、一人住まいの高齢者の方の画像を見たりとか、そういった健康管理とかのことをされている地域もあるのでしょうか。そのライフビジョンは、そういった機能を持っていると。

このライフビジョンのアプリのインストール以外に、ライフビジョンMDMという管理用のツールがあります。当然、私なんかはインストールはできませんけれども、この管理者用の、運営管理者用のライフビジョン、これでは、例えば町民の方がどうも調子が悪いといったときに、その調子が悪い端末に接続して、ライフビジョンのその原因究明を行えるようなソフトがあるわけですが、そういった町民の方の不具合の対応とかは、錦町でされているのか。

その際に、カメラにアクセスできるちゆうことは、私はちょっと心配になったわけですので、そういったセキュリティーの面について、ちょっと教えていただければと思います。

○議長（荒川 孝一君） 岩尾企画観光課長。

○企画観光課長（岩尾 和文君） ただ今の御質問にお答えいたします。

タブレットの地区設定や遠隔状況確認は担当課において対応可能でございますが、セキュリティーにつきましては、管理ツールにログインする際に、IDとパスワードが必要となります。また、利用者ごとに、利用権限の設定も行っております。タブレット及びスマホアプリにおきまして、管理ツール内には利用者からの個人情報の入力はありませんので、地区集落で、ひもづけしているところです。タブレット番号の管理につきましては、担当課で管理しております。

今、質問議員おっしゃいました、不具合とかですね、そのようなものに関しましては、まず担当課に御連絡いただいて、担当課でできるものは担当課で、メーカーでできる、メーカーしかできないものであればメーカーに依頼するところでございます。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 1番、谷口議員。

○議員（1番 谷口 一也君） ありがとうございます。

色々、今のソフトなんかは思いもかけず、バックドアとか色々ありまして、そういったものを排除してですね、よりよいツールとして、やっていただければなというふうに思っております。

これから、このライフビジョンの「あいねっと」は、双方向というかですね、メニューも簡略化ですので、いろんなことができると思います。是非、創意工夫をされまして、よりよい錦町の発展のために寄与できるように、よろしくお願いいたします。

これで、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（荒川 孝一君） 1番、谷口一也議員の一般質問が終了しました。

○議長（荒川 孝一君） ここで休憩します。休憩後は午前10時40分から開議します。

午前10時29分休憩

午前10時40分再開

○議長（荒川 孝一君） 休憩前に引き続き開議します。

2番、丸小野聖一議員の一般質問を許可します。2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） 皆様おはようございます。丸小野聖一でございます。議長の許可がありましたので、令和6年第2回錦町議会定例会一般質問を行います。

毎度、質問のごとに申し上げますが、私が目指すものは1、希望、将来が明るく生きがいを感じる社会、2、創生、今ある価値、そして新しい価値を創造する社会、3、伝統、過去を重んじ未来につなげる社会でございます。本日は通告書に基づいて質問を行います。

質問事項1、耕作放棄地・離農と農林業振興対策について、2、地元産を利用した学校給食の推進について、3、上下水道インフラ施設維持について、以上3つの事項について質問させていただきます。

それでは、これより質問席より各質問を行いたいと思います。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） 2番。それでは、質問事項1、耕作放棄地・離農と農林業振興対策について御質問させていただきます。

その前に、この質問事項1、2について、外的要因といいますか、大きな影響を与えているのが昨今の円安でございます。いわゆるリーマンショックあたりでいうと1ドル80円の円高の局面から、急激に今156円、7円ぐらいで動いておりますが、円安が進んでおります。この円安の影響が各事項、私が御質問させていただくところにも影響がございます。

例えば私が7年前タイに行きましたときは、1万円を両替すると、4,000パーツもらえました。今現在、2,500パーツを切っております。例えばゴルフに行きますと、こちらの地元で、錦町でゴルフに行きますと、韓国の方が非常にたくさんいらっやあって、「安い、安い」と言いながら、ゴルフも楽しみ、温泉も楽しみ、食事も楽しんでいらっやるといような姿が見てとれます。この10年以内に大きな変化があったのは間違いないかと思えます。

この質問事項1と2につきましては、そこも踏まえまして、今後、為替の円安、円・ドルの状況どうなるか、まだまだ不透明な状況ではあるかと思えますが、それも踏まえて御質問させていただきます。

それでは、質問事項1の要旨、耕作放棄地の現状についてお尋ねいたします。

○議長（荒川 孝一君） 高波農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（高波 昌一君） 質問事項1、耕作放棄地・離農と農林業振興対策について、質問の要旨、耕作放棄地の現状についてお答えいたします。

錦町の農地面積は令和6年度時点で1,550ヘクタール、遊休農地面積は0.7ヘクタールです。遊休農地の過去3年間の推移は、令和3年度3ヘクタール、4年度1.7ヘクタール、5年度は0.9ヘクタールとなっております。

なお、遊休農地の調査は毎年、農業委員、農地利用最適化推進委員による利用状況調査で把握しています。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） 2番。ありがとうございます。錦町の農地面積は1,550ヘクタール、遊休農地面積は0.7ヘクタールということが確認されました。

それでは、その耕作放棄地の問題点、これを教えてください。

○議長（荒川 孝一君） 高波農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（高波 昌一君） お答えいたします。

問題点としては、遊休農地の発生により周辺農地への悪影響が出てきます。具体的には有害鳥獣の隠れ家になったり、日照、通風にも影響します。また、適切な維持管理が行われなくなると、農地・水であったり、中山間地の補助事業にも影響してきます。農家の高齢化や後継者不足により、根本的な解決は難しいものの、守るべき農地は守り、そうでない農地は緩衝地帯や非農地化へと対応していかなければならないと考えます。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） ありがとうございます。守るべき農地は守り、そうでない農地は非農地化へ対応するということが分かりました。

次に、離農について御質問させていただきます。

離農というのは「離れる農業」というふうに書きます。錦町の農家数推移、具体的な数字で教えていただければと思います。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） ただ今の御質問にお答えいたします。

錦町の農家数の推移を農林業センサスの数値で御説明いたしますと、平成17年度1,041戸であったものが、令和2年では778戸と、25%の減少となっております。来年2月に実施されますセンサスの数値が気になるころですが、これまでの推移どおりですと、700戸強が予想されているところです。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） 2番。ただ今の今までのお話から、錦町の遊休農地は0.7ヘクタール、農家数は778戸、将来的には700戸ぐらいになるというお話もありましたが、これを全国の数字と比較してみました。耕作放棄地は、2015年が最新なんですけど、42万3,000ヘクタールでございます。錦町の耕作放棄地、これで割り算しますと、0.000165%となりました。零が多過ぎて、ちょっと分かりにくいと思うんですが、2020年の農家数は107万6,000件となっております。錦町の778戸で割りますと、0.07%でございます。これ非常に乱暴な計算なんですけど、この開きは424倍ということでございます。

これが正確な計算かどうかは検証が必要なんではありますが、ここから言えることは、錦町においては耕作放棄地もあり農家数も減っているものの、農家間での協力・工夫が行われており、極力遊休農地にならないような各地域ごとの努力が行われており、その努力・協力・工夫は全国平均を大きく上回ると考えられます。これは私の主観でございますので、この計算から考えることでございます。いわゆる手と手を取り合って皆さん一緒に農業を頑張っている、その姿が錦町では見られるというふうには考えます。

球磨・人吉地域間の比較はできていませんものの、錦町の離農と耕作放棄地の対応は、現時点では全国平均以上の成果と言われるのでしょうか、上げられている、みんな一緒に頑張っているというふうには考えられます。

さて、その耕作放棄地の対応、対策について教えてください。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） お答えいたします。

耕作放棄地への対応につきましては、国の事業、県の単独事業、それぞれあります。年によって件数にばらつきは

ありますが、過去から活用いただいている状況です。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） 2番。ありがとうございます。今後の国、町の対応としてはどういうことを考えていらっしゃるのでしょうか、教えてください。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） お答えいたします。

国においては、25年ぶりに食料・農業・農村基本法が改正されました。25年前とは農業を取り巻く環境は大きく変わっております。今回の改正はそれらを反映したものとなっており、それを踏まえた新たな施策が展開されることになるかと思えます。町としても地域計画を策定し、地域の課題を洗い出し、皆さんで共有し、地域内外から新規就農者や農業法人などを受け入れるきっかけとなり、地域内外にアピールする手段として活用できればと思っております。

また、令和5年度から最適化土地利用総合対策が展開されております。これまで町での活用はありませんが、将来の土地利用構想図を基に各種取組を実施することになるため、本年度作成します地域計画の目標地図を基に取り組んでいけるかと思えますが、内容的に現在実施している多面的機能支払交付金事業や中山間地域等直接支払事業と重複する部分であるため、農家の負担を考えると、慎重に進めていく必要があるかと考えております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） ありがとうございます。

次に、第6期錦町総合計画より農林業振興対策についてお伺いいたします。

農林業振興対策、②農林業従事者への支援として、まず新規就農者への支援についてお伺いいたします。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） お答えいたします。

新規就農者の確保対策としましては、就農初期の経営確立を支援するため、国の新規就農給付金が平成24年度にスタートし、錦町でもこれまで35経営体、43人の方が給付を受けておられます。また、国の制度に該当しない親元就農者への支援として、町独自の給付金事業を平成30年度からスタートして、これまで18人の方が受給されております。

直近では令和4年度に国の事業、町の事業、それぞれ1名が新規に認定されております。また、町の事業においては、今年度採択者から、くまもと農業経営相談所等の支援機関の活用を義務づけ、専門家等の支援チームにより経営・発展を支援することとしております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） 2番。次に、人材不足の解消についてお伺いいたします。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） お答えいたします。

新規就農者の確保と併せて、町で重点的に取り組んでおりますのが、スマート農業の推進になります。作業の省力化により少人数での作業が可能になったり、高齢になっても作業ができたり、人手不足の補填材料になるかと思っております。

おります。結果、労働時間の短縮や作業の負担軽減により、就農希望者へのアピール材料にもなり得るため、人材確保にも結びつくのではないかと考えております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） 2番。ありがとうございました。新規就農者への支援、人材不足の解消についてお答えいただきました。

それでは、3番目、協業化・法人化による経営力の強化についてお伺いいたします。教えてください。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） お答えいたします。

現在、錦町には15の農業法人があります。うち、農業生産の協業を図る農事組合法人が1法人ありまして、農業の受託作業を行っていただいております。関連しまして、受委託のあつせん、調整を行うための組織として、錦町・相良村・五木村のJAくま中央営農センター管轄の町村とJAで出資する中央地域農業支援センターを設立しております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） ありがとうございました。この農林業というのは錦町の基幹産業であり、先ほど申し上げましたように、耕作放棄地、それから離農の件数から導き出しました私の考えなんですが、全国平均以上に維持されているというふうに考えます。

例えばの例なんですけど、私の父親がカライモを、去年は2トンと言っていましたが、作っております。詳しくはちょっと覚えてないんですけど、何か畑に不具合があったということを近隣の方が発見されて、うちの父親に連絡するまでもなく、その不具合を修正いただいたと。これを何回もうれしそうにうちの父親が話すわけです。そういう隣近所の協力、工夫、助け合い、手と手を取り合っているということが今現状行っている、農業を支えている一つの要因ではないかなというふうに考えます。

長期的な観点で見ますと、後継ぎ問題、人口減少、成り手不足、円安による資材・肥料等の高騰、色々な問題がありますが、この質問の最後に農林業についての町長のお考えを、今後についても結構なんですが、お聞かせいただければと思います。お願いします。

○議長（荒川 孝一君） 森本町長。

○町長（森本 完一君） 御質問を頂きましたが、非常に難しい問題でございまして、質問をる頂きましたが、もう全てが本当に1項目1項目取って考えていっても、答えが出ないというのが今の現状かと思っております。そういうことがないように町といたしましては、農業者の方からいろんな補助事業等も申請がございます。それに対しましてはしっかりと、町の予算というものもありますので、その予算の範囲内では国、県に相談しながら、しっかりと農業を支えていかなければならないと思っております。

質問議員、冒頭おっしゃいましたように、錦町の基幹産業は農業でございます。しっかりと農業を支えていく所存でございます。

以上でございます。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） 2番。町長、ありがとうございました。非常に難しい問題ということで分かっていな

から御質問させていただいたんですけど、十分な御答弁、本当にありがとうございました。

それでは、質問事項2、地元産を利用した学校給食の推進についてお伺いいたします。

これも錦町総合計画の農林業振興対策の中に、地元産を利用した学校給食の推進として、ちょっと読み上げますけど、「豊富な農畜産物の生産を誇り、安心安全な錦町の食材を地元の小・中学生に食べて知ってもらえる機会を提供し、郷土への誇りと愛着を育むと共に、町の農畜産物の消費が安定的に保たれ、生産者の安定的経営、さらには町の食料自給率の維持向上へとつなげるため、町で生産された農畜産物を多く利用した学校給食の提供を行う」というふうに計画の中に書いてございます。

それでは、質問の要旨の1でございますが、学校給食の現状についてお伺いいたします。お願いします。

○議長（荒川 孝一君） 尾方教育振興課長。

○教育振興課長（尾方 良一君） ただ今の御質問、学校給食の現状についてお答えいたします。

学校給食の現在の提供数、配食数と、現在の経費等について御説明させていただきます。

学校給食の配食数は児童生徒及び教職員等の総数となり、令和6年度、1日当たり1,037人食となります。令和2年度から令和5年度までの4年間は約1,070人食ですので、若干減少している状況にあります。来年度以降については、より減少していくことが予想されております。

また、学校給食に係る経費についてでございますけれども、今現在、約1,000人分の食材費として御説明すると、令和5年度が5,400万円ほど、令和4年度が5,190万円ほど、令和3年度が5,120万円ほど、令和2年度が4,790万円ほどと年々増加している状況にあります。令和2年のコロナ感染症流行やウクライナ侵攻など、社会情勢の不安定化による物価高騰の影響をまろに受けている状況かと思われま。

以上になります。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） 2番。ありがとうございました。直近で、令和5年度で5,400万円ほどかかっているという確認ができました。

それでは、2番目の御質問で、地元産、地産地消についての現状を教えてください。

○議長（荒川 孝一君） 尾方教育振興課長。

○教育振興課長（尾方 良一君） ただ今の御質問にお答えいたします。

地産地消、地元産の利用についてでございますが、冒頭に質問議員からお話しありましており、錦町総合計画後期計画にも掲載されております。今現在も地産地消の推進は行っておりまして、これまでも多くの議員の方から質問や提案を受け、担当課として取り組んでおります。錦町産の米やタマネギなどの野菜の利用のほか、人吉球磨産、県内産、九州産というように、メニューに応じて食材の選別を行いながら進めているところです。

また、食育の推進も併せて行うこととしております。地産地消だよりの発行を年3回、学期ごとに実施しております。児童生徒及び保護者への周知・啓発も行っており、議員の皆様にも毎回御提供している状況かと思ひます。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） 2番。ありがとうございました。色々工夫をなされているというお話だったかと思ひます。

冒頭申し上げましたように、この物価高騰、食材についても高騰しているような状況でございます。その対策はどのようなことをやられていらっしゃるでしょうか。お願いいたします。

○議長（荒川 孝一君） 尾方教育振興課長。

○教育振興課長（尾方 良一君） ただ今の御質問にお答えいたします。

先ほど御説明したとおり、経費である食材費については年々上昇し、現在も生活用品の値上げや、天候不良等による野菜を中心に食料品の価格高騰は続いておりますので、給食センターの運営にも影響を及ぼすものと考えております。安定的に安価な食材の確保に努めているところではありますが、今現在、無償化としている給食費の値上げも含め、今年度に検討することとしております。

給食費につきましては、令和2年度に値上げを行いまして、今現在、小学生が月4,200円、1食単価が250円、中学生が5,000円、1食単価が301円の月額給食費としておりますが、4年を経過しまして、物価高騰による経費の増加が予想され、運営費の繰越金も底をつく状況になっておりますので、値上げをした上で、おいしい給食の提供に努めたいと考えているところです。

また、食材の納品に関しましては、契約を締結している3つの業者の方々と連携をさらに強化して、地元産食材の利用促進と安定供給の確保に努めてまいりたいと考えているところです。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） 2番。令和2年度に値上げを行い、給食費ですね、小学生4,200円、中学生5,000円ということのお話がありました。

たまたまなんですけど、今日、本日の日経新聞にこういう記事がございました。小中学校の給食費、自治体3割が完全無償化。自治体が1,794ございまして、うち547自治体が、約3割が完全無償化になっていると。当町もそういうような、この中に3割に入っているわけなんですけど、その記事の中で小学校の食材費ですね、最高が福島県の5,314円、最低が滋賀県の3,933円というふうに書いてございました。その差は1.3倍、各県ごとに差があるという記事でございました。全国平均は小学校で4,688円、錦町は4,200円となっております。中学校で5,367円、錦町では5,000円と、こういう記事が載っておりました。

これにつきまして私の私見というかですね、一生懸命この学校給食について努力されているということが分かりましたが、なかなか地産地消もこの物価高騰の折、しかも1,000人分の安定供給を行わなければいけない。これ仕入れも非常に大変だと思います、毎日のこととなればですね。

ただ、私の小学校、中学校時代には、給食に対しては本当においしかったなという記憶しかなくて、私はアレルギーがあったんで、イカとかカニとかエビが出ると大変だったんですけど、そういう思い出がございます。

やっぱりこの地産地消につきましては、私のお願いでもございますが、米だけは是非錦産のものを100%御使用いただければ、子どもの将来の記憶の中にも残りますし、錦町の米はおいしいなというふう間違いなく思ってくれると思うんです。その米だけでもというところでちょっと御答弁いただければというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（荒川 孝一君） 尾方教育振興課長。

○教育振興課長（尾方 良一君） ただ今の御質問にお答えいたします。

地元産の食材の利用に関して、御提案のとおり米だけでもということで、米に関しては本町においても豊富に生産されております。今後、錦町産の米の利用に関して取組を進めていけたらというふうに考えているところです。

今現在も契約業者様を通して錦町産の米ということで指定をした上で入荷をいただいている状況はございますが、実際のところ、どのような状況になっているのかというのは、十分な把握まではできておりません。今年度の米

の仕入価格も、現在の状況から影響を受けまして、昨年の値段より10キロ当たり400円強の値上がりをしている状況にあります。

そういったことから、より安価で安定して供給していただける業者様が確保できるようであれば、是非、今後業者様と協議の上で検討していければというふうに考えているところです。

以上になります。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） 2番。ありがとうございました。約1,000人分の食材を安定的に仕入れ、確実に供給していく。この物価高騰の中、様々な工夫を、安全安心でおいしい給食を提供すること、非常に難しいと思います。私も飲食店を営んでいるので、電気、ガス、水道等々、今以上に値上がりするかもしれませんし、ますますそういう局面も難しくなってくるかと思えます。

最後に、教育長にお伺いいたします。地産地消に限らず学校給食についてお考えをお聞かせください。お願いします。

○議長（荒川 孝一君） 毎床教育長。

○教育長（毎床三喜男君） ただ今の御質問についてお答えします。

学校給食につきましては、その根拠は昭和29年に施行されました学校給食法が根拠となっております。もう施行されて70年ほど経過しているところです。当時は戦後の食料事情から栄養不良の子どもたちも多く、その児童生徒の健全な心身の発達を願って施行されたものと理解しております。今のような給食の実施形態も半世紀以上たっておりますので、現在はその一番の目的はもう既に達成されたものと考えております。

ただ、その学校給食法に掲げられました目標には、日常生活における食事についての正しい理解、明るい社交性や協同の精神の涵養、食生活を成り立たせる自然・命への敬意、食を支える人たちへの感謝、そして様々な食文化への理解など、学校給食を通して子どもたちが学び身につけるものが示され、その目標に照らして、各学校で子どもたちの発達段階に応じて給食指導が行われているところです。

かつて飽食の時代とか孤食、一人で食事する孤食という悲しい言葉もありましたが、今は食育基本法の施行などもあり、学校における食の指導も充実してきているところです。

給食の提供につきましては、先ほどからの答弁のとおり、物価高騰など直面する問題もありますが、何より給食は子どもたちにとって楽しみな時間であり、笑顔の時間だと思っております。また、食に対する興味も、今は情報番組等もたくさんありますので、そういう興味・関心も高く、将来、食を提供する職業に憧れ、目指す子どもたちも少なからずいるところです。そのような点を大切にしながら、今後とも安全でおいしい給食の提供に努めたいと思っております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） 2番。ありがとうございました。今、2つの質問を伺いましたが、農林業振興、これと学校給食というのはうまく結びつけられれば、それなりの成果が出るのではないかというふうに考えます。是非、地産地消を推進していただいて、先ほど出ていますように、コストもかかるかもしれませんが、子どものために、錦町のために、ここはより強く進めていただければというふうに思います。

それでは、質問事項の3番目、上下水道インフラ施設維持についてお伺いさせていただきます。

これも錦町の総合計画の中に入っておりますが、そこについては読まさせていただくことはもう割愛させていただきます。

だきます。

まずは、上水道についてのインフラの現状についてお願いいたします。

○議長（荒川 孝一君） 上野地域整備課長。

○地域整備課長（上野 陽一君） それでは、上水道のインフラ現状についてお答えします。

錦町の水道施設の概要については、水源地が西地区2ヶ所、一武地区2ヶ所、木上地区1ヶ所の計5ヶ所、浄水場がそれぞれの地区に1ヶ所ずつ、配水池がそれぞれの地区に2ヶ所ずつ整備しており、配水管を通りまして各家庭へ飲料水を供給しております。

施設の状況につきましては、償却資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標である有形固定資産減価償却率が令和4年度において19.75%となっており、類似団体の50.02%と比較して低い状況となっております。要因としては、本町の管路等を含めた施設が比較的新しいためです。

これは錦町の水道事業が、組合水道や飲料水供給施設などの民間を主体とした普及を発端としており、公営の水道事業については平成3年度に計画策定と、他自治体と比較しまして遅れていたためです。その後、平成5年度より簡易水道事業が展開され、一武地区、西地区、木上地区と順次整備し、平成24年度に完了、平成29年度に上水道事業に移行し、現在に至っております。その間、組合水道を統合した際に譲り受けた水道管については、20年以上経過するものもありましたので、平成20年度から順次管路更新を行い、平成27年度におおむね完了しております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） 2番。ありがとうございました。

次に、下水道事業について伺いいたします。現状はどうなっているのでしょうか。

○議長（荒川 孝一君） 上野地域整備課長。

○地域整備課長（上野 陽一君） それでは、下水道事業についてお答えします。

下水道事業につきましては、熊本県と錦町を含めた上・中球磨5ヶ町村が一体となり、下水道事業、いわゆる球磨川上流域下水道事業を進めており、下水の終末処理場と、各町村間を含む下水道の幹線建設を熊本県が実施し、この下水道幹線に接続する枝線の建設を各町村が実施しております。今年度におきましても、流域下水道維持管理負担金を4,000万円、それから建設負担金を1,300万円の予算を計上し、処理場などの維持管理、それから更新経費について負担しているところです。

本町の下水道事業については、平成4年度に計画を策定し、当初の全体計画面積312ヘクタール、平成22年度には計画面積を220ヘクタールに変更し、平成28年度に面的整備が完了しております。また、雨水対策として松里地区にてボックスカルバートを敷設する工事を平成5年度から平成18年度にかけて実施し、常習的に発生していた当該地区の浸水被害を解消しております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） ありがとうございました。

今後について、上下水道のインフラについてはどういうふうを考えていらっしゃるでしょうか。上水道と下水道を同じくして簡潔にお答えいただければと思います。

○議長（荒川 孝一君） 上野地域整備課長。

○地域整備課長（上野 陽一君） お答えします。

水道事業については、令和5年度にアセットマネジメントを策定し、安心安全な水の供給と持続可能性を実現するために、中長期的な更新需要の見通し及び将来の財政収支の見通しを明らかにすることとしており、今後100年における更新需要と今後40年の財政収支の見通しを検討しております。

更新需要である建設改良費を年間約1億4,000万円に設定しまして、設定耐用年数で重要管路のみを更新するケースを基として今後40年の財政状況を見ますと、料金を据え置いた場合には直近で累積純損益額、資金残高、共にマイナスとなり、資金ショートのおそれがあるとの結果が出ております。

したがって、今後40年、維持管理経費と併せまして施設の更新を計画的に実施するためには、料金改定は避けられないこととなります。県平均及び球磨圏域市町村と比較しても錦町の水道料金は低い状況でもあり、まずは令和8年度を目標に5%から15%の範囲内で料金改定を検討していきたいと考えております。その際は議員をはじめ住民の方へ広報紙等を活用しながら丁寧に説明していきたいと思っております。

また、下水道事業については、平成30年度にストックマネジメントを策定し、施設全体を対象とした施設管理を最適化することとしております。その中で改築投資額及び健全度の推移から総合的に判断しましたところ、町の事業費予算を毎年1,000万円として改築した場合のシナリオが最適とされたところです。その後、改築工事は実施しておりませんが、今年度におきまして、平成6年度に敷設した最も古い管路の点検業務を予定しており、管路の腐食・破損等の状況を見ながら管路の更新については検討していきたいと思っております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野議員。

○議員（2番 丸小野聖一君） ありがとうございます。人口減少時代の水道事業、今後ですね、次回の質問に、9月の質問にしたいと思うんですが、広域化、民営化、それから地震、災害の対策等々、大雨もそうなんですけど、色々リスクもはらんでおりますので、これは次回の質問でやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 2番、丸小野聖一議員の一般質問が終了しました。

○議長（荒川 孝一君） ここで昼食のため休憩します。休憩後は午後1時30分から開議します。

午前11時25分休憩

午後1時30分再開

○議長（荒川 孝一君） 休憩前に引き続き開議します。

8番、岡田武志議員の一般質問を許可します。8番、岡田議員。

○議員（8番 岡田 武志君） 皆さん、こんにちは。8番議員の岡田武志です。ただ今、議長のお許しを頂きましたので、これより令和6年第2回錦町議会定例会の一般質問を行います。

今回の私の質問事項1として、明るく住みよいまちづくりについて、2、地域の要望に対応するためのボランティア活動について、3、狩猟免許の取得状況について、4、町長の政治姿勢について、4つの項目について質問いたします。

質問の要旨として、①防犯灯と防犯カメラの設置基準と現状はについて質問いたします。

以下の質問は質問席より行います。

○議長（荒川 孝一君） 8番、岡田議員。

○議員（8番 岡田 武志君） 8番。今、錦町の中で防犯灯の設置状況と防犯カメラの設置台数についてお伺いいたします。よろしくお願ひします。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） ただ今の御質問にお答えいたします。

まず、防犯灯の設置についてですけれども、防犯灯の設置につきましては地区からの要望に基づきまして、要望が出てきましたら周辺の防犯灯の設置状況や通学路などの状況を調査しまして、必要と判断する場合は町で設置をしております。

また、修繕や更新につきましても町で行っておりますが、電気代の負担については地区にお願いをしているところです。令和5年度につきましては、新たに16基設置しまして、取替えなど42基、行っております、地区からの要望には今のところ全て対応はできていたところです。

防犯カメラにつきましては、現在25台設置をしております。内訳につきましては、地区別に西地区が7ヶ所、一武地区が11ヶ所、木上地区が7ヶ所となっております。設置の場所につきましては、公共施設周辺が11ヶ所、道路交差点周辺が14ヶ所となっております。

また、落雷によってカメラの故障などが、長期間、不具合の状態のままのカメラもあったということで、昨年度から定期的なカメラの動作点検や故障対応など専門の事業者にて委託をしております、現在、全てのカメラが問題なく稼働しております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 8番、岡田議員。

○議員（8番 岡田 武志君） 8番。ただ今の課長の答弁によって、毎年17基程度の防犯灯が設置されているということで、確認ですけども、この地域の要望というのは、これは区長さんからの要望になるわけでしょうか。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） 議員おっしゃいますように、地区の代表の方、地区長ですね、の方からの要望によってということになります。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 8番、岡田議員。

○議員（8番 岡田 武志君） 私は過去に防犯灯、防犯カメラについて質問をしておりますが、ここ数年、コロナ禍によって各分館の行事とか色々延期、中止、会議等もできなかつた、そういったいろんな状況があつて、様々に世の中が変化して、リモートの会議であつたり、どんどん変わってきたわけです。

その中で、先ほど言われましたように、今回、新しい区長さんがですね、錦町26分館ですよ、或いは先ほども新しく20人の区長さんが誕生されたというふう聞いております。その中で、私がコロナ禍で感じたのが、コロナ禍の3年間以上に及ぶ中でも役員さんとか区長さんは交代されてきたわけですよ。でも、その中で総会もできなかつた、なかなか会合もできなかつた、その中でちゃんとした役員の引継ぎができてきたのかなというふう、ちょっと疑問視をしたところもあります。

そして、町民の方から「防犯灯ってどういうふうにしたらつけてもらえるんですか」というふう聞いたときに、あー、なるほどねって思ったので、また今回こういう質問をしたわけです。

ということは、各地区の要望を区長さんが取りまとめて要望書を作成して、町に提出すると、そして町はその設置基準を判断して、合致すればすぐに設置ができるという判断でよろしいでしょうか。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） お答えいたします。

議員おっしゃいますとおりでございます。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 8番、岡田議員。

○議員（8番 岡田 武志君） 8番。防犯灯のことは今まで、昔から、今、蛍光灯からLEDに順次替わっているのかなというふうに聞いております。先ほど課長の説明があったように、防犯灯の設置は町で行うと、その維持管理も町で行うと、ただ電気代は各区で賄いなさいというふうになっていると思いますが、この防犯灯は全部LEDに替わっているのでしょうか、それともまだ蛍光灯の防犯灯も存在するのでしょうか。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） お答えいたします。

新設或いは町のほうで取替えをする際にはLEDのほうに交換をしておりますけれども、設置交換しておりますけれども、まだ蛍光灯の防犯灯も一部残っております。それが稼働している期間は、蛍光灯での防犯灯ということになるかと思えます。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 8番、岡田議員。

○議員（8番 岡田 武志君） 8番。前の答弁のとおりだと思いますけれども、蛍光灯であれば月々約300円弱ぐらいの電気代がかかると、LEDに替えれば160円か70円ぐらいになって、かなり電気代が安く済むということで、昔と比べれば、防犯灯の設置の電気代の賄いというのは、各分館は安くなっているのかなというふうに思いますが、そういうことでよろしいでしょうか、確認ですけれども。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） お答えいたします。

電気代につきましては、今議員がおっしゃいましたように、LEDになりますと、かなり安くなっているというのは承知しているところです。

ただ、現実には蛍光灯が稼働している部分についての交換については、壊れないと交換しないという形になっておりますので、蛍光灯が動く限りはまだ稼働、地区でそこら辺はまだ対応していただいているかと思えます。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 8番、岡田議員。

○議員（8番 岡田 武志君） 8番。今、説明したとおりだと思いますので、このあいねっとお聞きの町民の皆様、もしここに防犯灯が欲しい、暗いと、そういった要望があれば、各区長さんによろしくお伝えしてもらえば、区長さんがきちっと役場のほうに要望を出していただけるということですので、よろしくお願ひしたいと思います。

続いて、防犯カメラについてお伺いします。

先ほど25台ということで説明がありましたけれども、私の知る限りでは、学校周辺とか公共施設、あとは大きな交差点にあるのかなというふうに認識しておりますが、昨今、災害や事故、事件、全てにおいて早期解決に結びつくのは、防犯カメラの映像が大きな役割を果たしているのかなというふうに感じております。

この防犯カメラが事故、事件の抑止効果や、早期発見、解決につながっているものと思っております。錦町も例外ではなく、人が減っていく世の中でもあります。人が減るといことは、人の目も減っていきます。そうした中で考え

られるのは、いろんな事故や事件の防止、抑止、発見の情報が減っていくということを考えますと、これからは錦町の例えば分館の主要道路であったり危険箇所であったり、そういうところを各区長さんから洗い出してもらって、そこには設置していったほうがよいのではないかと思います、町長の考えをお聞きしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（荒川 孝一君） 森本町長。

○町長（森本 完一君） お答えいたします。

質問議員おっしゃいますように、いろんな今事件が発生しております。その事件なんかの解決にはカメラというのは非常に効果があるなと思っております。町については、設置要綱等をつくっておりますので、その要綱の定めに従って必要な部分についてはちゃんと設置をしていこうと思っております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 8番、岡田議員。

○議員（8番 岡田 武志君） 今、町長が答弁されたように、その設置要綱に準じて設置を考えていくということで、各区長さんたちと色々相談しながら、町と相談しながら設置をしていていただきたいというふうに思っております。

それでは、質問の要旨、②として道路縁石周辺に土砂の堆積が目立ち、雑草が繁茂している。早急な対応が必要だということで質問します。

これ資料を提出、見てください。これは西地区の旧ホワイト急便かな、の前辺です。これは前、5番議員も、2年ぐらい前やったですかね、一般質問でされて、非常に道路や歩道に出ていると。ここはその後に対応してもらって、きれいになったんですよ。1年、2年たちますと、またこう元気出して、今これ梅雨入り前ですので、これが梅雨時期に入ると、またぐんと伸びるんですよ。そうすると、歩道が非常に、半分、狭くなって、通行の妨げになりますので、これはまた手入れをしていただきたいなと思っております。

次の写真お願いします。これも西地区の国道沿いなんですけども、国道、これは近年ですね、昔は年に1回ぐらい建設業界の方が総出で国道の土砂を撤去していたんですよ。で、こういったように、国道端に草が繁茂することはあまりなかったんですよ。近年、人手不足と、どこの業界でも言われておりますけども、そういった状況の中で建設業界の方々のボランティア的な活動は非常に難しくなって、今こういった形になっているのかなというふうに思っております。

ただ、除草作業も毎年行われてはいるんですが、除草剤をまく、草を刈るといったことですので、結果的には堆積した土砂を撤去しなければ、すぐにこう草が茂ってしまうんですよ。

この写真を見ますと、もう今、梅雨、雨が降り始めると、草がこの倍ぐらい茂るんですよ。そうすると、雨が降ると草って寝てしまうんですよ。そうすると、この歩道は3分の1ぐらいになってしまうんですよ、両側から茂ったら。ここは小学校の通学路にもなっておりますし、当然高校生も自転車を通ります。また、町民の方も、昼間も当然通りますけども、夜に散歩であったり、ジョギングであったり、そういうことで通るわけですので、早急にこれ対応していただけないかと思いますが、見解をよろしくお願いいたします。

○議長（荒川 孝一君） 上野地域整備課長。

○地域整備課長（上野 陽一君） お答えいたします。

質問議員が提出されました資料を見ますと、かなりの雑草の繁茂状況とっております。これにつきましては、国道219号ということで、歩道利用者或いは児童生徒の通学時の安全性に影響がないように、しっかりと県のほうへ

おつなぎしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 8番、岡田議員。

○議員（8番 岡田 武志君） ここは国道ですので、今課長の答弁にあったように、県の管轄下となりますが、実際にこういった場所で事故等が起きれば、当然その被害者、加害者というのは例えば錦町の方である可能性が非常に高いわけであります。早急に県のほうに要望していただいて、撤去をお願いしたい。

私、前々から思っているんですけど、どうも熊本県の道路の整備状況が悪い。他県、鹿児島、宮崎と比べてもそういうふうに感じるが多々あるので、今回、県知事さんも新しく代わりましたが、強く要望していただきたいと思えます。よろしく願います。

続きまして、すみません、もう一回、映像がまだありますよね、この次の映像をお願いします。これは国道を舗装をやり直した部分なんですよね。やり直すと、きれいにアスファルト舗装し直して、縁石の部分にまた別の塗料を塗って、草が生えないような加工を今はしているみたいです。

だからといって、全部の国道をすぐに舗装してくださいというも、なかなかできない話なので、順次こういうことで県は対応していくかもしれませんが、早急にするのは土砂の撤去が一番だというふうに考えております。よろしく願います。

次です。続きまして、質問事項の2、地域の要望に対応するためのボランティア活動について、質問の要旨、ボランティア活動（無償・有償）を行う上で、色々な資格が必要である。例として、刈払機などの安全衛生教育、チェーンソーや小型車両系などの特別教育など、町としての考えはについて質問いたします。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） お答えいたします。

質問事項とはちょっとずれるかもしれませんが、農林振興課で所管しております多面的機能支払交付金事業の例で説明したいと思います。

刈払機、チェーンソー等の安全教育また特別教育の受講につきましては、共同活動を行う上での活動指針に位置づけられておりまして、事業の中で取り組むことができるようになっております。

また、小型車両系の資格取得に関しましては、直営施工のために必要であれば活動計画に位置づけることができますが、毎年度直営施工を行う必要があり、目的以外への使用は禁じられているため、実情は直営班に所属される方に限られるというような状況になっております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 8番、岡田議員。

○議員（8番 岡田 武志君） 8番。ただ今、農林振興課長からの答弁がありましたけれども、これはあるボランティア活動を農林振興から見た見解というふうにお聞きしました。

今、ボランティアというのは、いろんな注目を浴びていると思うんですよね。ここ近年、熊本の災害とか、球磨川の大水害、その後にボランティア活動であったり、復興活動であったり、いろんな活動がボランティアによって行われてきたという経緯があります。誰もが持っているボランティア精神という、これは誰もが、子どもから大人までみんな心の中に持っているのではないかとこのように思いますが、そういう思いがある反面、なかなかそのボランティア活動を行うには、いろんな技量といいますか、経験、そういうものが必要になってくると考えております。

一番身近にあるボランティア活動といえば、私が頭に浮かぶのは、まず消防団活動が一番の地域ボランティアでは

ないかと思ひます。本当に昼夜を問わず、災害や火災に対応していただく錦町消防団員の方には心からお礼を申し上げたいと。近年、3名の若い女性消防団員も加わっておりまして、できれば女性団員が増えていただければありがたいかなというふうに思っております。

また、町道手入れや溝さらえも、ある意味、今はボランティア活動に近いものがあるのではないかなというふうに考へているわけではあります。

昨日、初日の議会の中でもありましたが、町道手入れ中に刈払機等で石か何か飛んだと、それでちょっと車か何か破損があったと。前もそういうことがあったのではないかなというふうに記憶していますが、これは私が先ほど申した刈払機の安全衛生教育とか、チェーンソーの特別教育は、これは強制ではないんですよね。強制ではないんですけども、例えば我が家の庭先で刈払機を使うときにはこういう教育は受ける必要もないし、例えば小さな車両系やミニユンボといひますかね、バックホーも3トン未満のものであれば、自分の、我が家の敷地内では免許等は要らないわけではあります。

ただ、これが道路にわたるとか、それで作業をしてお金をもらうとか、そうした場合には必ずこういった特別教育がですね、講習が必要になってくると思ひますが、町長も普段から、ボランティア、ボランティアといひことはよく言葉にされております。ボランティアの必要性が大事なんだなというふうに私は受け取っているんですが、町長は、この今私が発言しております、こういった講習とか教育に対する、どのようにお考へでありますでしょうか。よろしくお願ひします。

○議長（荒川 孝一君） 森本町長。

○町長（森本 完一君） 私が認識しておりますボランティアとは、自発的にこの社会活動といひますかね、奉仕活動、それを行う人というような位置づけでございます。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 8番、岡田議員。

○議員（8番 岡田 武志君） いろんなこう、例えばシルバー人材に登録されている方であれば、そのシルバー人材センターのほうから例えばチェーンソーの講習であったり、刈払機の講習を受けてくださいといひような例えば指導があつているんだろうと思ひます。そうしないと、お金をもらうような作業はできませんので、必ずその仕事に対して、仕事といひるか、作業に対しての対価を頂くためには、こういう資格を持ちなさいといひような指導がどこの現場でもなされております。

ただ、今町長が言われたようなボランティアなんですけども、なかなか、無償といひますかね、無償ボランティアかと思ひますが、実際こういう講習を受けた人と受けてない人では、かなりの差があるんですよ。まずは、安全管理ができるか、できないか、自分で危険な行動をとらない、周囲に目を配るとか、あとはその使う機械の性能とか使い方を熟知すると、まずそういうことによつて安全な作業、的確な作業ができるようになるわけですから、それに伴つてその機械を使うスキルといひますか、技量が上がっていくという形になりますので、特に今からはボランティア活動とかをする上ではこういうのが必要ではないかと私は考へております。

要望が上がってくる、上がつてこないだけではなくて、これから考へると、そういった先を見た取組も、例えば役場職員もですし消防団員の方も、チェーンソーとか使う可能性もあるかもしれない、ユンボとかも使う可能性もあるかもしれない、そういった形で取り組んでいただければなというふうに思っております。

これは、今私が述べたように、私の考へでありますので、ただ私もいろんな講習、教育は結構受けてきました。近年感じているのは、数年前に車両系ですね、大きな掘削の講習に2日ぐらい行ったんですけど、女性の講習者が非常

に多い、今は、どの分野にも女性が進出しておりますので、そういったことで今男女を問わずに、そういう垣根もありませんので、男性だから、女性だからということは全くありませんので、そういうボランティアに対する気持ち、やろうという考えがある方には、積極的にいろんな資格を取るような指導であったり、助成であったり、そういうものをしていく必要があるというふうに考えております。

続きまして、質問事項の3に移ります。狩猟免許の取得状況についてお伺いします。

質問の要旨、鳥獣害対策の現状と町の対応はについて質問いたします。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） ただ今の質問にお答えいたします。

有害鳥獣の捕獲状況につきましては、鹿につきましては令和5年度で628頭、前年度比150頭の増、イノシシにつきましては240頭、前年度比91頭の増、猿につきましては17頭、前年度比3頭減といった状況で、実施隊の方に精力的に活動いただいている状況です。

狩猟免許の取得状況につきましては、令和5年度、町で把握できる部分では3名の方が新たに取得されておられて、ここ数年、毎年平均5名程度の方が取得されておられます。

初心者講習の日程につきましては、過去にも質問議員から時期をずらせないかとの御質問があった際に、猟友会のほうに伝えまして、これまで6月開催であったものが7月に変わった経緯はありますが、その後、6月、7月でまた固定されている状況ですので、毎年度、年間通したローテーションをしていただきますよう、また再度要望いたします。

ただ、現状の日程におきましても、秋から冬にかけて講習会は比較的近場の八代・芦北地域で開催されておられますので、そちらで取得される方もおられます。以前、質問議員から提案がありました、まとまった人数での管外講習会への参加につきましても、有害鳥獣対策協議会の事業の中で可能でありますので、そういった要望が多ければ実施していきたいと考えております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 8番、岡田議員。

○議員（8番 岡田 武志君） 今、課長の答弁の中で、6月に開催されていたのが7月に変わったと。私も記憶しておりますが、数年前まではこの錦町の会議室のほうで狩猟免許の講習が行われておられて、ちょうどこの議会中だったと、いつも思います。球磨郡はいつも錦町で、地元であるんだけど、議会中でなかなか受講できないと、そういった状況が続いて、今回、7月に変わったのはありがたいことではありますけども。

まず、鳥獣害って今非常に問題になっておるんですけども、鳥獣害対策としてはまず一番の対策は、これはある議員からも言われましたけど、今、テレビ等でありますが、日本中でいろんな対策が取られています。その議員が言われたのは、猿を追い払う手段として爆竹を使って、特殊な爆竹で火災も起きないと、それは効果があって、それを使うと10日ぐらいは猿が寄りつかないといった話があって、そういったものもありますよねという指摘をされました。

ああ、なるほどって、私もそういうふうに思いましたし、近年、去年は木上地区のほうで猿の被害があったのかな。今は木上は何か猿がいなくなって、西地区のほうに出るというふうに聞いております。そういった形で猿は群れで移動しますし、その木上にいた群れが川を渡って西地区に行ったとは考えにくいわけですけども、本当に50頭ぐらいの群れがありますので、そういった形で追い払うことができれば一番いいんですけども、追い払うということはまた別のところに移動するということですので、根本的には有害鳥獣の数を減らす、これが一番の解決策だと考えます。

そのためには狩猟免許の取得が大前提で必要なわけで、その免許を取ったからといって、すぐに鳥獣害を駆除できるスキルを持っているかという、全くそうではなくて、免許を取ったけど、ペーパードライバーのように1回もわたなを仕掛けたことがないと、中には銃の免許を持ったけど、実際に撃ったことがないと、そういう人もおられるかもしれません。

ですから、この鳥獣害を駆除するたびに錦町の捕獲実施隊の方々に大変お世話になっているんですけども、実施隊の方も年々年を取っていかれて、同じ実施隊の規模を維持するにも毎年毎年新しい免許資格者を養成していかないと、現状の維持もできないということになりますので、やはりテレビなんかを見ていると、九州には熊はいないということになっております。

でも、熊というのは、分かっているの、山口県まではたくさんいるわけですよ。熊も泳ぎが得意で、簡単に言うと、関門海峡ぐらゐすぐに渡ってくるわけです。天草にも昔はイノシシはいませんでした。でも、今、天草はイノシシ大量にいます。海を渡っていきました。そしてまた、大分では熊の目撃情報もあるんですよ。でも、実際はその確認ができてないので、いないということになっておるんですけども、分からないんです、これは。いるか、いないかというのは、はっきりしないんです。

熊は大変な生き物ですので、そういったものが九州でまた、昔はいたそうですけども、増えることがないようにしなければならぬし、東京や都心なんかで猿や鹿が出てきたとか、それとかあと千葉県ですかね、千葉県でキョンとって、鹿の仲間なんですけど、もともとは中国原産のそれが施設から数十年前に脱走して、それが繁殖して、毎年千何百頭とっているんだけど全然減らない。千葉のある町村では、町民の数よりもそのキョンの数が多い。テレビでニュースで出たのは、庭先を何頭ものキョンが行き来しているわけなんですよ。そういった状況で、もう時間の問題で東京の都心のほうにも来るんじゃないかと今危惧されているような状態です。

これは結局、繁殖に対しての駆除が追いついていないというのが現状であって、それを考えるとや、はり我々錦町も駆除隊の育成というんですかね、そういうのが非常に急務ではないかなというふうに思っているんです。

先ほど課長の答弁の中に、要望が多ければ実施したいと思えますという答弁だったんですけども、もうそうではなく、やはり目標値を決めて、10名が例えば免許を取っても、その10名が優秀なハンターになれるわけではないんですよ。ですから、毎年、興味がある人らは積極的に受講なり、補助、受けてもらうというのが大事ではないかと思えます。

また、今、補助的内容的にはどのような補助がなされているのか、お聞きします。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） お答えいたします。

初めて免許を取得される方を例にしますと、取得の費用が消費税を込めまして1万1,000円になっているかと思えます。そのうちの1万円を補助しているというような状況です。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 8番、岡田議員。

○議員（8番 岡田 武志君） 私の記憶は、1万1,000円で取れるんでしょうか。そのほかに経費はかからないんでしょうか。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） お答えいたします。

今説明したのが初心者講習会の費用でありまして、別に免許取得のほうで五、六千円かかるかなと思っております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 8番、岡田議員。

○議員（8番 岡田 武志君） さっきの、実施会場を見ると、熊本県内いろんなところで実施はされているんですけども、当然、例えば松橋であろうが、熊本市内であろうが、受けることはできるわけです。ですから、そうすると当然交通費もかかりますし、はっきり言って、7月にじゃあ受けてくださいと言っても、7月はまだ多分忙しい時期なんですよね。

ですから、ほかの試験会場で受けれるような、そういう体制ですね。前も言いましたけど、バス1台貸し切って行ってもらおうとか、そういうこともしていただければ、ありがたいかなと思っております。

この狩猟免許の取得というのは、本当に鳥獣害対策には必要不可欠というふうに思っておりますので、その中から優秀なハンターが育つということですので、これは非常に積極的な取組が必要ではないかと思いますが、今、町長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（荒川 孝一君） 森本町長。

○町長（森本 完一君） 冒頭の話、鹿が昨年よりも150頭、イノシシが九十何頭ですかね、昨年よりも多く捕獲したという実績でございます。人がおれば増えるかという、そうでもないかなと思いつつ、これを見ていたところでございます。

ただ、今、担当に聞きますと、実施期間というのがあるということでございますので、その実施期間に向けて町民の方が行くということであれば、広報紙等に載せながら、人を寄せていくということではできないんじゃないかなと思っております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 8番、岡田議員。

○議員（8番 岡田 武志君） この狩猟免許の初心者講習会なんですけども、先ほど言いましたように、男女問わずと、女性の方でも受けていただければありがたいかなというふうに思いますし、そうすることによって鳥獣害に対する知識とか認識も変わっていくのではないかなというふうに思いますので、何度も言いますが、男だけとか、女性だけとか、そういうことは全くございませんので、前向きな対応というか、よろしくお願ひしたいと思っております。

それでは、4番目の町長の政治姿勢について質問をいたします。

町長が掲げる、老いても明るく元気なまちづくりというふうに森本町長がずっと掲げてある政治理念と申しますか、町の在り方というか、そういうことでありますけども、その中で町長が行っている例えば保育料の助成であったり、給食費の完全無料化、小中学校の入学時の支援、また修学旅行費等の助成と、子育て、子どもの保護者に対しては非常に手厚くやられているなと思います。

この間、5月19日の分館対抗の球技大会、第1回だったですかね、そのときの反省会の中で、保護者の方、小学生・中学生の保護者の方としゃべる機会があったんですけども、その中で給食費の無償化に対しては大変感謝をしていると、ありがたく思っている、そうお伝えくださいというふうなお礼の言葉を頂いております。

そして、その中で私が近年感じているのは、今、子育てというのは、保護者だけで子育てできるような時代ではないんですよね。国も言っていますけど、地域で子どもを育てましょうとか、現状を見ますと、じいちゃん、ばあちゃんが頑張っている御家庭とか、じいちゃん、ばあちゃんが一生懸命孫や子どものために頑張っておられる御家庭もたくさんあると思います。

その中で、今、錦町の高齢化率と高齢者の人数というのは何人ぐらいおられるんですか。分かれば教えてください。

○議長（荒川 孝一君） 吉田保険政策課長。

○保険政策課長（吉田 誠二君） ただ今の御質問にお答えいたします。

令和6年5月末の数字になりますが、65歳以上の高齢者の数が3,521人、高齢化率にしまして34.9%となっております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 8番、岡田議員。

○議員（8番 岡田 武志君） 錦町の人口が約1万人ちょっとですから、言われたとおり、3,500ぐらいが65歳以上ということですのでよろしいんですね。つまり3分の1以上の方が65歳以上であります。

実際が、近年ですね、例えば昔であれば自分たちはもう退職して余生をゆっくり過ごしたいと、そういった時代もあったんですが、近年は人手不足といいますか、若い人たちの割合が少のうございまして、なかなか高齢者も頑張ってもらわなきゃならないというような時代に突入しております。国も、この間ニュースで見とったら、今度から高齢者のくくりを70歳に引き上げようかと、そういった議論をしていると、そういった話も聞きます。そしてまた、有名な企業も70歳まで雇用しましょうかと、そういった話も出ています。そういった形で、高齢者に対する期待もありますし、もう当てにしているわけですね。それが今の日本社会であります。

地域の子育てというのを今はみんなでするんですけども、先ほども言いましたように、子育て世帯には手厚い施策がとられているんですけども、近年よく聞きますのは、自分たちも一生懸命働いとつとばいと、働いとつとばってん、なかなか大変かばいと。高齢者の中にも生活に余裕がある高齢者もおられますし、そうでない高齢者もおられるわけですね。コロナ禍の中で錦町は、2回ほど商品券があった、2回ぐらいあったんですね。これは全住民、町民に対して配布をされました。

私が思うのは、これから、無理なことは言われんとですけども、できる範囲内で先輩方に、できる範囲内で色々御尽力くださいという社会に突入しております。そういったところを考えると、例えば1年に1回ぐらい、5,000円程度の商品券ぐらいは高齢者に配ってもよろしいのではないかと私は思っております。

現在、給食費の無償化が行われておりますが、中学生はたしか月5,000円、小学生は月4,200円。ですから、年間に1人当たり5,000円の商品券を配ったとしても、そんなに罰は当たらないんじゃないかと思っておるわけです。じいちゃん、ばあちゃん、ありがとう、これからは元気でよろしくねと、そういう感じで、私たち世代も頑張らなければなりませんけども、本当に高齢者の先輩方にも色々お願いをしていかなければならない時代に突入したのかなというふうに考えております。そのことについては、町長は今どのようにお考えでしょうか。

○議長（荒川 孝一君） 森本町長。

○町長（森本 完一君） 午前中、2番議員のほうから質問が、給食費の話でございましたけれども、やはり若い人たちが一番そういう支援制度を求めてきておりましたのが、医療費と、この給食費の補助でございました。

医療費につきましては、令和元年でしたかね、に支援しておりますし、給食費につきましては、完全無償化につきましては令和4年度から、その前にコロナがあったりしておりましたので、町も創生交付金、これを活用しまして、保護者の方から、一部分ではございましたけれども頂いて、できるだけ地元の方からはお金をもらわないというようなことをずっとやってきておりました。

今回、私が掲げておりますのは、人の和を大切にして、老いても安心して暮らせる町、若人に夢等を持てる町でございます。これにつきましては、皆さん方の御協力を頂きながら、郡市では唯一過疎自治体にも指定されず、厳しい財政ながら様々な事業を展開してきました。

先日ございましたけれども、人吉新聞が「郡市の人口が8万人を割り7万8,800人」という見出しで報じております。錦町の人口は現在1万106人でございまして、その人吉新聞の中では減少率が0.97%と報じております。他の市町村を見ますと、人吉市が1.79%、多良木町が2.85%など、郡市全体の平均が1.97%の減少率となっております。本町につきましては、その年度も前年度も1%未満の減少率にとどまっております。

私はやっぱりこの減少率が一番低いというのは、これは地域の方が、皆様が本当に様々な問題を抱え、そして人口が準並み減少していくという中で、やはりこの減少率が低いということについては、私は、お年寄りが安心して、そしてそれを支える若い人たちが住んでいる、そういうことがあって、希望が持てる町ではないかなというような、私は評価をさせていただいている部分もあるのかなと思っております。

お年寄りに商品券を配ると、これも大事なことでございますけれども、私は、年取ってからいろんなことを受けるということも大事ですけども、若いときからやはり、誰でも年を取っていくわけですので、若いときからそういう自分の健康面を含めて努力していくことが一番大事かなと思って、いろんな政策を今までやってきておるところでございます。

この後、担当課から、今やっている部分をちょっと説明させたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 吉田保険政策課長。

○保険政策課長（吉田 誠二君） それでは、本町の高齢者支援対策としてお答えをいたします。

自家用車の運転をしないなどの高齢者の移手段の確保と経済的負担軽減を図ることを目的とした高齢者タクシー利用助成事業のほか、要介護4・5の方を在宅で介護している御家族に対し、おむつや尿取りパッドの購入時に利用できるおむつ券を課税状況に応じて助成する家族介護用品支給事業、生活援助が必要な虚弱な高齢者に対して生活援助員を派遣して掃除や調理等のサービスを提供する生活援助事業、高齢者を中心とした買物弱者に対する地元スーパーによる移動販売支援、独り暮らしで心疾患の持病のある高齢者を対象に緊急時にボタン一つで緊急通報センターに連絡が入り、その後の適切な対応を取ることのできる緊急通報体制事業などを展開しております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 東健康増進課長。

○健康増進課長（東 貴志君） 関連がございますので、健康増進課からもお答えいたします。

健康増進課では、老いても明るく元気な町であるために、町全体で高血圧症や糖尿病予防に対して注力しており、健康推進員及び食生活改善推進員の方々の御協力の下、減塩や野菜摂取の勧めを励行しておりますが、令和6年度当初予算にて健康増進及び維持のための関連予算として約7,700万円を御承認いただいているところです。

若いうちから生活習慣病予防の意識を高めてもらうために、平成28年度から中学3年生を対象に健康診断を開始しております。19歳から基本健診、40歳からは特定健診を受診していただき、その結果に基づき、保健師・看護師・栄養士が訪問や相談で結果の説明を行い、生活習慣改善の指導に努めております。

御高齢の方々に対しましては、後期高齢者健診や、一体的事業として、看護師・保健師・歯科衛生士をサロンなどの集会の場に派遣し、健康指導や健康講話などを行っております。また、65歳以上の方につきましては、各種予防接種の補助を行い、健康面においての高齢者への支援を実施しておりますが、老いても明るく元気な町とは、老いてからではなく、老いるまでにいかに健康を維持しているかということだと思いますので、今後におきましても、全世代に対し万病の元と言われる生活習慣病の予防の推進を図ってまいります。

以上です。

○議員（8番 岡田 武志君） ありがとうございます。これで終わります。

○議長（荒川 孝一君） 岡田議員に申し上げます。以後、発言の折には「議長」とはつきりと言っていただくように議会運営委員会で決まっておりますので、以後、気をつけていただければと思います。よろしくをお願いします。

8番、岡田武志議員の一般質問が終了しました。

○議長（荒川 孝一君） ここで休憩します。休憩後は午後2時30分から開議します。

午後2時20分休憩

午後2時30分再開

○議長（荒川 孝一君） 休憩前に引き続き開議します。

5番、吉田眞二議員の一般質問を許可します。5番、吉田議員。

○議員（5番 吉田 眞二君） 皆さん、こんにちは。5番、吉田眞二です。ただ今、議長の許可をいただきましたので、令和6年第2回錦町議会定例会、一般質問をさせていただきます。

今回は、町の基幹産業である農業に絞って、通告書に沿って質問をさせていただきます。

質問事項1としまして、本町の基幹産業である農業の今後について。

要旨1、町の将来の農業予想と農地を守る対策について。その前に2014年との比較で、民間の有識者人口戦略会議が日本の地域別将来推計人口に基づき、人口から見た全国の自治体の維持可能性について分析、人口の出生率の自然減と人口流出の社会減の両面から自立持続可能性自治体、ブラックホール型自治体、消滅可能性自治体に分類され、本町、錦町はこれらに当たらないその他の消滅可能性自治体を脱却との報道がありました。ちなみに全国1,709自治体で、持続可能性自治体65自治体、ブラックホール型自治体25自治体、消滅可能性自治体744自治体、その他錦町も入ります895自治体と報告がっております。消滅可能性自治体から脱却したことは喜ばしいことかもしれませんが、考えていかなければならない重要な課題と考えております。そこで今回の一般質問、町の将来の農業予想をどのようになると考えておられるか、どのような対策が必要か、農地を守る対策も併せてお尋ねいたします。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） 質問の要旨1、町の将来の農業予想と農地を守る対策についてお答えいたします。

将来の農業情勢を予想する上では、災害や気候変動、世界情勢や感染症の影響等による経済活動の停滞など、前提条件によって大きく変わるものと考えます。

楽観論で推測した場合、過去からの農林業センサスなどの統計資料から推測しますと、農家数に関しては今後も減少が見込まれますが、農業産出額については、おおむね60億円程度を推移している状況が続くものと思われま。これは農家の規模拡大や離農された方の農地が厳しい状況ながらも担い手へ引き継がれていくことが要因だと考えま。す。

一方、悲観論で推測し、現在の円安や紛争などの世界情勢や気候変動が続くものとした場合、依然として農業資材等の経費が経営を圧迫し、廃業に追い込まれる生産者が増加し、担い手だけでは引き受けられない耕作されない農地も増加するものと考えられます。

これまでも行っている施策を継続していくことも必要だと思いますが、先月、国の食料・農業・農村基本法が25年ぶりに改正されました。この25年間、日本や世界で起きた変化で、農業を取り巻く状況は大きく変わってお

ります。今回の改正もそれらを反映したものとなっております。政策の4本柱の中で、農業の持続的な発展、農村の振興が掲げられておりますが、まず、農業の持続的な発展の中では、多様な農業者による農地の確保、スマート技術を活用した生産性の向上、農業資材の価格変動への影響緩和、コスト高騰の中での価格転嫁などが規定されており、また農村の振興の中では、農地の保全に資する共同活動の推進、鳥獣害対策等が規定されております。今後、これらの基本理念の下、新たな施策が展開されることと思っておりますので、注視していきたいと考えております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 5番、吉田議員。

○議員（5番 吉田 眞二君） ありがとうございます。楽観論と悲観論という答弁でございましたけども、楽観論のほうで進んでいければなというふうに思っております。担い手へ引き継がれているというのが要因だというふうな答弁でしたけども、今はそれでいいかと思っておりますけども、農家の方はそうでないと思っておられる方もおられます。農家の方は先祖から代々引き継いだ農地をどうにか誰か耕作していただけないだろうかというようなお話を町内で本当に聞くわけでございます。専業の方々も現在目いっぱい田畑を耕作されていて、耕作面積を増やそうと思っても、現在、機械が大型化してくるかと思っておりますけども、もう機械に投資はしきれないというようなお声も聞くことでございます。それはなぜかという、高齢化が進みどうしても今購入しても採算が合わない、やっつけられるかどうか分からない。冗談のようなお話ですけども色々考えて夜も眠れないんだよというようなお話も聞きますので、そうですねと、本当にみんなでやっつけなければいけないですねというようなお話もしているところでございます。

農業者が減少しても現在の農地を守っていかなければならない、これは先ほどの減少ではないですけども、農業者消滅自治体、仮にですけどもそういうふうにならないように、私たちも一生懸命、農家の方々の御意見も聞きながら議会としてやっつけなければならぬのかなというふうに思っております。

先ほどありました食料・農業・農村基本法が25年ぶりに改正されたという答弁がありました。その中で新聞記事なんですけども、その方が言われております。食用米生産にはコンバインなどの高価な農業機械が必要なのですが、高齢農業者は先のことを考え投資はしません。また若手農業者は収益性のある施設園芸栽培が忙しく、安い米作りに構う暇などありません。基本法も引き続き、関連本案の審議が進められておりますけども、農業者が特に注視しているのが、食料供給困難事態対策法案ということだそうです。この対策法案は有事に食料不足が生じたとき、国は農業者に対して増産を指示し、それに従わない場合は罰金を課すというようなことがうたわれているということでございます。それと、これは東京大学の大学院特命教授の方が、地域復活の鍵、農業にこそ積極財政ということで述べられております。その中の文言ですけども、農業者の平均年齢が約70歳であと10年で日本の農業、農村が崩壊しかねかねない。農家が経営継続できるための価格と消費者が払える価格、日本の農家1人当たりの直接支払額は欧米の半分程度だということを言っておられます。いざというときに国民の命を守るのを国防というなら、食料、農業を守ることが一番の国防ではないかというふうに言っておられます。私もそのとおりじゃないかなというふうに思っております。有事の際に食料が足りないから作れと言われても、なかなか先ほども言いましたように機械も更新しなければならぬ。それについては投資はしきれないというようなこともありますので、そののところも考えてやっつけなければならぬのかなということを思った次第です。2つの記事を紹介しましたが、すぐにはできない、年齢と機械には投資はできない、しかし罰金が課せられるかもしれない、地域を守っていかなければならない。後で質問しますが、耕作放棄地が増えれば、先ほどの質問の中にもありましたように、鳥獣害の生息地になることも考えられると思います。地域を守るためにどういうふうなことがあるかということでお尋ねします。地域を守る農事組合法人、或いは集落営農組織等のさらなる推進の考えについてお尋ねいたします。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） ただ今の御質問にお答えいたします。

現在、錦町においては農事組合法人が1組織、集落営農組織が7組織、農業法人に関しましては、先ほどの農事組合法人を含めて15組織が立ち上げられております。集落営農に関しましては、令和3年度の段階では13組織ありましたが、その後解散が進み、現在の7組織となっている状況です。

集落営農に関しましては、全国的な話になりますが、過去に国が行ってございました、品目横断的経営安定対策の交付要件を満たすためにつくられた組織が多かったようです。制度改正が進む中で要件が緩和されメリットがなくなってきた、また会計処理等の事務作業の負担が原因で、現在残っている組織も畑作物の直接支払交付金、いわゆるゲタ対策への対応として残っているのが実情のようです。一方近年は機械の共同購入の相談は増えておりまして、県の事業や産業振興資金対応基金等を活用していただいておりますが、集落のみんなで助け合えば個々の負担を軽減することができますし、コスト削減や今後の就農人口の減少を考えると、再度国を挙げて取り組んでいい問題と考えますので、町としても支援していきたいと考えております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 5番、吉田議員。

○議員（5番 吉田 眞二君） 5番。ありがとうございます。本当に国を挙げてもう1回考えてほしいなというような思いもあります。これも先ほどの東京大学大学院の先生のお話ですけども、10アール当たり3万円の農事維持基盤の支払い、3万円の稲作赤字補填、1棟当たり10万円の酪農赤字補填、60キロ当たり1万2,000円の補助、これらを足しても2兆7,000億円ぐらいにしかならないというような試算を出しておられます。本当に国で考えていただいて、こういう取組、農地、農業者を守るといことも考えていただきたいなというふうに、国、県のほうに要請をお願いしたいというふうに思っております。

私の近くの方に、熊本市内に住んでおられる方がいらっしゃるんですけども、年を取ってきて熊本市内に住むのはいいんだけど、休日、或いは週に二、三回は実家に帰ってきて、農作業の庭をいじりとかをしたい。そしてもし可能であれば地域の農家の役にも立ちたいというようなお話も伺っておりますので、そういうところも組んでいただいて、組合法人、あさぎりのほうでできたかというふうにもお聞きしておりますので、そういうところに入っている、そういうよそに出られた方が地域に残っていただいて、農業、農地を守っていただくというような施策もいいんじゃないかなというふうに思っておるわけでございます。

それと、これは以前もお話したんですけども、自然災害、価格暴落、本年のような遅霜も、或いは2月の長雨のときに、減収時に対応していただける収入保険、これについて加入時の補助の考えはについて再度お尋ねいたします。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） お答えいたします。

収入保険の掛金補助につきましては、令和5年度の状況で、県内で3分の1程度の自治体が地方創生臨時交付金等を財源として実施していたようです。錦町では、令和5年度においては、地方創生臨時交付金を財源として、資材価格高騰対策の支援を実施したところですが、令和5年12月議会での答弁した内容と同様になりますが、町独自の支援策も行っておりますので、今後、何らかの支援を検討すべき際には、状況を見ながら効果を比較して検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 5番、吉田議員。

○議員（5番 吉田 眞二君） ありがとうございます。検討して状況を見ながらということでございますので是非検討のほうを前向きにお願いしたいと思います。

果樹農家の方とお話する機会がありまして、極端なことを言ったら、1つの木に8個ぐらいしか桃がなっていないというようなお話をされた方もいらっしゃいますし、そんなには変わらないんだけど、例年のようには収穫が見込めないというようなお話を聞きます。それと昨今よくカメムシの話題が出ておりますけれども、これも心配ですというような話も聞きますので、色々町から災害そういう減収のときに補填するんじゃなくて、国がやってくれるというようなことでございますので、そういうのに入っていたら減収分のときに自然災害等でございますけれども、本年のような災害時には本当に役に立つありがたい制度じゃないかなというふうに思っておりますので、是非検討の程をよろしくお願いしたいというふうに思っております。この件について、町長の御意見をお聞きしたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（荒川 孝一君） 森本町長。

○町長（森本 完一君） 今年の錦町の農産物の出荷額が60億円そこそこですけれども、その中で畜産のほうは半分ほどあります。ただ、その次多いのが果樹でございます。今回その果樹が大きく災害に遭って、非常に収穫所得が望めないという話も聞くところでございます。ただそういう中であっても、質問議員おっしゃいましたように、あるところによってはもう普通と変わらばいという農家もいらっしゃいます。要はそれぞれが経営ですから、そこはそういうふうにもまた今後も気候変動があるという中での対策というか、それを今後は進めていかなければならないと思っております。

やはり私たちが今先ほどの2番議員の質問もございましたように、農家にとりましては非常に厳しい状況でございます。ですので町といたしましても、厳しいうちも町も財政ですけれども、やはりちゃんとした計画の中で、今後のために頑張らせていただくということであれば、そういう機械なんかの助成事業もしっかりと検討していかなければならないと思っております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 5番、吉田議員。

○議員（5番 吉田 眞二君） ありがとうございます。私がお願いしたいこういう自然災害のときに収入保険の入る前の段階、もちろんこれ色々な条件があります。青色申告をやっている方と、最初の掛金があるんですけども、その最初の掛金の補助といいますか、そういうのを昨年もお願いしたんですけども、本当に今年のそういう遅霜、長雨に対してのそういうのも検討いただけないかなということですので、もし町に余裕ができたなら、是非その検討もお願いしたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

次に、要旨2といたしまして、農業資材高騰、特に肥料に対してでございますけれども、対策として木上の誘致企業から出る木炭を利用する付加価値をつけた農産物、錦ブランド農産物の推進の考えはについてお尋ねいたします。

昨今の、皆さん御存じだと思いますけれども、肥料原料の輸入価格の上昇で国内資源の活用が課題となる中で、本町の誘致企業である錦バイオマス発電所から出る灰、肥料高騰対策として活用できないか、そしてこれらを使用した農産物、化学肥料減の商品として推進、或いは販売支援はできないかについてお尋ねいたします。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） ただ今の御質問にお答えいたします。

昨年秋から創業を開始されております錦バイオマス発電所、錦グリーンパワー様におかれましては、早速、令和5年度から間伐事業に伴い発生しました未利用材の買取を実施していただいております。未利用資源の有効活用及び

地域の雇用創出など、多方面で貢献していただいているところです。今回質問をいただきました木炭の肥料化につきましても、これまで産業廃棄物として処分されていたものが有効活用できますし、国のみどりの食料システム法におきましても、環境負荷低減を図る取組としてバイオマスに由来する肥料の農地利用は、各種支援措置を受ける場合の活動実施計画の取組例として要件の一つとして位置づけられており、今後も全国で推進されてくるものと思います。肥料として使い回すには窒素成分等も必要になるかと思いますが、現状としてはノウハウも不足しております。家庭菜園レベルでの配布とか、他原料と組み合わせた製品化など、他の自治体でも前例がありますので、情報収集の上、発電事業所、JA、肥料製造者等関係機関も含めた検討が必要になるかと考えております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 5番、吉田議員。

○議員（5番 吉田 眞二君） 5番。ありがとうございます。他の自治体でも前例があるということですので、農業資材の高騰、特に肥料ですけども、環境負荷低減を実施する先ほどの中にもありました2027年度にも設けるという新聞報道もあっておりますので、JA、或いは肥料業者等、積極的にお話をいただきまして、農家が安心して使えるような、そしてまた消費者も安心してこの商品は錦町が推奨してくれるものを使って、低価格肥料で栽培している農産物だということをPRしていただいて、より販売につながるような指導、御支援をいただければなというふうに思っております。ちょっと見にくいんですけども、先ほど課長のほうからありましたように、窒素成分が少のうございます。この窒素成分が少ないのを補うために、或いは畜産農家、堆肥の中に混ぜていただいて使っていただくとか、鶏ふんに混ぜて使っていただくとか、或いは人吉球磨広域行政組合で出しております肥料、それにも足して使っていただくとか、そういうのも検討していただければなというふうに思っております。成分分析表を見ていますと、可溶性ケイ酸、或いはカリ、酸化カルシウムは豊富に含まれているということでございますので、もったいない資源だというふうに思っておりますので、これらの活用、或いはPRのほうも併せてお願いしたいというふうに思っているわけでございます。それと今日の日本農業新聞ですけども、バイオ液肥もっと便利にということで載っております。ゴミを資源の循環ということで岡山県のほうでやっておられます。これも本当に農家の肥料高騰対策ということでの推進で、生ゴミが足りないぐらいになってくるんじゃないかなというふうなお話ですね。資源を循環させる取組に参加できていることを実感しているというふうな、近くの農家の方も言われますし、地域の主婦の方は、液肥はゴミ問題を考えるきっかけになっている、今後は液肥で野菜づくりにも挑戦したいというふうな話も載せてありますので、化学肥料ばかりではなく、こういう有効利用という面でも期待ができると思っておりますので、範囲のほうも一緒になって検討していただければなというふうに思っているわけでございます。どうかよろしく検討のほうをお願いいたします。

続きまして、要旨3といたしまして、大型箱わな新設の考えはないかということについてお尋ねいたします。先ほどの一般質問にもありましたけども、本当に駆除をいただいている猟友会の皆様には感謝を申し上げるところでございますけども、鹿、イノシシ、アナグマ、先ほどの箱わなでも結構な頭数が獲れているということでございますけども、何せこう鹿がたくさんいるんだというような声を聞くわけでございます。その中で猟友会の方々も、先ほどもありましたように、一生懸命頑張って駆除をいただいていると思うんですけども、駆除できる頭数というのはやはり限られるのかなというふうに思っておりますので、山間部、河川敷に見られる鹿が住宅地へ出てきて、被害が危惧されることでございます。住宅地に出てきて、以前は夜中とかでしたけども、車にぶつかったり、これはもうフルティールoad、南部道路でございますけれども、もう錦湯前線、或いは219、人吉水上線、錦町を通る国道、県道に出没して、住民の方、或いは子どもたちに被害が出ないかということ非常に危惧しておりますので、大型の箱わなの新設の考えはについてお尋ねいたします。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） お答えいたします。

大型の囲いわなにつきましては、現在、町内に4基を設置しているところです。直近では、令和4年度に地域からの要望で、木上新立地区に設置したところです。要望があり用地が確保できるようであれば、今後も整備していくことは可能ですが、これまでのケースを見ますと、囲いわなに関しては、設置後年々捕獲数が減少している状況であり、費用対効果を考え現在では猟友会の方々の意見を聞きながら、より機動力のあるくくりわなや、小型の箱わなの整備に力を入れている状況です。ただ、また要望等がありましたら、移設とかを含めて取り組むこと自体は可能となっております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 5番、吉田議員。

○議員（5番 吉田 眞二君） ありがとうございます。要望があつたらできますというようなお話だと思いますので、お願いをしたいと思っております。今、田植が終わっているところなんですけど、刈り、中干しをされているところは見られると分かると思うんですが、特に山間部、もう縦横無尽に足跡がついております。これは本当に駆除していただきたいと思うんですけども、なかなか先ほどもありましたように、人員が減ってきて高齢化もあるということです。私も地元からの要望というか、そういうのができないかというような話を聞いてのことでございます。もちろん猟友会の方々の意見で機動力のあるくくりわな、小型の箱わなの整備に力を入れていきたいということも分かるんですけども、答弁の中に要望で木上地区に整備されたというふうに聞いております。要望があれば先ほども聞いたんですけど、設置が可能ということでよろしいでしょうか。それと予算、これ町の持ち出しがあるんでしょうか、それとも国、県からの予算がくるんでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） お答えいたします。

囲いわなに関する事業は鳥獣被害対策協議会のほうで行っておりまして、その財源としましては、国の支出金がほぼ全額になっております。また要望につきましても事業計画を年度当初に上げる必要あるものですから、要望があつてすぐ対応というわけにはいかないかと思っておりますけど、その事業の中で対応をしていくことは可能となっております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 5番、吉田議員。

○議員（5番 吉田 眞二君） ありがとうございます。国からということでございますので、そうですね、早めに希望されるところがあれば、もちろん猟友会の方々とのお話が必要だと思いますけども、検討をしていただきたいというふうに思っております。今回の食料・農業・農村基本法、農村の振興の中にも鳥獣害対策が含まれているようですので、猟友会の御意見を聞きながら、要望があれば検討のほうをよろしく願いいたします。

最後になりますが、今回も地域の方、住民の方からの御意見、御要望をいただいての一般質問でした。お忙しい中に丁寧な答弁をいただきありがとうございます。また昨日の熊日ですけれども、こちら編集局のほうに、ホテル亡き夫と長男の里帰りということで載っております。御主人を亡くされ、そして長男さんを亡くされ、ホテルが用水路に2匹やってきますということです。また来年もホテルが来るのを待ち遠しにしたいと思っているというような御意見が載っております。本当に用水路をきれいにしていただき、そして、また来年もホテルが舞うことを希望いたしまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（荒川 孝一君） 5番、吉田眞二議員の一般質問が終了しました。

○議長（荒川 孝一君） ここで休憩します。休憩後は午後3時10分から開議します。

午後2時59分休憩

午後3時10分再開

○議長（荒川 孝一君） 休憩前に引き続き開議します。

10番、金山民幸議員の一般質問を許可します。10番、金山議員。

○議員（10番 金山 民幸君） 皆さんこんにちは。10番議員の金山民幸です。議長の許可をいただきましたので、ただ今から令和6年第2回議会定例会一般質問を行います。

このたび、人の輪を大切に、老いても安心して暮らせる町、若人に夢と希望が持てる町を町の将来像に掲げ、その実現に向けた第6期の錦町総合計画、基本構想、基本計画後期と本年度から9年度までの第3期にしき・まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定され、全世帯に配布されたところであります。

総合計画の中で、基本政策として移住交流対策や少子・子育て対策をはじめ11の項目を掲げてありますが、その中で今回質問事項1、少子・子育て対策について、質問事項2、企業誘致対策について、質問事項3、行財政改革の推進関係についての質問を通告しております。あとは質問席より行いますので、町長をはじめ執行部におかれましてはよろしく願いいたします。

○議長（荒川 孝一君） 10番、金山議員。

○議員（10番 金山 民幸君） まず質問事項1、少子・子育て対策について。

質問要旨1、これまでの少子・子育て対策の成果についてですが、町長におかれましては厳しい財政状況の中にあつて、人口減少対策として出産・子育て応援交付金をはじめ子宝祝い金や入学祝い金、子ども医療費助成や学校給食補助など、各種の子育て支援対策を講じてこられました。無論、これらの政策実施にあたっては、就任以来、財政の健全運営化に向けての様々なことが蘇られ、政策と財政との関係で葛藤も大きいものがあつたものと推察するところで

す。6年度の施政方針や報道にもありましたが、出生数が減少する中、子どもを産みやすい、子育てがしやすい環境を整えるのは今日の人口減少社会にあつて自治体の持続のためには子育て支援政策が特に重要であると決断されたものと理解しております。

そこで、質問要旨1としまして、これまでの少子・子育て対策の効果につきまして、全体的に総務課長へお尋ねします。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） ただ今の御質問にお答えいたします。

これまでの少子・子育て対策の効果についてですが、まず挙げられますのが子育て世帯の負担軽減に大きく寄与している点です。先日行われました町のアンケートにおいても、多くの方が町の子育て支援策を評価されており、子育て世代の転入増加や、ひいては人口減少率の抑制にも効果があつているものと考えております。

また、先日報道されましたが、合計特殊出生率の数値が、錦町は1.95で全国1,700余りの市町村の中で18番目という高い数値で、このところ常に高い数値を維持しております。この点は報道番組でも取り上げられ、錦町の子育て施策についても紹介をされておりました。合計特殊出生率が高いことから錦町全体の割合として生産年

齢人口が比較的多く、そのことにより税収増加や社会保障関係費の抑制にも効果があると考えられます。

また人口減少抑制により、各種産業の振興維持や行政サービスの維持にもつながるものと考えております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 10番、金山議員。

○議員（10番 金山 民幸君） はい、10番。これまでの少子・子育て対策の効果につきましては、答弁の通り、様々な効果があっていることが分かりましたが、主な効果としましては人口減少率抑制と言いますかと保護者の経済的負担の軽減、そして特筆されますのが新聞でも報道されました合計特殊出生率の高さではないかと考えるところで

す。
次に、質問要旨2、令和6年度少子・子育て対策予算と財源についてですが、既に6年度当初予算についてはもう議決をしているわけですが、これまでの少子・子育て対策に加え、6年度からは新たに自主財源約2,500万円を持って保育料無償化を議会の解決を経て実施されております。6年度における子育て支援関係の事業等が多い住民福祉課及び教育振興課関係の対策予算と財源についてお尋ねします。

○議長（荒川 孝一君） 山園住民福祉課長。

○住民福祉課長（山園 琢磨君） はい、ただ今の質問にお答えいたします。

住民福祉課所管の対策は、町独自施策としまして4つの支援策を実施しております。

1つ目は子ども医療費助成事業で、平成4年度から取り組んでおり、令和2年2月から高校生までを支給対象として通院時の窓口払いがなくなる現物支給としました。

2つ目は子宝祝い金で、平成10年度から取り組んでおり、令和3年度から子ども1人当たり第1子15万円、第2子20万円、第3子以降が25万円を支給しております。

3つ目は保育園・こども園の副食費の補助で、令和元年10月から取り組んでおり、保護者の所得360万円以上の家庭の3歳から5歳の児童の副食費を無償化としております。

4つ目は保育料の無償化で、令和6年4月から0歳から2歳の保育料を無償化としております。予算額は子ども医療費助成5,694万円、子宝祝い金1,540万円、副食費補助金1,085万7,000円、保育料無償化2,542万5,000円で、合計1億862万2,000円で予算計上をしております。財源としましては、1億862万2,000円のうちふるさと錦ゆかり基金が4,000万円、一般財源が3,261万2,000円、その他諸収入が1,058万5,000円となっております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 尾方教育振興課長。

○教育振興課長（尾方 良一君） ただ今の御質問にお答えいたします。

教育委員会所管の対策は、少子・子育て及び保護者の負担軽減策として様々な支援策を行っておりますが、町独自施策として大きく3つの支援策を実施しております。

1つ目が給食費の補助、無償化でございます。補助自体は平成29年度から取り組んでおり、第2子以降の児童生徒2,000円補助、児童生徒2,000円の補助から児童生徒半額補助と続きまして、令和4年10月からは全額補助無償化として取り組んでいるところです。

2つ目が令和5年度昨年度から開始しました入学祝い金支給になります。小学1年、中学1年入学の際の負担軽減策として、小学1年時2万円、中学1年時3万円を支給しております。

3つ目が同じく令和5年度から開始しました修学旅行補助です。小学6年及び中学2年時の修学旅行費用の半分、

2分の1を補助しております。予算額としましては、1つ目の給食費補助が4,975万9,000円、2つ目の入学祝い金が515万円、3つ目の修学旅行補助が624万8,000円で、合計6,115万7,000円となります。令和6年度の予算計上額となります。財源としましては、6,115万7,000円のうち5,000万円、約82%になりますけれども、これがふるさと錦ゆかり基金の繰入金で残り1,115万7,000円が一般財源となっております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 10番、金山議員。

○議員（10番 金山 民幸君） 住民福祉課関係から教育振興課関係の子育て支援等につきましては、すでに広報紙でも紹介があっているわけでございますけれども、これに関する2つの課の予算が約1億6,980万円となっております。財源は答弁でもありましたように、そのうちふるさと錦ゆかり基金からの財源としては9,000万円、残りの7,980万円が税等の一般財源ということでふるさと錦ゆかり基金繰入金が主要な財源であることが確認できました。

その予算のことについては以上で分かりましたが、次に、質問要旨3としまして、いわゆる今財源のことについて答弁ありましたが、次年度以降の財源確保についてですが、当然次年度以降も継続して少子・子育て対策を実施されるわけですが、主要な財源でありますふるさと錦寄附金の寄附の状況にもよりますが、本年度につきましてはふるさと錦ゆかり基金繰入金を前年度より2億1,500万円少ない1億5,000万円計上してあります。その減額分は財政調整基金等で調整されている状況であり、予算上からは厳しいことが伺えます。次年度以降の財源確保につきましての考え方についてお尋ねいたします。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） ただ今の御質問にお答えいたします。

少子・子育て対策に係る次年度以降の財源の確保についてですが、国においても子ども子育て政策は最重要施策と位置付け、異次元の少子化対策に取り組むとしておりますので、どのような形で支援が強化されていくのか不透明な部分もございますが、まずは国からの支援がある程度は期待できるものと考えております。

また、非常に貴重な財源でございますふるさと納税については、昨年度の制度見直しにより寄附額については厳しい状況となっておりますので、これまで積み立てたふるさと錦ゆかり基金について、将来の財政需要を見据え、計画的に活用していきたいと考えております。

さらに、これまでの経常経費の抑制や健全な財政運営の推進などの取組を継続しながら、財政調整基金なども活用して少子・子育て対策に対する財源について確保していきたいと考えております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 10番、金山議員。

○議員（10番 金山 民幸君） はい、10番。次年度以降の財源確保につきましての考えと伺いますか、考え方について答弁ありました。厳しい、何回も繰り返しますが、厳しい状況とは思いますが、答弁のように財源確保に努めていただきたいと思います。

それから、この後の私の質問の中で、企業誘致対策についてと行財政改革の推進についての中でのふるさと錦寄附金に関する質問は、いずれも財源の確保に関する質問でもあるわけで、町長そして財政担当者におかれましては既に折り込み済みであるとは思いますが、本定例会の予算案に発電関係の錦グリーンパワー会社に対しましての固定資産税総当額の企業立地奨励金約2,300万円計上してあり、このことは3年続くわけですが、では9年度以降にお

きましてはそれまでの法人、個人町民税と合わせ2,300万円以上の税収が見込まれるということと、それからルネサスおよび九州武蔵の増設による税収とふるさと錦寄附金の努力次第では、ある程度の財源が確保できるのではないかと私なりに考えたところです。

次に、質問要旨4、保育料の国庫負担化の動きについて。このことについては町長にお尋ねいたします。保育料及び今朝の新聞にも載っておりましたが、学校給食の無償化等は従来の財政運営の原則といえますか、財政運営のやり方として受益者負担の原則と離れた考えではありますが、先ほども言いましたように、持続した自治体の構築のためには人口減少対策政策面からするとやむを得ないことであると思っております。給食費の無償化につきましては、国会でも議論がなされている状況と思っておりますが、保育料も国の少子化対策として実施すべきであるという世論もあるようです。町長上京がある機会があると思っておりますが、霞が関界限における情報等につきましてお尋ねいたします。

○議長（荒川 孝一君） 森本町長。

○町長（森本 完一君） 霞が関の情報そのものはここまで踏み込んだ情報というのはございませんけれども、やはりこれだけ人の数が、子どもの数が減っていく、その大きな原因として若い夫婦の皆さん方の負担感というものもあるようでございます。したがって、その負担感を軽減するために、国においてはできるだけ助成をしていく、支援をしていくということから、今国のほうでそういう少しずつの動きがあるというのは感じております。したがって、今度また上京しますので、そういうのを国のほうにはしっかりと届けていこうと考えております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 10番、金山議員。

○議員（10番 金山 民幸君） 分かりました。大前提には少子化、国全体の少子化対策と思っておりますけれども、本町に限って言いますと財源確保につながることでありますので、無償化が実現できますように努力を要望しておきます。

次に、質問事項2、企業誘致対策について。

質問要旨1、企業誘致への活動状況についてですが、今日まで地場事業所等や誘致企業のそれぞれの事業活動は地域の経済活性化はじめ雇用機会の拡大、先ほどもありましたが転入者及び出生者による人口減少の抑制や町税の増収等にも影響し、今日の町に発展してきたことは皆様御存じの通りであり、このことは今後も同様なことであると思っております。これまでの誘致企業につきましては、各家庭に配布されました町勢要覧と資料の中に掲載されており、中にIT企業関係も誘致されておりますが、現在の企業誘致への本町の活動状況についてお尋ねいたします。

○議長（荒川 孝一君） 岩尾企画観光課長。

○企画観光課長（岩尾 和文君） ただ今の御質問にお答えいたします。

企業誘致の活動状況につきましては、コロナ禍で令和2年から2年間ほど活動できない状況がございましたが、年に2回程度企業立地フェア等の展示会において、出展企業に対するアプローチや熊本県東京事務所を訪問し、意見交換や情報収集或いは以前に折衝ができた企業等への訪問やサテライトオフィスマッチングセミナーに出展し、町の売り込みを行っているところです。また人吉球磨で連携した活動といたしましては、平成20年に発足しました人吉球磨企業誘致連絡協議会が令和2年度からしごと創生連絡協議会に名称を変え、連携市町村間との情報共有や企業立地フェア等の展示会において出展企業に対するアプローチと先進自治体視察研修などの活動を行っているところでございます。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 10番、金山議員。

○議員（10番 金山 民幸君） はい、10番。ただ今企業誘致への現状活動について答弁いただきました。厳しい

状況ではあるとは思いますがとにかく働く場や財源確保のために引き続き努力をしていただきたいと思います。

次に、質問要旨2、T SMC、横文字ですが、台湾積体回路製造企業関係企業誘致への対応について、このことについては町長にお尋ねしたいと思います。今日T SMCや国内大手企業の進出は菊陽町や大津町はもとより、県央或いは県北地域は空前の開発ラッシュとなっており、将来に向かって大きく発展しようとしています。一方、天草や人吉球磨地域における本町への企業立地の厳しい中であって、本町ではゼンカイミートの移転創業及び発電関係の錦グリーンパワー会社の創業を開始し始め、ルネサスや九州武蔵精密会社の生産設備の増設計画は、本町はもちろん人吉球磨地域全体にとっても大変ありがたいことであると思っております。このことは企業の社会情勢の動きに対応するものではありませんが、町においては企業立地に対しての課税等の優遇措置と、用地及び従業員の確保、或いは関係道路の整備等の便宜の供与や、特に町長をはじめ関係者の毎年年始めの企業訪問、そして日頃の誘致活動の努力もこのような結果になった要因の一つであったものと思っております。

そこで木村県知事も郡市の復興とT SMC効果を県内に広げると発言しておられますが、県南では八代までのようであり天草や人吉球磨地域は蚊帳の外にはないかと感じております。地域の状況等からして厳しい企業誘致運動になるかと思いますが、そういうふうには理解しておりますが、本町或いは市町村で構成の人吉・球磨しごと創生連絡会議における企業誘致について、用地等の受け入れ体制の整備も必要であると思っておりますが、どのような考えでおられるか町長にお尋ねいたします。

○議長（荒川 孝一君） 森本町長。

○町長（森本 完一君） お答えいたします。

この質問に非常に内容も詳しくて、なかなか期待に私どもが皆さん方の期待に応えるような状況にはなっていないというのがまず現状でございます。

錦町には13の誘致企業等がございます。それぞれ頑張っていたいておりますけれども、T SMCに絡んでこの錦町の既存の誘致企業が何か手応えがあった、或いは増産のほうにはかることができたということは話があつてございません。私が一番考えますのが、令和2年の大水害があつて、そして大水害からまだ災害復旧も100%起きていない、或いは今後10年から15年ほど水害をなくすための工事がその期間かかるということでございます。企業がこの地域に来るといことになりますと、そういう災害がないところで企業はそういう会社等をつくっていきますから、そういうことを考えますとまず災害のないものがこの地域でなければならないと思っておりますので、そちらと合わせながら企業誘致も含めていこうと思っております。

幸いにして錦町にありますこの管内の最大の会社等は順調に今のところ行っておりますので、そういうところに迷惑をかけないようにしっかりと町としても支援をしていこうと思っております。

先ほど質問議員の今朝の新聞等を言われましたけれども、やはり我々にとっては八代から上流といいますか、ここが我々の経済の範囲といいますか、でありますので、やはりこの地域人吉球磨全体をしっかりとサポートできる、或いはしっかりと企業に打ち出していくということが大事だろうと思っておりますので、そういうところをしっかりと力を入れながらいろんなチャンネルを使いながらですね、或いは皆さん方の御意見をいただきながら活動を進めていこうと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思っております。

今、九州武蔵が650人ほどいらっしゃいますし、ルネサスも200人ほどいらっしゃいます。ゼンカイミートも70人ほどいらっしゃいますので、そういうことがまた膨らんでくるようなやり方というのはしっかりとしていこうと思っておりますので、どうぞ今後ともよろしくお願ひしたいと思っております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 10番、金山議員。

○議員（10番 金山 民幸君） はい、10番。状況等について分かりました。お世話になりました。この企業が1社来るといことも本当に大変な状況だと思えますけれども、先ほど言いますように1社でも誘致できますよう町長をはじめ執行部と共に、私ども議会も努力すべきものと改めて考えるところです。

次に、質問事項3、行財政改革についてですが、計画の中にあります自主財源の確保と事務改善について質問いたします。

質問要旨1、まずふるさと錦寄附金の状況と対策についてお尋ねします。

ふるさと錦寄附金につきましては、先ほどの子育て対策の財源でもありますが、他に健康づくり保健関係、農商工業関係、或いは観光などの各政策の貴重な財源であります。昨年の返礼品の制度改正により、6年度当初は昨年度に比較して2億円少ない、2億円と、ちょっと分かりにくくなっておりますけれども、昨年度は4億円から今年は2億円ということで御理解いただきたいと思いますが、予算計上しております。現在における寄附金の状況と対策についてお尋ねいたします。

○議長（荒川 孝一君） 岩尾企画観光課長。

○企画観光課長（岩尾 和文君） ただ今の御質問にお答えいたします。

令和5年の指定申出に際しまして、本町の返礼品のうち令和4年度実績で約45%を占めておりましたペットボトルお茶が取り下げられたことで、令和5年度につきましては約3億5,000万円の寄附額となっております。

また、同時期に制度改正がなされまして、これまでふるさと納税の募集に関する経費に含めなくて良いとされておりました募集後に関する経費についても経費に含めることとされ、これらの経費の総額を寄附金額の50%以内に納めることとされました。併せまして、取り下げとなったペットボトルお茶につきまして、昨年9月までに受付いたしました定期便最大で12ヶ月間の発送にかかる経費も先ほど申しました経費に含まれることとなり、昨年10月以降の寄附受付分につきましては寄附金額の設定をやむを得ず引き上げざるを得ない状況となっているところです。

そのためこれまでも経費削減策或いは増収寄附額の増に向けての取組は行ってまいりましたがさらなる対策を検討しているところでございます。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 10番、金山議員。

○議員（10番 金山 民幸君） 10番。ふるさと納税の返礼品を私なりに調べてみますと、地域の特性等が大きく関係していることが分かりました。それで今言いましたように地域の特性それぞれ違いますので、そういう面から見ると本町は厳しい状況であることは理解しているところです。

先ほど、寄附金の状況につきましては、昨年10月以降制度改正により減少であるということですが、大変だとは思いますが、今答弁のように対策を進められ、返礼品開発をはじめ関係者の協力を得て寄附金増額に努めていただきたいと思えます。

次に、質問要旨2、デジタル化による窓口申請手続の簡略化についてお尋ねします。

このことにつきましては先日新聞報道がありましたが、県内のある自治体で住民票や印鑑証明書等の申請手続を大幅に簡略したという記事を読んだわけですが、本町でも住民負担軽減等のためにできないかという思いで質問する次第です。なかなか年を取りますとこういうITとデジタル関係についてもなかなか分かりづらい面がありますが、まず聞いておられる高齢者もおられます。このシステムの概要についてまずお尋ねいたします。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） デジタル化の窓口申請手続の簡略化ということでございますけれども、こちらについてはマイナンバーカードによる利用が効果的、効率的と考えているところです。

現在、転入転出届や各証明書申請の際に窓口において本人確認を行っておりますけれども、マイナンバーカードを利用した受付システムを導入することで氏名住所などを手書きした申請書を何度も提出する手間を不用とした、いわゆる書かない窓口が実現できることや、関連する複数の部署間で連携を行いながら一つの窓口でまとめて受付できるワンストップサービスも実現できると考えているところです。こちらについては初期導入でも数百万円から1,000万円、ランニングが十数%かかるかなと思っておりますけれども、ただこれについては行政システム標準化を今、令和7年度に向けて行っておりますので、そういった準備手続と状況を見ながら検討したいと考えているところでございます。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 10番、金山議員。

○議員（10番 金山 民幸君） 10番。分かりました。

では本町におけます主に住民福祉課及び税務課の主な申請手続件数はどのくらいありますでしょうか。お尋ねします。

○議長（荒川 孝一君） 山園住民福祉課長。

○住民福祉課長（山園 琢磨君） ただ今の質問にお答えいたします。

令和5年度の窓口申請件数は合計で約1万1,100件です。内訳は印鑑証明3,500件、住民票4,200件、戸籍関係3,400件となっております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 簗田税務課長。

○税務課長（簗田 俊哉君） ただ今の質問にお答えいたします。

税務課では課税に関する証明書を発行しています。令和5年度については2,829件発行しております。住民税に関する証明については1,074件、固定資産税に関する証明については706件、軽自動車税に関する証明については864件、その他証明については185件となっております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 10番、金山議員。

○議員（10番 金山 民幸君） 10番。分かりました。年間相当数の町民の方ですね、複数申請もあろうかと思えますけれども申請があっているようでございます。

若い人は今記入するにもポンポンポンでしょうけど、こういう手続は高齢者にとってはなかなか手間がかかるわけでございます。実は今朝も、テレビを見ておりますと、今マイナンバーカード、任意の発行だと思いますけれども、それを今病院でとか薬局でする場合まだ取っていない方の関係で窓口のトラブルがあっているようなことでありました。

考えてみますと、今後、例えば町民の方がなるべく早く済ませようと思うならば、今言いましたようなマイナンバーカードをまだ取得されていない方がおりますならば、こういうことにも対応できるんじゃないかなということも今話を聞きながら感じたわけですが、そういうことで窓口申請時の手続の簡素化を図り、住民サービスの向上のために当システムをということでお尋ねしたわけですが、私先ほど概算の経費等々については説明ありましたが、その経費とかそういった利便性等々を今後検討して当システムを導入してはと思いますが、いかがでしょうか。

か。総務課長にお尋ねします。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） お答えいたします。

こちらのシステム導入には、先ほど申しましたけれども初期導入費用も相当かかりますし、ランニングもある程度かかります。

今、国のデジタル田園都市国家構想推進交付金が2分の1ございますので、そちらの交付金は活用できるかと思えますけれども、ただやっぱり令和7年度まで行政システム標準化のほうをまず進めないといけないという部分もございまして、そちらの事務と勘案しながら、この窓口申請の簡略化については考えていかないといけないかなと思っております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 10番、金山議員。

○議員（10番 金山 民幸君） 10番。分かりました。事務事業の優先度もあろうかと思いますが、先ほど言いましたように、高齢者ばかりでなく全町民にもこれは影響することでございますので、どうか今後デジタル化の推進の中にこれも汲み入れて検討していただいて、できれば早急の導入を図られるように要望しておきます。

これはマイナンバーカードのいわゆる取得の促進にもつながろうかと思っておりますので、どうかよろしく願いしておきます。

以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（荒川 孝一君） 10番、金山民幸議員の一般質問が終了しました。

○議長（荒川 孝一君） ここで休憩します。休憩後は午後4時5分から開議します。

午後3時52分休憩

午後4時05分再開

○議長（荒川 孝一君） 休憩前に引き続き開議します。

3番、梶原誠二議員の一般質問を許可します。3番、梶原議員。

○議員（3番 梶原 誠二君） 3番。皆様、こんにちは。3番議員の梶原誠二です。ただ今、議長より質問の許可をいただきましたので、令和6年第2回錦町議会定例会一般質問を行います。

本日の一般質問の最後の6人目になり、執行部におかれましては非常にお疲れのことと思っておりますけれども、前向きな答弁をよろしく願いしたいと思います。

介護保険料改定については、4月、5月の新聞報道等で既に御承知のことと思っておりますけれども、介護保険料は各市町村の介護保険事業計画に基づいて算定されるものです。今回の改定は、第9期介護保険事業計画に基づき算定されたものです。65歳以上の高齢者が令和6年度から令和8年度に支払う介護保険料は、全国平均で月額6,225円、熊本県平均で月額6,190円となりました。本町においては、全国平均より及び県平均より高い月額6,900円になり、平成12年度の介護保険料制度開始当初の約2.4倍で過去最高を更新しております。65歳以上の高齢者におかれましては、6月支給の年金から改定後の介護保険料2ヶ月分1万3,800円になりますけれども、これが差し引かれる予定です。月額6,900円は基準月額なので所得段階区分に応じて高い人は6,900円の1.2倍から2.4倍の保険料が付加されます。物価等の値上げラッシュの中において、年金受取額が減るのも非常に厳しいもの

があります。介護保険料増額の要因は介護給付費の増であります。過去の介護給付実績を踏まえて今後3年間の介護給付費推計を基に算出されております。

今回は本町のホームページにも公表されております第9期介護保険事業計画の内容を基に質問をさせていただきます。質問事項は、第9期介護保険料についてです。まずは質問席にて行います。よろしくお願いいたします。

○議長（荒川 孝一君） 3番、梶原議員。

○議員（3番 梶原 誠二君） 3番。それでは、質問事項、第9期介護保険料について。質問要旨1、介護保険料の引上げ幅が県内で一番大きくなった要因はと、質問要旨2、熊日新聞記事及び広報にしきに要介護認定者数の増加を要因として挙げられている。認定率は県内で一番低い状況にもかかわらず、介護給付費が増加した要因について、以上2点についてまずお尋ねいたします。

○議長（荒川 孝一君） 吉田保険政策課長。

○保険政策課長（吉田 誠二君） ただ今の御質問にお答えいたします。

まず、質問の要旨1、介護保険料の引上げ幅が県内で一番大きくなった要因はについてお答えいたします。

第8期介護保険料の基準月額、県内平均の6,240円を大きく下回り、県内43番目の5,600円でした。今回第9期介護保険料の基準月額は、県内平均の6,190円を大きく上回る県内5番目の6,900円となりました。このようなことから県内で一番の引上げ幅となったものと考えております。保険料の引上げとなった一番の要因として、第8期の介護保険事業計画で見込んだ介護給付費を上回る給付実績となったことが挙げられます。令和3年度は計画に対して104.74%、令和4年度は101.46%という状況となっております。また4月23日の熊日新聞では、基金の取り崩しにより保険料の減額ができたとの記事もありましたけども、本町におきましては保険料を減額できるだけの基金積立額がなかったことも要因の一つとして挙げられます。

次に、質問の要旨2、熊日新聞記事及び広報にしきに要介護認定者数の増加を要因として挙げられている。認定率は県内で一番低い状況にもかかわらず、介護給付費が増加した要因はについてお答えいたします。

令和4年度の認定率は14.3%で、国19.1%、県19.6%と比較しますと、県内では一番低い状況にありますが、分母である65歳以上の高齢者数の増加により、認定者数が増加している状況であり、このことが給付費が増加した要因の一つであると分析しております。このこと以上に本町の特徴的な傾向として、軽度の認定者数の割合は低い状況にありますが、他の市町村と比較しますと、要介護3と要介護4の認定者数の割合が高い状況にあり、このことが給付費を押し上げている大きな要因であると分析しております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 3番、梶原議員。

○議員（3番 梶原 誠二君） 3番。まず質問要旨1についてお話ししたいと思います。

第8期介護保険事業計画の介護給付費が令和3年度においては計画値に対して104.71%、令和4年度は計画値に対して101.46%ということですが、これを県内のデータが載っております熊本県高齢者関係資料集によりますと、令和3年度の県の合計の計画値に対する割合は95.3%ということです。この時点から計画値を上回っていたということで、このデータの中で計画値を上回っていたのは45市町村中、5市町村でした。県内市町村の位置づけでも今後こういったデータを確認する必要があるというふうに考えます。令和3年度から計画値を上回っていたということは、第8期の介護保険事業計画の初年度から既に計画値を上回っていたということになります。

また、質問要旨2について他市町村と比較して、要介護3と要介護4の認定者の割合が高いということでしたけども、第9期介護保険事業計画書、これホームページにもありますけど、本日も持参しておりますが、これの15ペー

ジの要介護認定者数の推移の令和4年度を見ますと、要介護3の認定者が最も多く、認定者総数に対する割合は33.4%で、県内他市町村の中でもトップの状況です。県全体では要介護1の割合が高いのが30市町村で最も多く、要介護2の割合が高いのが11市町村、要介護3が3町村、要介護4が1村のようなデータが載っていました。介護認定者数の区別の割合については、全国的に見ても、要介護の割合の中で要介護1が最も多く、次に要介護2、要介護3の割合が続いている状況です。

本町において要介護3の認定者数が増加したのは令和2年度からで、計画書の16ページの介護給付費の推移を見ても、令和2年度から計画値を上回っており、サービス区分においても在宅サービスが非常に増えておる状況がデータとして載っております。本町で最も多い要介護3の要介護認定の状態像といいますか目安は、日常生活にほぼ全面的な介助が必要な状態像で、食事、着替え、排泄、歯磨きなど生活全体に介護を必要とする状態と言われているとされています。また要介護3は施設入所も可能な状況です。ただ施設は入所定員枠があるため、現状では在宅サービスを受けられている方が非常に多いかと思えます。また要介護認定の段階区分の中で、介護サービスの内容や種類が大きく変わると言われているのがこの要介護3です。サービス利用限度額の区分間の差額が大きいのもこの要介護2と要介護3の間で、差額が7万3,430円になります。要介護3は施設入所も可能な状態なので、利用されるサービスは介護者の負担を軽減すると言われているデイサービスとショートステイがメインになり、現状では限度額いっぱいにご利用される方も多いかと思えます。この要介護3の認定割合が県内でトップになるほど多いということが、先ほど課長も言われましたように、介護給付費増額の主な要因であるように考えます。また、計画書の15ページの要介護認定者数の推移を見ますと、令和2年度に要介護3が急激に増えているようでございます。この状況についてお尋ねいたします。要介護3の認定者は、要介護1、要介護2と段階的に上がってきたのか、または新規認定からいきなり要介護3のどちらが多いのかをお尋ねします。それと併せて要介護3の認定者の原因疾病についてをお尋ねいたします。以上よろしく申し上げます。

○議長（荒川 孝一君） 吉田保険政策課長。

○保険政策課長（吉田 誠二君） ただ今の御質問にお答えいたします。

要介護3の認定者は要介護1、要介護2と段階的に上がってきたのか、新規認定からいきなり要介護3のどちらが多いのかということにお答えいたします。

近年の要介護3の新規認定者の状況を見ても、令和元年が26人、令和2年が18人、令和3年が30人、令和4年が20人といった状況にあり、年によってばらつきはあります。ただそれ以前は、10人を超える程度の状況であったことからしますと、新規認定での要介護3の方は増えていると感じております。一方、全体の要介護3の認定者の状況を見ても、令和元年129人、令和2年148人、令和3年160人、令和4年167人と徐々に増えている状況にありますので、段階的に介護度が上がってきた方が多いものと分析をしております。

次に、要介護3の認定者の原因疾病はということですが、申し訳ございません、要介護3の認定者の原因疾病までは把握できておりません。ただ、要介護認定を受けている方の有病状況を見ても、高血圧症、心臓病、脳疾患の有病率が県同規模市町村、国よりも高い状況にありますので、高齢になってからではなく、若いうちから一人一人が自身の健康への関心を持ってもらうことが大切であると考えております。そのことが健康寿命の延伸につながって、ひいては介護給付費の抑制につながるものと考えております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 3番、梶原議員。

○議員（3番 梶原 誠二君） 3番。新規認定でいきなり中度の要介護3が増えたということも非常に問題かと思

ます。原因疾病までは調べていないということですが、恐らく脳血管疾患とか急に発症するような疾病だというふうに思います。先ほどの答弁の中でも全体的な原因疾病、この中にも脳血管疾患とか、そういったことの高血圧とか、そういった脳血管疾患関係の症状が挙げられております。こういった疾病は、やっぱり急に要介護3とか中重度のほうになる場合が非常にケース的には多いと思いますので、その付近のこれは健康増進課には一応依頼はしていませんけども、その付近の取組以前から、錦町は健康づくり日本一そういったものを掲げて、特に生活習慣病予防、高血圧とか糖尿病をやってこられました。ただそういった取組にもかかわらず、こういった重度化の要因となる疾病があるということは、もう一度生活習慣病対策これを振り返り、対策を見直すというか、なかなか全体把握は難しいですけども、そういった対象者の補足もれと言いますか、そういったことが起きているんじゃないかと思うので、やっぱりこれ最終的には介護保険に結びついてきますので、その付近の振り返りを十分お願いしたいと思います。

次に、質問要旨3になりますけども、県内で引き下げ幅が最も大きかった高森町は、要因として介護予防事業の効果を挙げられております。本町の介護予防事業の効果を検証されているかについてお尋ねしたいと思います。

○議長（荒川 孝一君） 吉田保険政策課長。

○保険政策課長（吉田 誠二君） ただ今の御質問にお答えいたします。

本町の介護予防事業につきましては、3つの通所型サービスを展開しております。

1つ目の通所型サービスAのにしきお元気クラブでは、通所型サービスCの元気が出る学校の修了者及び認知症への移行のおそれのある軽度認知障害高齢者を対象として、元気な体づくりや認知症予防を目的に毎週木曜日にひだまり館で実施しております。

2つ目の通所型サービスBの地域の縁がわ事業では、町内35ヶ所で地域の通いの場として百歳体操等の活動を行っております。

また、同じ通所型サービスBのあったかサークル心結、では毎週水曜日にひだまり館で全域の住民を対象とした住民主体の通いの場として、ボランティアグループ心結の方と一緒に体操を行っております。

3つ目の通所型サービスCの元気が出る学校では、4ヶ月間の集中型介護予防プログラムを展開しているところで、元気が出る学校では運動だけでなく頭の体操や計算、パズルなどの脳トレを集団で行う認知機能の維持向上に向けたプログラムを実施すると共に、自宅でも継続して取り組めるよう個別メニューを提示し、習慣化を図ることで、対象者の認知機能の維持向上を目指して実施しております。

質問の要旨2でもお答えしましたが、本町の要支援1から要介護1の軽度の認定者数の割合を他の市町村と比較してみると低い状況にあることから、これまでの介護予防事業の取組の効果は出ているものと分析をしております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 3番、梶原議員。

○議員（3番 梶原 誠二君） 3番。今、質問要旨3についてお答えいただきましたけども、本町の介護予防事業は通所型サービスのAとしてにしきお元気クラブ、Bとして地域の縁がわ事業、Cの元気が出る学校の3つの事業展開し、要介護1等の軽度の認定者数の割合が他市町村と比べて非常に低いということを言われました。それが介護予防事業の効果であるということを言われております。ということですが、要介護認定者総数に対する要介護度別人数の割合を、これも熊本県高齢者関係資料で見ますと、令和4年9月現在で要介護1は県全体では30.2%、要介護1が多いということですね。本町は8.9%、非常に他市町村と比べて要介護1が極端に低いということです。ただそれに反して要介護3は県全体では17.7%、本町は35.5%、先ほど申したように、このデータの現在では

熊本県ではトップの状況です。非常に要介護3はやっぱり費用を要する介護度でもありますし、この付近が最終的な介護給付費の増額の要因じゃなからうかと思えます。課長も当然捉えているような話をされましたのでその付近だと思えます。

何遍も話しますけども、要介護認定者数の割合は、県や全国的に要介護1の割合が一番高く、ちょっと資料がないですけど、図で言えば一番山になっている状況になっています。本町では要介護3の割合が一番高いということで、要介護3の状態が山になっています、人数の割合がですね。これは本当にこのパターンというのは、全国的に見ても非常に珍しいケース、どうして重度化が急に増えたのかということ、もう少し内容を精査する必要があるかと思えます。このような状況下で認定率が低くても介護給付費は今後も高くなる状況だと思えます。

何度も計画書の話をしてはしますが、計画書の98ページには、令和12年度の介護保険料は月額8,305円になることを予測されております。今の要介護認定者の介護度別割合の状況では、今後も介護給付費は或いはさらに伸びるんじゃないかと考えております。併せて介護保険料も高くなる状況です。

第9期介護保険料で高森町は先ほども申しましたように、介護事業の効果もあって月額7,300円から月額5,000円に熊本県で一番安くなっております。月額2,300円安くなっているということです。要介護認定者数の介護度別割合も高森町とは全く状況が違いますけども、本町の介護予防事業も話があったように、この計画書も見る限りきちんとしっかりとやられております。そして効果も出ております。本町の介護予防事業は運動指導の下に、本当にこうしっかりとしたプログラムで実施されており、事業自体には問題はないと思えます。しかし要介護認定者割合について県及び全国的に要介護1の割合が高く、要介護2、3の割合が低くなっている状況、何遍も申しますように、要介護1が山となつての割合になっているということです。本町においては3が高い状況、これについての要因をもう少し精査されたほうがいいと思えます。それと併せて原因疾病の脳血管疾患が多いということも、通常要介護認定で要介護1、2、3が一番多いのは認知症が要因とすることですけども、認知症も介護予防事業で十分抑制効果ができますので、その付近で取り組むことができると思えます。

何度も申しますように、この要介護3が多い要因を面倒ですけども個別の追跡調査をこれをしてどういう状況でこういうふうになったのかということ、人数的にも令和4年度時点でこれも計画書に書いてありますけども、167人の認定者、現在若干違うと思えますけども、これらの認定者の経過と個別調査を詳細に渡って調べて、要因の特定、或いはその要因に対する対策をやっぱり今の状況では介護保険では多分下がることはないと思えますので、しっかりとこの付近を把握されて、どうして全国、或いは県内他市町村と違うようなパターンになってしまったのか、その付近をもっと調べる必要があると思えます。

先ほど申しましたように、要介護3から急に介護費用は高くなりますので、中度ですけどもこの介護認定の利用者の限度額では3が高くなっておりますので、その付近の数が増えることは、いくら認定率が低くても高くなりますので、その付近を十分に精査、是非していただきたいというふうに思えます。

また今月、高森町の介護予防事業を研修されるということですけども、この事業は全国的にも高評価を受けております。もちろんインターネットにも詳細な資料が載っていますけども、本町にも同じような基盤は実際既に存在しております。高森町が言っている通いの場というのは公民館改修、これを本町でも二十何ヶ所既にされております。その拠点を利用した地域の縁がわ事業も行われており、それを取り組む人たちの支援としてボランティアポイント制度も実際やられております。ただちょっと不足しているのは、それらの公民館という場所、それとその地域の縁がわ事業というふうに提唱されていますけども、内容的にはやっぱりはっきりとした運用するプログラムがないのがちょっと足りないかなと思っているところです。

これからは、それらを活用するための活性化支援策としての実施プログラム、それとそれに係る職員の力量と云いますか、職員の負担もあると思えますけれども、こういった特に介護予防事業は地域づくりと似たようなものがありますので、そういったやっぱり住民を引っ張っていくような取り組み方が必要だと思えます。

健康づくりも介護予防も最終的には住民の意識づくりがキーポイントになると思えますので、地域の縁がわ事業の活性化支援のためのプログラムを是非計画的につくっていただき、まず当初はそれにただプログラムを提供するだけでなく、住民の中にどっぷりと入り込み、最低でも3年ぐらひはそのプログラムが実行されるように引っ張っていくような、ちょっとハードなプログラムの取組になりますけれども、やっぱりそのくらいの意気込みでやはりやっていると、なかなかこの上がり切った介護給付費は抑えることができないと思えますので、是非そういった取組をこの研修の中で学んでいただき、実践に向けていただきたいと思いますというふうに思えます。

介護予防事業を行う予算は、年間約4,500万円程度が当てられております。地域支援事業という名目で行われておりますけれども、その財源の50%もやはり介護保険料です。介護保険制度以来、最高の介護保険料となりましたけれども、介護給付費の適正化をはじめ、地域包括支援センターを含む業務執行体制を抜本的に見直し、是非この高騰した介護保険料を高森並みに下げるような努力をしていただきたいと思います。まず何度も申しますように、うちの要介護度区分が全国と違うような特徴がある、これを早急に分析されて、それを取り組んでいただきたいと思います。ちょっと時間が足りなくなりましたが、こういった事業の取組について、簡単に町長のお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（荒川 孝一君） 森本町長。

○町長（森本 完一君） 今まで県下で一番低いつて言うんですかね、その介護保険料でございましたけれども、今回9期が今度は逆にその上げ幅も一番幅が上がって、全体でも県下でも上から5番目ほどの介護保険料になっている。これはやっぱりしっかりと分析をして、その対応をしていかなければならないと思っております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 3番、梶原議員。

○議員（3番 梶原 誠二君） ありがとうございます。これで私の質問を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 3番、梶原誠二議員の一般質問が終了しました。

○議長（荒川 孝一君） 本日予定されました日程が全部終了しました。

これにて、令和6年第2回錦町議会定例会3日目の会議を散会します。

午後4時35分散会

令和6年 第2回 錦町議会定例会議録 (第3号)

招集年月日	令和6年 6月11日	招集の場所	錦町議会議場		
開閉会日時及び宣告	開議 閉会	令和6年 6月14日 令和6年 6月14日	午前10時00分 午後 1時36分		
出席及び欠席議員	議席 番号	氏 名	議席 番号 氏 名		
出席議員 12名	1	出 谷 口 一 也	10 出 金 山 民 幸		
欠席議員 0名	2	〃 丸小野 聖 一	11 〃 高 田 孝 徳		
凡例	3	〃 梶 原 誠 二	12 〃 荒 川 孝 一		
出 出席	4	〃 早 田 和 彦			
欠 欠席	5	〃 吉 田 眞 二			
公欠 公務欠席	6	〃 石 松 まゆ子			
	7	〃 竹 田 農利人			
	8	〃 岡 田 武 志			
	9	〃 池 田 秀 晴			
会議録署名議員	10	金 山 民 幸	11 高 田 孝 徳		
職務のため議場に出席した者の職、氏名		議会事務局長 蓑 田 和 也			
地方自治法第121条第1項の規定により説明のため出席した者の職、氏名					
職	氏 名	職	氏 名	職	氏 名
町 長	森 本 完 一	住民福祉課 長	山 園 琢 磨	農林振興課 長	有 瀬 耕 二
副 町 長		保険政策課 長	吉 田 誠 二	地域整備課 長	上 野 陽 一
総務課長	深 水 英 雄	健康増進課 長	東 貴 志	農業委員会事務局長	高 波 昌 一
教育長	毎 床 三喜男	税務課長	蓑 田 俊 哉	教育振興課 長	尾 方 良 一
会計管理者	白 川 裕 美	企画観光課 長	岩 尾 和 文		
議 事 日 程	別紙のとおり				
会議に付した事件	別紙のとおり				
会 議 の 経 過	別紙のとおり				

議事日程

- 日程第1 一般質問
  - 日程第2 議案第46号 令和6年度錦町一般会計補正予算（第1号）
  - 日程第3 議案第47号 令和6年度錦町介護保険特別会計補正予算（第1号）
  - 日程第4 議案第48号 令和6年度錦町水道事業会計補正予算（第1号）
  - 日程第5 議案第49号 令和6年度錦町下水道事業会計補正予算（第1号）
  - 日程第6 議員派遣の件について
  - 日程第7 委員会の閉会中の継続調査申し出について
-

本日の会議に付した事件

- 日程第1 一般質問
  - 日程第2 議案第46号 令和6年度錦町一般会計補正予算（第1号）
  - 日程第3 議案第47号 令和6年度錦町介護保険特別会計補正予算（第1号）
  - 日程第4 議案第48号 令和6年度錦町水道事業会計補正予算（第1号）
  - 日程第5 議案第49号 令和6年度錦町下水道事業会計補正予算（第1号）
  - 日程第6 議員派遣の件について
  - 日程第7 委員会の閉会中の継続調査申し出について
-

午前10時00分開議

○議長（荒川 孝一君） 定刻となり、出席議員が定足数に達しておりますので、ただ今から令和6年第2回錦町議会定例会4日目の会議を開きます。

本日の日程は、お手元に配付してあるとおりであります。

日程第1. 一般質問

○議長（荒川 孝一君） 日程第1、ただ今から一般質問を行います。

本日は、6番、石松まゆ子議員、4番、早田和彦議員の予定です。

6番、石松まゆ子議員の一般質問を許可します。6番、石松議員。

○議員（6番 石松まゆ子さん） 皆様おはようございます。6番議員の石松まゆ子でございます。議長のお許しをいただきましたので、通告書に従い、一般質問をさせていただきます。

本日は、大変お忙しい中に、あいねっと放送をお開きの皆様方に、心より感謝申し上げます。6月に入り、毎日暑い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。農繁期とあって大変お忙しい毎日のことと思います。トラクター、田植機などの農耕車の事故が多発しております。けががないよう、また、熱中症にも気をつけて仕事に頑張っていたきたいと思います。

熊本県内で、災害関連死を含む273人が犠牲となった熊本地震から8年2ヶ月が過ぎました。また、令和2年7月豪雨から4年になります。能登半島では、熊本地震や豪雨災害を経験した若者たちが被災者に寄り添う支援をされております。私の友達や子ども食堂を頑張っているボランティア連絡協議会の仲間も、恩返ししたいと石川県に足を運びました。

今どこかで災害が起きております。誰もが被災者になるかもしれません。明日は我が身です。亡くなられた皆様に心よりお悔やみ申し上げますと共に、足を運ぶことはできませんが、買物をして小銭が出たときには、義援金箱に心ばかり入れるように心がけているのが私なりの復興支援であります。一日も早く復旧復興を願っております。

今回の一般質問通告書には、総務、整備に関わる項目を掲げております。事項1といたしまして、「過去の質問より災害備蓄について、南部農道について」、事項2といたしまして、「自立持続可能性自治体に向けた錦町の取組について」を質問させていただきます。過去の質問については、何回も質問させていただいたことではありますが、確認と、しっかり取り組んでいく私の決意を含めて、再度質問をさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

まず、登壇席より1項目めを質疑し、ほかは質問席より順次、質疑させていただきます。

能登半島地震から5ヶ月が過ぎたところですが、日本農業新聞を含め、全国20社の新聞社は、今回、農業者を中心に合同アンケートをされております。アンケートの中で、地震など大規模災害に備え、農業経営や家庭で実践していることをアンケートで聞き、それを種類別に回答を分けて集計してありました。最も多かったのは、米・味噌など食料や、水・燃料を含む備蓄。次に、農業経営者向けの収入保険を含む保険、発電機・蓄電機などです。前にニュースの中で、農家が自宅に保存していた米や野菜などを被災者に提供して自給自足をしていたということが、テレビありましたが、これが農村を支える共助の力だと思いますし、自分の命は自分で守る自助であります。私も過去の災害を教訓として、少しですが、備蓄をしているところであります。

そこでお尋ねしますが、災害備蓄について、錦町には、西、一武、木上の備蓄倉庫、にしき園、道の駅錦備蓄倉庫など5ヶ所があり、食料・水・生活用品・ブルーシートや防災用資材などを備蓄していると伺っておりますが、今の災害備蓄の状況の中で、実際どのくらいの災害に対応できるのか、人数とか期間をどのように想定されて対応されているのかお尋ねいたします。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） ただ今の御質問にお答えいたします。

国の防災基本計画においては、地方公共団体は、初期の対応に十分な量の物資の備蓄に努めると位置づけております。災害が起ってから3日間は、家庭などの備蓄や被災自治体における備蓄で対応することを想定しておりますので、町においても熊本地震などの大きな災害を想定し、備蓄を進めているところです。

具体的な人数につきましては、大きな災害が起こった場合は、各避難所を開放して、その避難所に数百人規模の避難者の方が来られると思いますので、そういった方々に対応するような形での備蓄を進めているところです。食品については、御飯類が1,600食、麺類が1,100食、スープ類が760食などとなっております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 6番、石松議員。

○議員（6番 石松まゆ子さん） 6番。ありがとうございました。3日間ということでございましたけれども、能登半島地震では、道路の寸断とかそういうことで人員とか物資の輸送が困難だったりしたことであって、なかなか届かなかった。また、避難所に行けない人、障がい者とか持っておられる方は、なかなか避難所に行けなかったということで、在宅避難をされていた方が多かったと聞いておりますが、そういうところには、なかなか物資が届かなかったと聞いております。

町としても、いろんな角度から、支援が届くまでの間に対応する分の備蓄の強化などを事前に備えをしていただきたいと思いますのでございます。

次に、災害備蓄の食料品の管理についてお尋ねいたします。

有効期限が過ぎた備蓄物資の取扱いについては、防災訓練で使用したり、生活支援の観点から社会福祉協議会での利用とか、水などは排水用で使用されると聞いております。備蓄倉庫内の整理とか配列は、どのように行っているのか、また、備蓄してあるのは誰にでも分かるようになっているのか、どのくらいの人が、鍵などもあると思いますが、どのくらいの方が知っておられるのかお尋ねをいたします。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） ただ今の御質問にお答えいたします。

備蓄物資については、西、一武、木上各地区の防災倉庫や道の駅錦の防災倉庫などに分散配備をしているところでございます。

中の整理状況ですけれども、表に、箱に種類が、スープ類でありますとか御飯類、名称が書いてございますので、それをそれぞれ分かりやすいような形で分けて、整理をしているところです。その他の物資につきましても、扇風機でありますとか発電機等々もありますので、そういったのを区分しながら整理をしているところです。

また、この防災倉庫の鍵につきましては、総務課のほうで一括管理をしております、今のところは特に総務課職員以外の方が、その倉庫に立ち入るといような状況は、今のところなくて、総務課のほうで一括管理、担当のほうでしているような状況です。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 6番、石松議員。

○議員（6番 石松まゆ子さん） 6番。ありがとうございます。分かりやすいように整理をされていて、総務課のほうで鍵を持っておられるということですが、なるべく多くの方が、職員の皆さん方だったら分かるようにしていただければと思っております。

次に、過去の質問の中で提案をさせていただいたことですが、いつ起こるか分からない災害が本当に起きております。今回の能登半島地震でもですけど、前も熊本地震でもそうございましたけれども、交通も寸断されたり、断水をして水道が出ない状況の中で、災害時に避難所や自宅での慣れない生活で一番大変なのは、高齢者とか子どもたち、障がい者の人たちだと思っております。特に、妊産婦や乳児には、心身の健康に本当に影響が大きいのではないかなと思っております。

そこで、国は、2019年から液体ミルクの普及活動に取り組み、安心して子育てができる環境整備をされております。私は、前回、粉ミルクなど必要な乳製品を準備することを進めながら、液体ミルクを備蓄していただけないかと質問したところでありますが、近隣の町村の動向を見ながら検討するという答弁でございましたけれども、その後の状況についてお尋ねをいたします。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） ただ今の御質問にお答えいたします。

液体ミルク導入についての御提案をいただきまして、当時、避難者の方から、具体的な液体ミルクについての備蓄について、お尋ねとか要望は、特にはなかったんですけども、乳児を子育て中の方にとって液体ミルクは非常に便利ということで議員からの御提案ありましたので、その年の1月、令和4年度に導入をいたしております。

消費期限が、やはり液体ミルクということで短いということで、18ヶ月、1年半で期限が切れるということで、今年度の7月末に消費期限が、また来ますので、入替えの予定等をしているところです。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 6番、石松議員。

○議員（6番 石松まゆ子さん） 6番。ありがとうございます。備蓄の一つに備えをしていただいたということで、本当に理解していただいたものと思っております。

しかし、今答弁をいただいたように、液体ミルクの期間というのが短くて、賞味期間が間近になっているということですが、前回は、そういう間近になったミルクを保存する方法として、保育所との連携しながら給食と、必要な量を確保する、ローリングストックという方法で活用することによって、もう無駄にもならないし、災害のときには避難所で使用したらということ提案をさせていただいたところですが、今回の備蓄の中に、その液体ミルクを入れていただいた、もうすぐ期間が来るということですが、破棄しない管理方法とか活用方法を、どのように考えておられるのかお尋ねをいたします。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） ただ今の御質問にお答えいたします。

先ほど、議員から消費期限が間近なものについては、先ほどおっしゃいましたけど、社会福祉協議会で御利用いただいたりとか、あとは防災訓練で使用したりというふうなものを想定しておりました。

この液体ミルクについては、特にどういった形でというのは、具体的には、やはり社会福祉協議会とかで活用いただくのかなというふうにも思っていたのですが、保育園での活用もできるということなので、そういったことも参考にしながら進めていければと思っております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 石松議員。

○議員（6番 石松まゆ子さん） 6番。ありがとうございます。私も保育所の給食などで使いながらしていく。この液体ミルクは高齢者の方にも非常に栄養になるということですので、そういう活用も考えていただければと思っております。

次に、女性や妊産婦向けの用品や乳幼児向けの備蓄状況についてお尋ねをいたします。

令和6年2月の新聞に、市区町村の備蓄状況調査の中で、「妊産婦、乳児用備蓄進まず」という記事がありました。2022年末時点で離乳食を備蓄していたのは、全市町村の14.3%、妊産婦用の衣類は0.5%。調査対象の20品目のうち16品目が30%を下回っていたとありました。

このように災害時に避難生活を送る女性や妊産婦、また、乳幼児向けの用品について、全国自治体で備蓄が進んでいないことが出ておりますけれども、錦町の備蓄状況についてお尋ねをいたします。それが1点ですけれども、もう1点、また、災害時に女性が防災部署に配属されていないために、なかなか女性の声が届かないことが、今問題になっております。熊本地震でもそうでしたけれども、今度、能登半島地震でも、そういうことをテレビで報道がっております。

やはり女性の視点の欠落というのは、ニーズの把握や、どういうものを準備して、どういうふうにしたらいいのかというの分かりませんので、物資の備蓄の遅れにもつながっているんじゃないかなと思っております。

今、国の第5次男女共同参画基本計画においては、防災復興の現場での女性の視点での対応が求められております。特に、地方防災会議の中への女性登用は、30%を目標とされております。前回質問をしたところでもありますけれども、錦町のガイドラインづくりも、まだできていないということでしたが、女性の比率もなかなかできていないと、防災組織の中に女性が入っていないということでしたが、今、女性の比率とガイドラインの仕組みづくりは、今どういうふうになっているのか、2点についてお尋ねをいたします。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） ただ今の御質問にお答えいたします。

まず1点目の、女性や妊産婦向けの用品、乳幼児向けの備蓄の状況ということですが、こちらにつきましては、女性用の生理用品でありますとか、子ども用の紙おむつ、液体ミルクなどは備蓄をしておりますけれども、先ほどございました妊産婦向けの衣服ですかね、そういったものについては、まだ備蓄のほうはしていない状況でございます。

また、避難所での状況ですが、熊本県の避難所運営マニュアルにおきましては、国のガイドラインなどの改正に基づいて、女性の視点を踏まえた避難所運営、性的少数者への配慮、子どもの居場所確保など、新たな視点が追加をされております。町の避難所運営マニュアルにおいて、女性の視点も若干触れてはいるところではございますけれども、県のガイドラインに沿った女性の視点を踏まえた今後の改定も必要と考えているところです。

避難所運営につきましては、女性職員のほうにも相当入っていただいております、今のところ男女比率は4割程度となっております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 6番、石松議員。

○議員（6番 石松まゆ子さん） 6番。今、4割程度と言われましたけれども、この防災会議の中には、女性は入っておられるんですか。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） お答えいたします。

防災会議委員につきましては、こちらが熊本県の地方気象台でありますとか、国交省、県職員、あとは地方ダム管理事務所や警察署、消防署など、関係機関から推薦いただいている方がほとんどでございます、今のところ女性の方は、この中には入っていないという状況です。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 6番、石松議員。

○議員（6番 石松まゆ子さん） 6番。ありがとうございました。女性用の備蓄なんですけれども、やはりなかなか生理用品などは、できておりますけれども、やはり妊産婦の女性の方が安心して避難所などに避難をされるように、できれば子育て世代から安心できる備えをしていただきたいと思っておりますし、このガイドラインは、女性の比率というのも、やはりその防災会議の中にも30%を目標にされておりますので、できれば女性の登用をお願いいたしまして、女性の視点に立った防災体制づくりというのも考えていただく必要があると思っておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、災害用の備蓄物資の利活用の提案の中に、小中学校の女子トイレの中に消費期限の近いものからローリングストックの方法で、生理用品の設置を要望したところであります。結果、昨年1月末に、各小学校に700枚、中学校に2,900枚を配布され、それぞれの学校の判断の下、実施されております。

質問の中で、備蓄物資の対応では、更新があるときとないときとありますので、予算措置も含めてお願いしたところですが、そのときには、しっかりと対応をしていくという答弁でございましたけれども、その後の対応についてお尋ねいたします。

○議長（荒川 孝一君） 深水総務課長。

○総務課長（深水 英雄君） ただ今の御質問にお答えいたします。

女性用の生理用品につきましては、議員の御提案がございまして、令和4年度に入替えを行っております。学校においても、そういった形で御利用いただいているところです。

今のところ、令和4年度に新しく確保しておりますので、今年度については予算措置などしておりませんが、在庫状況を見ながら、そういった措置については判断していきたいと考えております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 6番、石松議員。

○議員（6番 石松まゆ子さん） 6番。ありがとうございました。

教育委員会のほうにお尋ねしますが、一武とか木上のほうが、まだされていないというふう聞いておりますけれども、そここのところは、教育委員会として、どういうふうな対応で学校のほうに伝えられているのか、ちょっとお聞きいたします。それと、学校のその状況についてお尋ねをいたします。

○議長（荒川 孝一君） 尾方教育振興課長。

○教育振興課長（尾方 良一君） ただ今の御質問にお答えいたします。

昨年1月に備品の活用を行いまして、議員から御紹介ありましたとおり、小学校に700枚、中学校に2,900枚を配布して活用いただいております。

状況としましては、一武小と木上小においては、保健室に常備配置の上で、必要な児童がもらい受ける方法という形で対応を取っております。西小学校と中学校については、トイレに数枚ずつ設置して、自由に利用できるように設置をしている状況にあります。

教育委員会としましては、各学校の校長の判断の下で、設置に関しては決定をさせていただいておりますので、校長会の折に、その設置に関して、校長宛に、可能であればトイレに設置をいただきたいということで御案内をしたところです。その結果、西小と錦中だけが、各トイレに数枚ずつ設置されているという状況にあります。

養護教諭から聞き取りを行ったところですが、小学校においては、やはり利用者がそれほど多くないというような状況の中で、配布した生理用品が、まだ大分残っている、多数残っているという状況があります。そういったところから、追加の要望は、今のところありません。

一方、中学校においては、使用はされておまして、ただ、在庫として残り2,600枚ほどということで、300枚ほどは利用がなされております。したがって、当分の間は追加の要望はないようです。

状況として確認しましたところ、錦中学校においては、3ヶ所のトイレ、校舎内にあります多目的トイレ、それから校舎外のテニスコート側の屋外トイレ、それから体育館内にありますトイレ、この3ヶ所に、それぞれかごに入れて設置をしておまして、なくなったら生徒が取りに来るというような状況で設置がなされております。

西小については、2階の東西2ヶ所のトイレを設置箇所としてありますけれども、5年生が利用する東側については、女性用トイレ4ヶ所のうちの1ヶ所にだけ、袋に入れて個室に設置がしてあると。6年生が利用する西側のトイレについては、4ヶ所のうちの2ヶ所だけ同じように袋に入れて設置がなされているという状況にあります。それぞれ必要に応じて利用できるような状況にはなっているかというふうに判断しているところです。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 6番、石松議員。

○議員（6番 石松まゆ子さん） 6番。ありがとうございました。今、当分の間は足りているということでございましたけれども、本当に小さいことかもしれません。しかし、女性にとっては本当に大変なことでもありますし、やはり子どもたちが安心して学校生活を送れる、そういう環境づくりというのも子育て支援の一つではないかなと思って

おりますので、もしなくなった場合には、しっかりと予算を組んでいただいで対応していただければと願っているところでございます。

次に、錦南部農免道路の進捗状況についてお尋ねします。

この南部農道については、もう「くどい」と言われるくらい質問をしております。しかし、これは町民の皆様方の要望でもありますし、私もそれだけ重要と考えているところであります。

錦南部農免道路は、平成7年から始まりまして、まだ28年たった今も開通していないところであります。一日も早い完成を願っておりますが、前回の答弁では、令和5年度完成予定でございましたが、用地交渉の難航により、令和6年度完了予定と伺っておりますが、県の事業でありますので、進捗状況をもう一度お尋ねをいたします。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） 錦南部5期地区、農道整備事業の進捗状況についてお答えいたします。

令和5年度末で、残りの事業が、用地取得1ヶ所、路盤工255メートル、舗装工1,119メートルとなり、事業費ベースで91%の進捗となっております。難航しておりました用地交渉につきましては、先週、裁判所での調停手続が完了し、今後、登記手続に入られます。

令和6年度の事業費については、県は骨格予算となっておりますので、6月議会において工事費が計上されますが、本年度は用地取得及び路盤工255メートルを計画されております。完了予定は、令和7年度と伺っております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 6番、石松議員。

○議員（6番 石松まゆ子さん） 6番。ありがとうございました。令和7年には開通するというところでございますが、前回、私は利便性を考えると、219号線下、錦湯前線につなぐ幹線道路の考えをお尋ねいたしましたところ、狩政線の拡幅工事は、通学路の安全対策メニューとして実施していることから、通学路となっていない南部農道までの接続区間の約300メートルは設計はまだできていない状況ということでありました。しかし、南部農免道路の完成予定までには接続完了できるよう進めていきたいという答弁でございました。

また、そして町長も、狩政線の今の整備が終わると、それを真つすぐ上げていくのがベストではないだろうかということをおっしゃっていただいておりますけれども、町としては、この南部農道につなぐ路線として、現在どのような計画を考えているのかお尋ねをいたします。

○議長（荒川 孝一君） 上野地域整備課長。

○地域整備課長（上野 陽一君） ただ今の質問にお答えします。

町道狩政線につきましては、質問議員言われましたように、現在、国の交付金を活用した事業で通学路の安全対策メニューを活用し、事業を進めており、今年6月までに、町道工業団地線の交差する地点から約760メートルまでの区間が完了することとなっております。

それから先の南部農道に接続する区間までの整備については、通学路の安全対策メニューが使えないため、社会資本整備総合交付金を活用して整備することになりますが、同交付金については、町道松里永野線や町道平野線の道路改良事業など、大型の公共事業を抱えておりますので、まずは、そちらを優先し、町道狩政線については、南部農道が整備されるのを待って、早くとも令和8年度から実施できるよう進めてまいりたいと思います。

なお、町道狩政線と南部道路の接続箇所についてですが、町道狩政線の現在の工事完了地点から約150メートル行き、そこから南側農道を拡幅して南部農道へ接続する予定としております。全体延長は約290メートルを見込んでおります。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 6番、石松議員。

○議員（6番 石松まゆ子さん） ありがとうございます。今のところ、狩政線の現在の工事完了地点から約150メートル行ったところで南側の農道に今の道を拡幅して、延長290メートルあると思うのですが、そこを接続をするということですかね。ありがとうございます。

今、答弁をいただきました。私は、この錦町の重要路線と考えるなら、2車線道路がいまいじゃないかなと私は考えるところでございます。狩政線というのは、2車線道路は取れませんので、工業団地線を真つぐ南部農道までの接続路線の産業道路の考えも、前回お尋ねしたところでございますが、そのときには現段階では計画はないという答弁でございました。

私は、ルネサスや九州武蔵なども、今回増設をされて大きくなされるということを知っておりますし、JAの本社もありますので、やはり雇用の創出をしている企業の活性化、また企業で働く従業員の利便性も考えると、私は、この2車線道路で南部農道に接続する産業道路というのは非常に重要じゃないかなと考えておるところでございますが、町の考えを、もう一度お尋ねします。

また、先ほどの答弁の中で、狩政線を真つぐ伸ばす計画、そして南側に造るという計画ならば、大型車両とか大型農機具の車両に対して、離合箇所を整備が必要ではないかと考えますが、町の考えをお尋ねいたします。

○議長（荒川 孝一君） 上野地域整備課長。

○地域整備課長（上野 陽一君） ただ今の御質問にお答えします。

町としましては、現在、改良工事を行っております町道狩政線が南部農道をつなぐ主要道路と位置づけておりまして、大変申し訳ございませんけれども、今のところ、町道工業団地線と南部農道を接続する計画はございません。

まずは、南部農道の全線開通、それから町道狩政線との接続工事が完了しまして、その後の大型車の通行状況や一般車両の交通量等を勘案しながら検討する必要があると思っております。

それから、狩政線の離合箇所につきましては、今後、現在の工事完了地点から300メートルほど接続箇所までございますので、そちらの工事で検討していきたいと思っております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 石松議員。

○議員（6番 石松まゆ子さん） 6番。ありがとうございます。なかなか大きな予算も必要、伴いますので、難しい問題ではあると思うんですけども、南部農免道路の令和7年度開通見込みを考えると、南部農道と接続する道路の早期計画は非常に重要と考えておりますので、前向きな検討をしていただきますようお願いいたしまして、次の質問に入ります。

消滅可能性自治体から自立持続可能性に向けた錦町の10年間の政策と、これからの方策についてお尋ねいたします。

近い将来、自治体の4割が消えるかもしれないとあります。これは、経済界有志らでつくる民間組織「人口戦略会議」で、全体の4割に当たる744自治体で人口減少が深刻化し、将来消滅する可能性があるとの推計が発表されております。これは、2050年までの30年間で子どもを産む中心世代である20代から30代の女性が半減する人口分析を根拠としているそうでございます。

また、高齢経済社会研究センターが公表いたしました「子ども人口時計」によりますと、このままで行きますと700年後、私たちは生きておりませんけれども、700年後には日本の子どもは1人になると書いてありました。

自治体消滅どころか国家消滅ではないかなと読みながら思ったところであります。

県内では、18市町村が消滅可能性に位置づけられております。人吉球磨地方では、多良木町、湯前町、相良村、山江村、球磨村で、錦町は若年女性人口の減少率が53%から42%に改善されておりますので、10年前の消滅可能性自治体からは脱却をしており、今回は、「その他」になっております。「その他」というのも、いいことでもありますけれども、どっちともつかんということでございますので、できれば、もうやはり自立持続可能性に向けた自治体というふうになってほしいなと願っているところでございますが、先日には、錦町役場では「人口減少がさらに進んだら」というテーマで職員研修をされているようでございますが、消滅可能性自治体から脱却するため、錦町としては、どのような政策に取り組んできたのか、10年間の具体的な政策と、これから自立持続可能性自治体に向かうためには、どのような政策、方策を進めていくことが大切なのか、考えをお尋ねいたします。

住民福祉課には定住に向けた子育て支援対策、健康増進課には出生率向上に向けた対策、企画観光課には移住につながる対策、それと総括総して人口増に向けた対策についてお尋ねをいたします。

○議長（荒川 孝一君） 森本町長。

○町長（森本 完一君） 自立持続可能性の自治体に向けた錦町の取組はということでございます。質問議員、るる説明がございましたけれども、戦略会議が4月24日でございましたけれども、分類を発表したと。錦町は、「その他」の自治体の、全国の895の中に入ってきたということなんです。前回は消滅可能性の自治体ということでございましたので、いい方向にきたということでは間違いがないと思っております。

私は、戦略会議そのものの、この分析というのは、非常に乱暴な話と思います。人が住む以上、その自治体が消滅することは、まずないと思っております。ただ、やはり真剣に考えていかなければならないのが、人が減っていくということだろうと思っております。

先週の6月5日でしたけれども、今度は厚生労働省が日本の合計特殊出生率を発表しました。それによりますと、国では過去最低の1.2に下がり、少子化の現象が一段と加速しております。出生率の低下は、都市部において、とても低くと言いますかね、最も低い東京都は一応割り込んで0.99人、最も高い沖縄が1.6人、熊本は1.47人でございました。その中でも、我が錦町は1.95人で、熊本県内でナンバーワン、全国で18位でございました。

出生率の低下は、若者が未来に明るい展望が持てないことの表れの一つでもあろうかと思っておりますけれども、先ほどから言いますように、消滅自治体から脱却した、そして先ほど言いますように、県下ナンバーワンの合計特殊出生率、こういうのを見ますと、錦町においては、私は他の自治体よりも皆さん方の頑張りというのがあるんじゃないかなと推測をしております。

しかしながら、人口は今後、確実に減ってまいります。急激な人口減少は、社会機能の維持や高齢化を支える力も弱くなってまいります。そういうことでありますので、やはり若い人たちが、特に若い女性が、この地元に残るような、そういう政策を、真剣に考えてやっていかなければならないと思っておりますし、ただ、それが、このような小さな地方でできるには限りがあると、これは国の政策でありますので、今後においては国のほうに、こういうのをしっかりと要望をしてみたいと思っております。

以下につきましては、担当課長より説明させますので、よろしく申し上げます。

○議長（荒川 孝一君） 山園住民福祉課長。

○住民福祉課長（山園 琢磨君） 錦町の10年間の政策の現状と検証及びこれからの方策についてお答えします。

住民福祉課の所管関係の事業の主なものは、子ども医療費助成が10年間で4億9,400万円を、子宝祝金が10年間で9,300万円を支出しております。令和6年度の児童福祉費の予算は10億4,500万円、子宝祝金

交付事業は1,500万円であります。令和6年度から保育料の無償化を実施し、子育て支援に取り組んでまいります。

また、令和7年度から11年度まで、5年間の第3期錦町子ども・子育て支援計画を6年度で作成いたします。令和5年度で子育て世帯へのニーズ調査を実施しておりますので、定住に向けた子育て対策となるよう、実現可能な政策を作成いたします。また、令和6年4月に設置しました子ども家庭センター機能の充実に取り組んでまいります。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 東健康増進課長。

○健康増進課長（東 貴志君） 質問の要旨「出生率向上に向けた対策」についてお答えいたします。

健康増進課で所管いたします出生率向上につながる施策といたしましては、経済的な支援として、不妊治療費の助成、妊婦健診助成事業の無料回数券の配布、本年度から産後ケア事業として利用料の補助を行っております。

ソフト面での支援といたしましては、安心して妊娠・出産・子育てができるように、保健師・保育士・管理栄養士・歯科衛生士などの専門職による母子手帳交付時の両親学級や個別面談、伴走型相談支援事業といたしまして、出産・子育て応援給付金の手続案内及び妊娠8ヶ月後や産後2ヶ月以内の個別面談、それから、必要に応じ、個別面談を実施しております。

そのほかに、子育て支援策になるかもしれませんが、3ヶ月、6ヶ月、1歳、1歳半、3歳、5歳児の乳幼児健診の実施、子育て世代包括支援事業においては、妊娠期からの受入れを行って、安心して産み育てられる環境の提供を担っていると思っております。

健康増進課においては、少子化対策となる直接的な支援ではなく、後方的な支援ではありますが、今後におきましても、現在行っている支援を継続いたしまして、国や県から打ち出された施策に同調しながら出生率の向上に努めてまいります。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 岩尾企画観光課長。

○企画観光課長（岩尾 和文君） 企画観光課では、まず、移住につながる対策についてお答えいたします。

移住を考える方々に、本町を選択していただくためには、この自然環境や豊富で新鮮な農畜産物等、町の魅力及び暮らしやすさについての情報発信と共に、受入れに向けた各種対策を行う必要があります。

そのため、本町におきましては、令和2年度から総合計画に基づき、移住・定住につながるための関係人口創出に向けた取組を実施しております。短期滞在者向けに移住体験施設の整備や、移住促進・住宅取得費等補助金を創設し、令和4年10月には、本町と様々な形で関わりを持つ町外の方々と継続的につながりを持てるよう、ふるさと住民票制度を導入し、先月末時点で143名の方のお申込みをいただいております。

今後の方針としましては、ふるさと住民票制度を継続していくことで、関係人口をさらに増加させ、つながりを保つと共に、町の活性化にも関わっていただくなど、関係強化を目指していきます。

また、関係人口の創出におきましては、コロナ禍でのオンラインイベント実施等を経まして、顔が見える関係というのが大事であることを改めて認識できましたことから、昨年度、本町にゆかりのある方々と交流を行う「錦会」を熊本市内及び東京都内で実施し、本町の魅力発信ができたところです。

今後におきましても、これまでの取組を継続し、様々な機会を通じて本町の魅力発信を行い、興味を持っていただくよう努めてまいります。

続きまして、人口増対策についてお答えいたします。

国立社会保障・人口問題研究所、いわゆる社人研が4月に公表いたしました令和5年将来推計人口におきまして、本町における2050年の推計人口は6,911人まで減少することでした。本町の人口推移につきましては、平成22年国勢調査で1万1,075人、平成27年が1万766人、直近の令和2年が1万288人で、10年間で787人の減となっております。

過去10年間の政策の現状と検証ということでございましたが、これまで教育支援等を含めました子育て出産支援の充実拡充、移住・定住者に対する助成制度、或いは婚活イベント、結婚・新生活者への支援など様々な対策を講じてきております。人吉球磨全体で見ますと、他市町村と比較して本町の減少率は緩やかなものの、人口増とまでは至っていないところです。

そこで、人口減少問題を各担当課のみではなく、全職員で共有し、様々なアイデアを出していただくため、先月末に人口減少対策に係る職員ワークショップを開催したところです。まずは、若手職員五十数名の参加がございましたが、積極的な意見が数多く出てまいりましたので、取りまとめた後、係長級職員等に共有し、今後の対策を検討していく予定としております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 6番、石松議員。

○議員（6番 石松まゆ子さん） 6番。ただ今課長より答弁をいただきました。町長には、後からじっくりと答えていただきたいなと思っておりましたけれども、課長の前に、本当に子育ての頑張っておられることも、色々聞かせていただきました。

私は、今、この答弁をいただいたように、この人口減少の問題に対して全職員で共有し、様々なアイデアを今後の対策につなげるということ聞きまして、非常にうれしく思ったところであります。

それは、皆さん方、見られた方もいらっしゃるかと思うんですけれども、私は、島根県隠岐郡海士町というところがテレビであっておりました。人口減少が、非常にこう、7,000人から1,950人に落ち込んで、財政破綻寸前というところの町で、町長が、今やらなければいつやると、俺がやらなければ誰がやるということで、職員の皆さん方に、「いいアイデアがあったらアイデアを出さない」と。すると、「僕が責任を持つ」と、町長が責任を持つということを言われて、職員と町長と一丸となって、この人口対策に進められたということテレビであっておりました。それを見ながら、やはり本当に全体で、ここも町民を巻き込んだ政策というものをされたということで、非常に働場の確保、環境づくり、女性が働く場の確保とか、地域の産業の特性を生かしたことをされておりました。本当にこういうこともいいんだと、町全体で取り組まなければ、この人口減というのはなかなかできないんだということ、そのテレビを見ながら思ったところでございます。

そこで町長にお尋ねをいたしますが、町長が非常に出生率に向けた取組、子育て支援に頑張っておられるのは本当に分かっておりますが、人口戦略会議の推計から分析して、先ほどもちょっと言われたんですけれども、地域の特性に応じた対策は、本当に重要と思っておりますが、今回の推計をどのように考えておられるのか、また今後、どういうふうにして町長は進めていかれるのか、再度お尋ねいたします。

○議長（荒川 孝一君） 森本町長。

○町長（森本 完一君） 今回の戦略会議の分析というのは、私たち、議員も含めて皆さん方、一生懸命やってきていただいておりますので、その分析の結果がいい方向に来たということは、今までやってきたことそのものが間違いではなかったかなと、間違いではないなと思ったところでございます。

昨日、10番議員の質問にもございましたけれども、やはりみんなで助け合ってこの町をつくっていく、そういう

のが一番大事だなと思っております。

しかしながら、現実として実際を見たときに、私たちの集落を見たときに、あと10年後、何人子どもがいるだろうかと、そこを考えますと、非常に厳しいものもございます。令和5年では、出生者が、担当の話を聞きますと70名でございました。10年前を見ますと120名ほどおりましたから、3割、4割の減少なんですね。今後、今から先、5年先、まだ進みますので、これをどのようにしていくかということが本当に大事だなと思っております。

今、子ども・子育て、パンフレットがございますけれども、それを皆さん方、今やっておりますけれども、そういうふうには、今の子どもたちは、しっかり、或いはお父さん、お母さん方たちにはしっかりと、そういう支援はやっておりますけれども、今後、若い女性が少なくなっていく、これがやっぱり一番ですので、若い女性が残るような仕事といいますかね、或いは企業といいますかね、それを誘致していく必要があるんじゃないかなと、つくづく思っているところでございます。

今後におきましては、いろんな情報を仕入れながら頑張っていこうと思っております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 6番、石松議員。

○議員（6番 石松まゆ子さん） 6番。本当にありがとうございました。この人口減少の問題は、やはり錦町だけではなく、本当に全国的な問題でもありますので、今、町長が言われたように、みんなで取り組んで、少しでも人口減にならないようにしていかなければならないんじゃないかなと思っておるところでございます。

私も、私の考えとして、今町長も言われたように、やはり女性の働く場の環境づくりというのが、私は一番じゃないかなと。やはり働く場があって、そして楽しい町ならば、やはり女性もそこに来るんじゃないかなと、そこに住みたいと思うんじゃないかなと思いますので、そういうまちづくりをしていただきたいなと思っておるところでございます。

また、私は合併も視野に入れながら、人吉球磨が一体となって消滅しない人吉球磨というのも目指してほしいなと願っております。

私は、これで一般質問を終わります。

○議長（荒川 孝一君） 6番、石松まゆ子議員の一般質問が終了しました。

○議長（荒川 孝一君） ここで休憩します。休憩後は11時10分から開議します。

午前10時56分休憩

午前11時10分再開

○議長（荒川 孝一君） 休憩前に引き続き開議します。

4番、早田和彦議員の一般質問を許可します。4番、早田議員。

○議員（4番 早田 和彦君） 皆様、こんにちは。4番議員、早田和彦でございます。ただ今議長より質問の許可をいただきましたので、令和6年第2回錦町議会定例会、一般質問を行います。今回の定例会でも最後ということで、厳選なる抽せんの上での結果でありますので、その辺は御容赦いただきたいと、そのように思います。

まず今回の質問では、事項1、子ども・子育て支援新制度に伴う保育園の利用できる時間について、事項2、給食センターの広域化の提案について、事項3、タイ捨流の無形文化財指定についての3項目を通告しております。

これよりは、質問席にて順次行いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○議長（荒川 孝一君） 4番、早田議員。

○議員（4番 早田 和彦君） 4番。それでは、質問事項1から、子ども・子育て支援新制度に伴う保育園の利用できる時間について伺います。

最終的なまとめ回答は、保育園保護者から、産休・育休中の利用時間について、急に短時間保育になったと、このことについて理由が知りたいということで問合せがございました。この説明は、保育園側からするのか、或いは行政側からするのかについて、質問事項1のまとめ回答になるかと思えます。

それでは、まず質問の要旨の1、保育標準時間と保育短時間の認定要件について伺います。

○議長（荒川 孝一君） 山園住民福祉課長。

○住民福祉課長（山園 琢磨君） 保育標準時間と保育短時間の認定要件についてお答えいたします。

保育時間の認定は、子どものための教育保育給付を受けようとする保護者の就労状況や疾病、その他家庭の状況による保育の必要性、保育の必要量を勘案し、保育標準時間、保育短時間を認定します。保育標準時間の認定は、フルタイム就労などを想定した利用時間となっており、1日当たり11時間までです。保育短時間の認定はパートタイム就労などを想定した利用時間となっており、1日8時間までです。

就労の場合、就労時間が1ヶ月当たり120時間以上は保育標準時間で、120時間未満であれば保育短時間で認定されます。

就労以外の事由によりますと、例えば、同居親族の介護・看護をしている場合は、付き添いに必要な時間が人によって異なることが考えられることから、保育標準時間認定と保育短時間認定の区分を設けることとなっています。ただし、妊娠・出産・災害復旧・虐待や家庭内暴力のおそれがあるといった事由については、一律に保育標準時間と認定することとされています。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 4番、早田議員。

○議員（4番 早田 和彦君） それぞれ保育等をする時間によって違う、また、就労によっても違うということで、フルタイム就労とパートタイム就労、そしてまた、就労以外等での認定要件が区分されているということで理解をよるしいということでもいいですかね。

それでは、質問の要旨に移りますが、2に移りますが、産休・育休の標準時間から短時間保育になる理由について伺います。

ここで事例がありますので紹介しますと、もともとフルタイム就労で子どもさんを預けていたと。ところが産休に入り、預ける事由が、就労から産後に変更になったから、保育時間は標準時間のままなのに短時間に利用するようになると言われたという事例があります。これを踏まえて要旨の2について伺います。

○議長（荒川 孝一君） 山園住民福祉課長。

○住民福祉課長（山園 琢磨君） 産休・育休中の標準時間保育から短時間になる理由についてお答えいたします。

産休・育休中の保育の給付の期間は、産後8週までとなっております。産後8週までは、産後間もないとして保育標準時間利用最長11時間が保育給付として認められています。家庭での保育が子どもの成長には重要であることから、産後8週後は保育の必要性を認定していない自治体もあります。

錦町では、家庭での保育が子どもの成長には重要であるものの、保育の実情を踏まえ、町で独自に産後の特例利用として認定しています。家庭での保育を支援するための時間を考慮して、町の基準では保育短時間としております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 4番、早田議員。

○議員（4番 早田 和彦君） 4番。ここで、町で独自に産後の特例利用として認定していますということで、今答弁がありましたが、産後の特例利用というのは、どういうことなのか、ちょっとお願いいたします。

○議長（荒川 孝一君） 山園住民福祉課長。

○住民福祉課長（山園 琢磨君） 御説明いたします。

国の制度では、産後8週間までは上の子どもさんの保育を認めておりますが、その後は8週間以降は、上の子どもさんも生まれた子どもさんと共に家庭で保育することを想定しております。錦町では、家庭での保育が子どもの成長に重要であるものの、保育の実情を踏まえて、町で独自に産後の特例として保育を実施しております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 4番、早田議員。

○議員（4番 早田 和彦君） 兄弟でゆっくり預けることができるということで、本町では特別に、特例利用として扱っているということによろしいですかね。これは子育て支援として、非常に保護者の方からしますと助かる制度ではないかなと思います。私たちの場合は、同居親族がおりましたので、そういった、何時まで迎えに行かないといけなと、そういうような縛りはございませんでしたが、平成27年からこういうふうな利用制度に変わったということで、我々も気づいておりませんでしたけど、今の保護者の方々からは、短時間保育と標準保育という、こういった縛りがあっていますということで御理解をいただければなと思いますし、また本町では、特例の利用措置があるということで、非常に内容が濃い制度があるなと思ひまして感心をしたところであります。

先ほどの事例では、色々、錦町は特例があるからということで非常に預けやすくなっているのかなと思いますが、実際は、やはり本町以外、管内でもそうかもしれません、急に標準から短時間に変更をしてくださと言われて、これは非常に戸惑うところもありますし、親族が同居されていなかった家庭とか、あと核家族家庭では、非常に子育てにも厳しくなり、消極的になってくるのかなというような実態があるのではないかと思います。是非こういった特例を利用していただいて、子育てに励んでいただければなと思います。

そこで、標準時間から短時間になるということは、やっぱりありますんですけども、この標準時間から短時間になるというのは、園側から伝えるのか、それとも行政側から伝えるのかを確認をしないとイケないと思いますが、その辺について、どのような措置でされるかなということを、次の要旨の3で伺います。

要旨の3では、保育利用時間変更申請について伺います。

標準時間から短時間、または短時間から標準時間と、状況によっては変わってくると考えられますが、この変更申請については園側からやるのか、それから行政側からやるのか、その辺について、ちょっとお尋ねをいたします。

○議長（荒川 孝一君） 山園住民福祉課長。

○住民福祉課長（山園 琢磨君） ただ今の質問にお答えいたします。

保育の利用は、保護者の事情で保育が必要な事由により認定されますが、それぞれの事由により、認定期間、時間が異なりますので、保育利用の認定事由が変われば、就労や疾病、負傷、求職活動による事由が変わる場合は、その都度、入所申請書を提出していただいております。自営業などで、産後8週後に就労される場合は、入所申込書を提出していただいておりますが、妊娠中か出産後間もないことの事由から、産休・育休となる事案につきましては、出生届の受付の際に、窓口にて産後の特例として認定し、これまでの保育標準時間から保育短時間に認定が変わることについて、窓口で説明を行っております。

また、産後8週を過ぎた月の翌月からの利用につきましては、切替月の2週間前をめぐり、申込み等の利用者の負

担がないよう、職権にて処理を行い、通知を行っております。

保育利用が、保育の必要性、必要量などにより認定をされることから、保育利用時間の変更を行い、認定することは、ほとんどありませんが、出産した子どもが未熟児の場合や、何らかの事情により保育短時間の利用では家庭での保育に支障がある等の場合は、保育の実情を踏まえ、保育標準時間利用とする場合も考えられます。

議員お尋ねの保育短時間の認定につきましては、出生届の手続の際に、窓口のほうで説明を行っております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 4番、早田議員。

○議員（4番 早田 和彦君） 4番。となりますと、手続の窓口は全て行政側ということで。園側のほうでは、そういうことはやらないということよろしいんですか。

○議長（荒川 孝一君） 山園住民福祉課長。

○住民福祉課長（山園 琢磨君） 御質問にお答えいたします。

園側の対応につきましては、個々には把握しておりませんので、園側でやっておられるところもあると思いますが、やっていないところも存在するのかなと思います。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 4番、早田議員。

○議員（4番 早田 和彦君） 4番。一応、このような問合せと申しましょうか、どうなっているのかということが保護者側から出てきたということであるのならば、やはりその辺の理解していただくような十分な説明が、若干不十分でないかなと、そのように思います。

例えば、申請が行政側で、お伝えするのも行政側、これはちょっとなかなか窓口に来られにくいと思いますので、その辺は行政側と保育園側との連携を密にさせていただいて、そういうようなケースには、しっかりとした十分理解いただけるような説明、それから申請を徹底していただきたいなど、そのように思います。

先ほどの6番議員からも出ましたけども、やはり人口関係、人口減とか人口増とか、そういう問題とかもありますので、やはり移住していただいた方、若い世代の子育ての環境を整えるに当たっては、このようなことも、見えないところではありますけれども、丁寧な説明が必要かと、そのように思います。

続きまして、質問事項の2に移ります。

この質問事項の2に、給食センターの広域化の提案について質問をいたします。この広域化については、最後に町長のお考えもお聞きしたいと思いますので、そのときは、よろしく願いいたします。

給食センターは、今各自治体で運営をされております。最近では、山江が、万江と山田にあったのを一つにするということで、生徒数も少ないということになったのかなと思いますが、皆さんも御存じのとおり、管内の児童生徒数は減少傾向でございまして、その中でも、本町錦町は頑張っているほうではないかと思っております。

前回、6番議員の質問のときに、町長もおっしゃいましたが、以前は10年前に130人、140人という生徒がおりましたので、その当時から考えますと40%超ぐらい、錦町でさえ生徒数が減っていると。ほかの市町村に至っては、恐らくそれ以上の減少率ではないかと思っております。その児童生徒数が減っている中、給食センターを各行政で維持していくのは、これから先、将来を見据えた上では、非常に合理的ではないのではないかと考えております。

そこで、今回、質問事項の2に取上げをさせていただきましたが、質問事項2、質問事項3と、教育振興課におかれましては、連続して伺うこととなりますが、まず質問事項の2から入らせていただきます。

今現在、町内には4つの小中学校に学校給食を提供し、児童生徒の健康増進と体位の向上を図ることはもちろん、

食習慣の形成に寄与しておるところであります。

そのような中、本町の給食センターも老朽化ながら大変おいしい給食を、毎日、配食提供していただいているわけです。そしてまた、本町に転任されてきた先生方の話を聞きますと、「一番おいしい給食は錦町ですよ」と、わざと聞きますけれども、いつもそのようにして返事をいただいているところでもあります。

そのような給食センターですけど、先ほども申しましたとおり、生徒数も減少してきておりますので、そういったことを踏まえながら、要旨の1、過去5年間の配食数の推移と今後の配食数の予想について伺います。

○議長（荒川 孝一君） 尾方教育振興課長。

○教育振興課長（尾方 良一君） ただ今の質問にお答えいたします。

給食の配食数についてですが、児童生徒及び教職員など総配食数を基に御報告いたします。令和2年度が1,072食、令和3年度が1,080食、令和4年度が1,074食、令和5年度1,070食、令和6年度1,037食となっており、横ばい、或いは微減ということで推移をしているところです。

今年度以降については、あくまでも推定ではございますが、令和7年度1,030食、令和8年度1,020食、令和9年度990食、令和10年度950食と、年々減少傾向になると考えられます。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 4番、早田議員。

○議員（4番 早田 和彦君） 4番。5年間ぐらいでは、その推移は横ばいから若干の減少傾向となりますけれども、急激な子ども、児童生徒数の減少も、これから予想されますので、大変厳しい数字になるのかなというふうに思います。

給食センターについては、各自治体も老朽化が見受けられますが、比較的その中でも新しいとされる人吉、あさざりについても、やっぱり修繕費の増加傾向が見られるということを伺っておるところであります。

そこで、本町の給食センターも、今年度予算では200万円ぐらい計上されておりますが、要旨の2に、過去5年間の修繕費について、どのようになっているのかお伺いをいたします。

○議長（荒川 孝一君） 尾方教育振興課長。

○教育振興課長（尾方 良一君） ただ今の質問にお答えいたします。

給食センターの維持管理費としての修繕費につきましては、令和2年度180万円、令和3年度250万円、令和4年度130万円、令和5年度180万円で推移し、今年度も議員おっしゃられましたとおり220万円の予算を確保しているところです。例年、200万円前後の修繕が必要となっているという状況です。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 4番、早田議員。

○議員（4番 早田 和彦君） 急な修繕が発生しなければ、年間予算200万円ほどで、何とか修繕をしながら配食等が十分できるということだろうと思いますが、先ほども申しましたけれども、管内では、既に児童生徒数の減少傾向ということで、底が見えているというわけでもありますけれども、今後は、各自治体で給食センターを維持していくのは厳しくなっていくというように考えます。これから将来を思うときに、やはり給食センターの広域化も視野に入れながら運営をしていかないといけないのではないかと、そのように考えます。

そこで要旨の3、給食センター広域化の考えはについて伺います。

広域化、これは私だけではなくて、他市町村の議員さんの中でも、そういった声も、もう出てきているのは、もう事実でありますので、お話しするわけですが、やはり今後を見据えていくと、給食センター運営も広域化をし

たほうがいいのではないかと思います。

そこで、伺ったところ、給食を作ってから喫食するまでが2時間、ここが目安になっているというふうに聞きました。そして、配送、配膳、それから食事までですと、ちょうど1時間と考えますと、ある利用者の方は、人吉から錦町までだったら十分にその時間内に配食することが可能であるということで伺っております。そういったところを踏まえて、この広域化について伺います。

○議長（荒川 孝一君） 尾方教育振興課長。

○教育振興課長（尾方 良一君） ただ今の御質問にお答えいたします。

給食センターの広域化については、今後避けて通れない案件になるかと思われまます。施設の更新などの設備投資に係る費用を考慮すると、今後、各市町村単独での施設の更新や維持管理は困難になると恐れ、おのずと広域化での取組を検討することになると思われまますが、各市町村が所有する施設の建設年度、経過年数などバラバラであり、比較的新しい施設であっても、広域化のために必要となる設備の増設など実施に向けた対策は必要となることから、簡単には進まない案件であることも事実です。

現在、人吉球磨学校給食会や県の共同調理場連絡協議会において、学校給食に関する研修会などが開催されておりますので、今後においては、そのような協議会等の場で検討協議を行うことも必要と思われまます。

一方で、広域化と併せ、配食サービス業者への業務委託の提携を行うことも検討する必要があると思われまます。

今現在、介護施設等への配食サービスを行う調理場を所有されている事業所もあまますし、本町が業務委託している調理・配送業者においては全国規模の事業所であることから、民設民営による給食の提供についてもノウハウをお持ちのようです。民間委託ということも検討することになるかと思われまます。

いずれにしても、安心・安全で安定的においしい給食の提供ができる環境整備と、子どもたちが望む給食の提供が必要というふうを考えられますので、慎重な協議検討が必要と考えているところまます。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 4番、早田議員。

○議員（4番 早田 和彦君） 4番。施設に関しては、それぞれ建設年度も違いまますので、広域化については慎重にならざるを得ないと、私もそう考えまますが、これはやはり先を見たときには、広域化を視野に入れながら給食センターの広域化についてはやっていかないと、やはり厳しい財政状況を考えれば、進めていくべきじゃないかと思いまます。

そこで、町長にお伺いをしたいと思いまます。給食センターの広域化について御意見をいただきたいと、そのように思いまます。

○議長（荒川 孝一君） 森本町長。

○町長（森本 完一君） 今、町村長の中で、そういう議論は一切あっておりまません、給食センター等の広域化についてはですね。ただ、今質問議員おっしゃいましたような将来のことを考えていくと、当然そのような方向に進むことも考えられるなど思ったところまます。

いずれにしても、子どもたちにとっておいしくて安全で安心、そのような方向だろうと思っております。今後、どこと組むかというのもありましようし、錦町は真ん中ですので、どこの町村とも組んでもいいわけですけれども、そういうのをしっかりと検討していくことになろうかと思っております。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 4番、早田議員。

○議員（４番 早田 和彦君） ４番。町長からも御意見いただきましたが、いずれこの問題は出てくるであろうと、私は個人的には思っております。先ほども、ちょっとお話ししましたが、調理後の食品ですね。調理終了後から２時間以内に喫食することが前提で配食搬入との合計時間を１時間で行うことが望ましいと、こう踏まえた上で、それぞれの給食センターがあるのだらうと私も思います。

時間的なことを考えますと、広域化になるならば上、中、下、３ヶ所ぐらいありますと、十分この状況で配食もできるのではないかなと、そのように思います。

また、広域化は、検討も、まだされておりませんが、運営形態が、運営はどうするかとなれば、一応、事務組合とか色々７つぐらい運営形態あるらしいんですけど、一番望ましいのは協議会設立が一番望ましいということであるようです。

熊本のほうでも、荒尾地区のほうで、今度、新しい給食センターができて、協議会設立をしてやるということが決まっておるようですので、もし広域化の話とかそういうことが出ましたら、協議会設立で検討いただきたいなど、そのように思います。

そしてまた、今後も安心・安全な給食を、是非児童生徒さんのほうに配食していただければと、そのように心から思っているところでございます。

それでは、質問事項の３に移ります。質問事項の３については、タイ捨流の無形文化財指定についてを伺います。

タイ捨流については、もう十分皆さん御存じのとおり、丸目蔵人がつくられた示現、新陰流ですね、新陰流を基にした流派の、何て言いましょうか、術、術流といいますが、そういったものですけど。一応、このタイ捨流は、本町が誇る剣術流ではないでしょうかと思います。それを無形文化財に、是非指定いただきたい。

今まで、人物としては、小田夕可さん、それから山北竹任さん、山北さんが恐らくされていますので、この２名の方が、人物としてタイ捨流を継承したという形で熊本県の無形文化財になっておられます。

無形文化財は、歴史的・芸術的に価値の高いと、それから、演劇、音楽、工芸技術の歴史的、芸術的に価値の高いものを無形文化財とするということなので、人物を指定しても亡くなられた場合にはそこで途絶えてしまうというのは、ちょっとタイ捨流を考えたときに寂しいなと思います。

タイ捨流は特徴がありまして、「右半開に始まり左半開に終わる」と。「全て袈裟斬りに終結する」というような独特な流派でございますので、これを是非、無形文化財指定にしていきたいなど、そのように考えておるところでございます。

では、質問の要旨の１、１９６３年に小田夕可が熊本県無形文化財の指定を受けておられました。人物ではなく、タイ捨流自体を無形文化財として指定できないかということでもあります。

先ほども申しましたが、人物としては指定されたことはありますが、無形文化財としては、現在も指定はされていないということで、本町の誇りの武術、派といいますが、そういうことを考えたときに指定をしていただいたほうが、今後のためにはなるんじゃないかと思いますが、ここで資料の写真をお願いいたします。

これは、最近、外国からタイ捨流の門弟さんたちが来られました、３人。桑原家住宅で写真を撮られました。次、またお願いします。

これは、もう門弟さんですから、丸目蔵人の墓で、ちゃんとお参りをしながらされているところの写真ですね。次、またお願いします。

これは門弟さんたちが、その場に座って昼食をされているシーンであります。右端の女性の方が、今の上原エリ子さんですね。一緒になって、このようにして、外国からもわざわざ２週間ほど休みを取って、そして丸目蔵人さんの

墓を参り、そして、剣術の練習をします。

次、この3人の方ですね。外国から2週間も休みを取って来られるんですから、よほどのことだろうと思いますが、このような感じでタイ捨流は、外国にも少しずつでも徐々にであります、浸透しているところでございます。

では、この無形文化財指定について伺いますのでお願いいたします。

○議長（荒川 孝一君） 尾方教育振興課長。

○教育振興課長（尾方 良一君） ただ今の質問にお答えいたします。

タイ捨流は、町指定文化財として登録がなされ、丸目蔵人が創設してから約450年の歴史を有する町の貴重な財産であると思います。

昨年、15代宗家を中心に記念式典も開催され、国内を問わず海外にまで門徒を有し、特に海外には、日本独特の武士道精神を好まれる方もおられ、門徒として稽古に励まれておられます。

7年前には、日本遺産、人吉球磨の構成文化財として認定も受けていることから、今後においては、県指定に向けた取組も必要ではないかと思われまます。

しかしながら、町指定文化財の古武道として、タイ捨流剣法保持者が認定されてはいるものの、現在は保持者不在となっていることから、まずは、タイ捨流剣法を町の無形文化財として指定することが先決であると思われまます。

指定の順序としては、町指定、県指定、国指定と、段階を追って指定がなされていきますので、一足飛びに県指定ということは無理があります。今後、町の文化財保護委員と指定が妥当かどうかを含め、協議してまいります。

県指定文化財に関しては、市町村からの具申が必要でありますし、審議会での審査を経て、指定となりますが、県として登録に値するかどうか、学術的な基礎的資料が整っているかどうかなどの審査が行われるようです。

したがって、丸目家で所有されている様々な遺品等を確認する必要がありますし、基礎資料等が整うのかも含めて、まずは町の文化財保護委員と協議の上、丸目家当主の御意向やタイ捨流宗家の御意向を確認し、今後の対応を検討したいと思います。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 4番、早田議員。

○議員（4番 早田 和彦君） 答弁の中で、保持者不在という言葉が出ましたけど保持者不在というのは、どういうことかなと思います。今、たしか15代は上原さんになっておりますけど、この保持者不在という意味を、ちょっとお聞きしたいんですが。

○議長（荒川 孝一君） 尾方教育振興課長。

○教育振興課長（尾方 良一君） ただ今の御質問にお答えいたします。

御指摘ありました所持者不在ということに関しましては、12代の宗家になられます小田夕可様が県の無形文化財ということでの指定を受けていらっしゃるようです。町の指定文化財としては、その後の第13代宗家、山北様がいらっしゃるときに、指定文化財として町としては保持者という形で指定をしております。

しかしながら、山北様におかれましては、もう既にお亡くなりになっているということでの保持者不在、それ以降、14代、15代宗家の方に関しての文化財指定の認定協議がなされていないという状況かと思われまます。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 4番、早田議員。

○議員（4番 早田 和彦君） 4番。ということは、認定協議を進めていくと保持者は不在にはならない。分かりました。

あと1点、学術的な基礎的資料について、ちょっと伺います。

○議長（荒川 孝一君） 尾方教育振興課長。

○教育振興課長（尾方 良一君） ただ今の御質問にお答えいたします。

私どもも、この質問がありましてから、内容について、ちょっと調べさせていただきました。日本には77流派の古武道がございまして、その古武道の組織されている日本古武道協会というのがございます。その中の各流派の資料等を、ちょっとデータで閲覧させていただきました。

県にちょっと確認をしたところですけど、指定をする際に必要になる学術的な基礎的資料というのは、俗に言う、それぞれの流派がお持ちの目録ですとか伝承記録、或いは、それぞれの世襲といいますか、流派ごとの流れとか、そういうものを記録した各流派ごとの取りまとめた資料データ、そういったものをしっかりと整えてあるかどうかというのが、やはり指定の際の検討材料になっているようです。

古武道協会のホームページを確認した中では、各流派ごとに、そういった様々な技術的な指導書ですとか目録等が残っているかどうかというのが、やはり示されておりますので、そういったところを確認する必要、タイ捨流としての記録が残っているかどうかというのを確認する必要があるのかなというふうに感じているところです。

以上になります。

○議長（荒川 孝一君） 4番、早田議員。

○議員（4番 早田 和彦君） 学術的文献とか資料とか、そういうのが必要になるということですけど、肥前、今の佐賀県のほうには、タイ捨流の文献があるようです。なぜ佐賀県にタイ捨流があるということですけど、これは、こちらのほうから広めるために、肥前の国のほうへ行って教えられたというようなことが書いてございました。

基礎的資料については、どのような感じで保存されているのか、ちょっと私も分かりませんが、恐らく丸目家の中に現存している可能性も高いのではないかなと、そのように思います。

また、町指定から受けるということが、まず始まりだということですけども、是非、町の文化財保護委員さんともお話をさせていただいて、県指定へ向けて努力していただきたいなと思います。せっかく海外でも名前が少しずつも出ていますし、また、海外の方々は、この剣術とかには非常に興味がありますので、そこを大きく宣伝を、PRしながら、錦町の観光、それから資源に、観光資源等にしていただきたいなと、そのように思います。

今回は、私も3項目について一般質問を行いました。是非、今日質問させていただいた無形文化財等についても、それから保育園の子育て支援についても、是非、前のほうに向けていただきたいなと、そのように思う次第でございます。

それでは、これで私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（荒川 孝一君） 4番、早田和彦議員の一般質問が終了しました。

ここで昼食のため休憩します。休憩後は午後1時30分から会議します。

午前11時53分休憩

午後1時30分再開

○議長（荒川 孝一君） 休憩前に引き続き開議します。

日程第2. 議案第46号

日程第3. 議案第47号

日程第4. 議案第48号

日程第5. 議案第49号

○議長（荒川 孝一君） 日程第2、議案第46号令和6年度錦町一般会計補正予算（第1号）から、日程第5、議案第49号令和6年度錦町下水道事業会計補正予算（第1号）についての4議案を一括議題とします。

本案につきましては、去る11日に提案理由の説明が終わっております。

ただ今から本案に対する質疑を許可します。質疑ありませんか。質疑ありませんか。9番、池田議員。

○議員（9番 池田 秀晴君） 9番。211ページの教育振興課長にお尋ねします。

相撲場の撤去の後は、舗装が何かして駐車場にされるわけですか。

○議長（荒川 孝一君） 尾方教育振興課長。

○教育振興課長（尾方 良一君） ただ今の御質問にお答えいたします。

今現在のところでは、土砂を撤去して更地にしました後は、特に舗装等の予定はしておりません。状況によっては、敷砂利等の敷設は必要になるのかもしれませんが、まだそこまでの予算も確保はしていないところです。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） 9番、池田議員。

○議員（9番 池田 秀晴君） 9番。201ページの農林振興課長にお尋ねします。本別府の用水ポンプ設備更新設計業務委託料、これは今の現在の農作業には支障がないような状況なんですか、ポンプ場。

○議長（荒川 孝一君） 有瀬農林振興課長。

○農林振興課長（有瀬 耕二君） お答えします。

現在のところ、まだ動いてはいますけれども、老朽化が激しいということで、今回更新する予定でおります。

以上です。

○議長（荒川 孝一君） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

それでは、討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 討論なしと認め、これで討論を終わります。

よって、これから採決に入ります。

お諮りします。議案第46号令和6年度錦町一般会計補正予算（第1号）については、原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、議案第46号は、原案のとおり可決されました。

お諮りします。議案第47号令和6年度錦町介護保険特別会計補正予算（第1号）については、原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、議案第47号は、原案のとおり可決されました。

お諮りします。議案第48号令和6年度錦町水道事業会計補正予算（第1号）については、原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、議案第48号は、原案のとおり可決されました。

お諮りします。議案第49号令和6年度錦町下水道事業会計補正予算（第1号）については、原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、議案第49号は、原案のとおり可決されました。

日程第6. 議員派遣の件について

○議長（荒川 孝一君） 日程第6、議員派遣の件についてを議題とします。

お諮りします。議員派遣の件については、お手元に配付しましたとおり派遣したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認め、議員派遣の件については、名簿のとおり派遣することに決定しました。

日程第7. 委員会の閉会中の継続調査申し出について

○議長（荒川 孝一君） 日程第7、委員会の閉会中の継続調査申し出についてを議題とします。

各委員長からお手元に配付しました申出書のとおり、閉会中の継続調査の申出があります。

お諮りします。各委員長からの申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、各委員長からの申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

お諮りします。本定例会の議決の結果生じた条項、字句、数字、その他の整理を要するものについては、その整理を議長に委任されたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（荒川 孝一君） 異議なしと認めます。よって、条項、字句、数字、その他の整理を議長に委任することに決定しました。

○議長（荒川 孝一君） 本日予定されました日程が全部終了しました。

これにて、令和6年第2回錦町議会定例会を閉会します。

午後1時36分閉会

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

議 長

署名議員

署名議員